

**川 西 市**  
**男女共同参画に関する**  
**市民意識調査**  
**報告書**



平成24（2012）年3月

**川 西 市**



## 目 次

---

I. 調査の概要	
1. 調査の目的.....	1
2. 調査概要.....	1
3. 回収結果.....	1
4. 報告書の見方.....	4
II. 調査結果の要約	
1. 回収率及び回答者の属性について.....	5
2. 男女平等について.....	5
3. 性別役割分担意識について.....	6
4. 家庭と仕事について.....	6
5. 性と人権について.....	6
6. 男女共同参画施策の周知について.....	7
III. アンケート結果	
1. 回答者の属性.....	9
2. 男女の地位について.....	11
3. 結婚と家庭生活について.....	15
4. 子育てについて.....	26
5. 介護について.....	34
6. 仕事について.....	38
7. ワーク・ライフ・バランスについて.....	49
8. 性と人権について.....	57
9. 男女共同参画施策について.....	73
IV. 自由意見・要望	
1. 自由意見・要望（抜粋）.....	77
V. 資 料	
1. アンケート調査票.....	85



# I . 調査の概要



# 1. 調査の目的

川西市では、平成15年3月に策定した川西市男女共同参画プラン（平成20年3月改定）に基づき、男女が性別に関わらず個性と能力を發揮し、いきいきと暮らすことができる社会の実現に向けて、様々な取り組みを進めている。

平成24年度には、同プランの見直しと、DV対策基本計画の策定を予定していることから、川西市民の「男女共同参画」に関する意識、並びに、「DV」被害の実態を把握し、その基礎資料とするため、当該調査を実施する。

# 2. 調査概要

- (1) 調査対象 : 川西市に居住している満16歳以上の市民2,000人
- (2) 抽出法 : 住民基本台帳及び外国人登録原票（平成23年11月1日現在）から層化二段無作為抽出（対象人数の約1.5%）
- (3) 調査期間 : 平成23年11月9日（水）～平成23年11月30日（水）
- (4) 調査方法 : 調査票による本人記入方式。郵送による配布・回収（ハガキによる督促1回）

# 3. 回収結果

回収状況

	配布数	有効回収数	有効回収率
女性	1,000	599	59.9%
男性	1,000	402	40.2%
合計	2,000	1,027	51.4%

※有効回収数の合計には、性別不詳26人が含まれている。

表1 回答数の性別・年齢構成

項目	16歳～19歳	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳～79歳	80歳以上	不明・無回答	合計	
全体	回答数	21	62	136	156	135	225	203	65	24	1,027
	%	2.0	6.0	13.2	15.2	13.1	21.9	19.8	6.3	2.3	100.0
女性	回答数	14	34	86	109	88	139	90	38	1	599
	%	2.3	5.7	14.4	18.2	14.7	23.2	15.0	6.3	0.2	100.0
男性	回答数	7	28	50	47	47	86	111	26	-	402
	%	1.7	7.0	12.4	11.7	11.7	21.4	27.6	6.5	-	100.0
無回答・不明	回答数	-	-	-	-	-	-	2	1	23	26
	%	-	-	-	-	-	-	7.7	3.8	88.5	100.0

表2 抽出数の性別・年齢構成

	項目	16歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	80歳	合計
		19歳	29歳	39歳	49歳	59歳	69歳	79歳	以上	
全体	抽出数	80	200	317	327	278	346	317	135	2000
	%	4.0	10.0	15.9	16.4	13.9	17.3	15.9	6.8	100.0
女性	抽出数	40	86	164	176	122	188	139	85	1000
	%	4.0	8.6	16.4	17.6	12.2	18.8	13.9	8.5	100.0
男性	抽出数	40	114	153	151	156	158	178	50	1000
	%	4.0	11.4	15.3	15.1	15.6	15.8	17.8	5.0	100.0

表3 母集団の性別・年齢構成（平成23年12月末日現在）

	項目	16歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	80歳	合計
		19歳	29歳	39歳	49歳	59歳	69歳	79歳	以上	
全体	母集団	5,685	14,948	21,226	23,156	17,616	25,110	19,927	9,589	137,257
	%	4.1	10.9	15.5	16.9	12.8	18.3	14.5	7.0	100.0
女性	母集団	2,847	7,597	11,061	11,750	9,416	13,604	10,351	6,017	72,643
	%	3.9	10.5	15.2	16.2	13.0	18.7	14.2	8.3	100.0
男性	母集団	2,838	7,351	10,165	11,406	8,200	11,506	9,576	3,572	64,614
	%	4.4	11.4	15.7	17.7	12.7	17.8	14.8	5.5	100.0

表4 調査時点の川西市の人口  
（平成23年11月1日現在）

全体	総人口	160,725人
	(%)	100.0
女性	女性	83,974人
	(%)	52.2
男性	男性	76,751人
	(%)	47.8



## 【標本誤差】

今回の調査は、標本調査であるので、回答者のデータが市民の意識として十分信頼の置けるものであるかどうかをみる。

調査精度として、比率の推定の標本誤差をみるが、信頼度 95% レベルにおいた場合、これは統計学理論から次のように与えられる。

$$E = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P \times (1-P)}{n}}$$

E：標本誤差

N：母集団の大きさ（川西市民の 16 歳以上の人口）

n：標本の大きさ（回答者数）

P：あるカテゴリについての、母集団での回答率

この式の意味は、求める母集団におけるあるカテゴリ（注目した特性、多くの場合、調査項目と一致）の比率 P が、標本調査で得られた比率 p の前後 ± E の範囲に入っていると判断して 95% 間違いないということである。

### 参考：主要な標本における比率の標本誤差 E（信頼度 95% レベル）【10 歳階級別】

母集団		P (%)	5.0%	10.0%	15.0%	20.0%	25.0%	30.0%	35.0%	40.0%	45.0%	50.0%
137,257		n数	95.0%	90.0%	85.0%	80.0%	75.0%	70.0%	65.0%	60.0%	55.0%	50.0%
全体		1,027	1.3	1.8	2.2	2.4	2.6	2.8	2.9	3.0	3.0	3.0
性別	女性	599	1.7	2.4	2.9	3.2	3.5	3.7	3.8	3.9	4.0	4.0
	男性	402	2.1	2.9	3.5	3.9	4.2	4.5	4.7	4.8	4.9	4.9
性 年 代 別	(女性)											
	10 歳代	14	11.4	15.7	18.7	21.0	22.7	24.0	25.0	25.7	26.1	26.2
	20 歳代	34	7.3	10.1	12.0	13.4	14.6	15.4	16.0	16.5	16.7	16.8
	30 歳代	86	4.6	6.3	7.5	8.5	9.1	9.7	10.1	10.4	10.5	10.6
	40 歳代	109	4.1	5.6	6.7	7.5	8.1	8.6	9.0	9.2	9.3	9.4
	50 歳代	88	4.6	6.3	7.5	8.4	9.0	9.6	10.0	10.2	10.4	10.4
	60 歳代	139	3.6	5.0	5.9	6.6	7.2	7.6	7.9	8.1	8.3	8.3
	70 歳代	90	4.5	6.2	7.4	8.3	8.9	9.5	9.9	10.1	10.3	10.3
	80 歳代以上	38	6.9	9.5	11.4	12.7	13.8	14.6	15.2	15.6	15.8	15.9
	(男性)											
	10 歳代	7	16.1	22.2	26.5	29.6	32.1	33.9	35.3	36.3	36.9	37.0
	20 歳代	28	8.1	11.1	13.2	14.8	16.0	17.0	17.7	18.1	18.4	18.5
	30 歳代	50	6.0	8.3	9.9	11.1	12.0	12.7	13.2	13.6	13.8	13.9
	40 歳代	47	6.2	8.6	10.2	11.4	12.4	13.1	13.6	14.0	14.2	14.3
50 歳代	47	6.2	8.6	10.2	11.4	12.4	13.1	13.6	14.0	14.2	14.3	
60 歳代	86	4.6	6.3	7.5	8.5	9.1	9.7	10.1	10.4	10.5	10.6	
70 歳代	111	4.1	5.6	6.6	7.4	8.1	8.5	8.9	9.1	9.3	9.3	
80 歳代以上	26	8.4	11.5	13.7	15.4	16.6	17.6	18.3	18.8	19.1	19.2	

---

## 4. 報告書の見方

---

- (1) 集計結果はすべて小数点以下第2位を四捨五入しており、比率の合計が100%にならないことがある。
- (2) 複数回答の設問の場合、集計結果の合計が100%を超える。
- (3) グラフ及び表のサンプル数（N数）は、有効標本数（集計対象者総数）を表している。
- (4) クロス集計の表記を 設問 × 設問 としている。
- (5) 年齢階層別のクロス集計の場合、女性については合計値に年齢不詳分を含んでいる。

## Ⅱ. 調査結果の要約



## 1. 回収率及び回答者の属性について

平成 11 (1999) 年に「男女共同参画社会法」が制定されてからすでに 10 年以上が経過しています。川西市においても、平成 5 年に「川西市女性プラン」が策定されて以来、男女共同参画社会の実現に向けた様々な取り組みが推進されており、引き続きこれらの取り組みを進めるにあたって男女共同参画についての市民の実態や考えを把握するために、市民意識調査を実施しました。

今回調査の回収率は 51.4%で、前回調査（平成 17 年度）より 4.5 ポイント高くなっています。

標本は、母集団を代表する形で抽出されていますが、回答数は年齢の高い人が多いことから、その点を考慮して調査結果をみていく必要があります。

そのほかの属性について、性別は女性が 6 割近くに対して男性が 4 割近く、男女ともに既婚者が 7 割以上、家族構成は親と子の 2 世代世帯、夫婦のみの 1 世代世帯が全体の 8 割以上を占めています。

## 2. 男女平等について

川西市における男女の地位についての平等感（問 1）は、すべての項目において男性よりも女性の方が不平等さを感じています。特に家庭生活、法律や制度上、政治・経済活動への参加で女性と男性で 15 ポイント以上の差がみられ、こうした場では依然として根強い不平等感があることがうかがえます。

一方、ジェンダー問題や男女共同参画を学んだり、教えられたりしたこと（問 2）では、前回調査に比べ、男女ともに今回調査の方が学んだことが「ある」の割合が上昇しています。特に女性では 10 歳代（16～19 歳）から 30 歳代で 4 割以上、男性では 10 歳代（16～19 歳）で 7 割、20 歳代、40 歳代で 4 割以上と比較的若い年代において、「学校」や「職場」「新聞やテレビなどのマス・メディア」を通じて学んだり、教えられたりした経験が高く、様々な機会において啓発が進んできていることがうかがえます。

子育てにおいても男女平等の意識は高く、「夫も妻も等分に子育てに関わること」（問 6 ③）を肯定する人は、女性が 86.8%、男性が 82.6%となっています。また、育児休業の取り方において依然として妻が取る方がよいとの考え方が主流となっていますが、「夫も妻も同じように取るのがよい」と思う人（問 18）は女性が 41.4%、男性が 35.8%と、徐々に男女平等意識は高まっていることがうかがえます。

介護の経験（問 7）では、依然として女性の方が経験している人の割合が高く、特に 50 歳代以上で 4 割を超えています。女性において、介護の相手（問 8）は親や配偶者だけでなく、配偶者の親を介護する傾向がみられます。しかし、介護を行う方法（問 9）では、前回調査に比べ、今回調査では「主に自分が介護をしているが、配偶者、子ども、その他の家族などの協力がある」割合が低下し、「サービスなどを利用しながら介護している」割合が女性で上昇しています。これは介護保険法の施行以降、介護保険サービスの充実が進んできており、女性における介護の負担が軽減されてきていることが考えられます。

一方、職場が働きにくいと感じる女性（問 16）が 59.3%と 6 割近くとなっており、雇用の創出や労働条件の改善、保育施設の充実が求められています（問 17）。

### 3. 性別役割分担意識について

前回調査（平成 17 年度）と比べて性別役割分担意識についての男女差が減少しています。前回調査では、性別役割分担意識を示す人が本市の女性が 38.7%、男性が 53.6%と、平成 19 年、平成 21 年に内閣府が行った「男女共同参画社会における世論調査」（以下「内閣府世論調査」という。）の結果と比べても男女差が目立っていました。しかし、今回調査では本市の女性が 32.2%、男性が 40.8%と性別役割分担意識を示す人の割合が低下しています（問 4 ⑤）。

子育てにおいても、「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるのがよい」と思う人は女性が 45.7%、男性が 68.4%（問 6 ⑦）となっています。性別では、女性よりも男性の方が高く、また女性の中でも年齢層の高い人の方が高く、若い世代ほど比較的「そう思わない」と考える傾向があります。

地域活動においても性別により参加している活動の差がみられます。特に「PTA活動」「自治会・コミュニティ等の活動」（問 23）では女性の割合が高くなっています。また、地域の活動においても性差による役割がわかれており、女性は「お茶入れや食事の準備など」の裏方的な役割を担っていることがうかがえます（問 24）。これらのことについては、4 割以上の男女が問題として感じています（問 25）。

### 4. 家庭と仕事について

結婚・離婚感として「結婚しても相手に満足できない時は離婚すればよい」（問 4 ②）において、本市の今回調査では離婚を肯定する人は女性が 48.4%、男性が 42.0%と、男女ともに前回調査より若干低下しています。また、内閣府世論調査では女性で上昇傾向となっており、異なる傾向がみられます。

ワーク・ライフ・バランスの実現では、女性では「『家庭生活』を優先している」人の割合が高く、男性では「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」「家庭生活」「仕事」をそれぞれ優先している人が同水準（問 20）となっています。しかし、希望としては、現実に比べ女性では「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」が高く、男性では「『仕事』を優先したい」割合が低下している一方、「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」が高く、ワーク・ライフ・バランスの実現を希望する人が増えています。特に男性においては、家庭生活や地域・個人の生活でしたいと思うことでは、「家族と過ごす」「家事」の割合が女性とほぼ同水準となっており、仕事だけでなく、家庭生活を意識していることがうかがえます。

女性の働き方（問 15）では、前回調査に比べ、今回調査では男女ともに「結婚や出産で退職し、子育てを終えてから再び仕事をもつ方がよい」が低下し、男性では「子どもができて、育児休業をとるなどして仕事はずっと続ける方がよい」、女性では「結婚や出産までは仕事をもつ方がよい」が上昇しており、意識の変化がうかがえます。

### 5. 性と人権について

周囲に何らかのセクシャル・ハラスメントがあった割合（問 27）は、女性が 24.0%、男性が 16.3%と女性が 2 割強、男性が 2 割近くとなっています。セクシュアル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンス（DV）を男女互いの性に対する人権侵害だと思う人（問 26）は男女ともに 9 割近くとなっています。

DVを経験している人（問 30）については、女性で1割近くとなっており、10歳代（16～19歳）、30歳代、40歳代で比較的多くなっています。DVを受けたときの相談の有無（問 32）では、DVを受けた人のうち半分以上が相談をしていません。していない理由としては、「相談しても無駄だと思ったから」「相談するほどのことではないと思ったから」「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」が4割を超えており、相談先やDVに関するさらなる啓発が必要となっています。

10代の子どもたちへの性と生殖に関する教育では、前回調査に比べ、女性も男性も「間違っ  
た性情報があらゆるところで氾濫しているので、できるだけ早い時期に行なった方がよい」という方  
が増えているが、家庭よりも学校や行政機関などにより進めていくことを求める傾向がうかが  
えます。

## 6. 男女共同参画施策の周知について

法律や市の取り組みなどの認知度（問 37）については、法律やパレットかわにしといった施  
設の認知度は男女ともに高くなっていますが、「女性チャレンジひろば」や「情報紙『せーの！』  
『HOPP』」は女性でそれぞれ9.0%、11.0%、男性でそれぞれ4.9%、7.7%と低くなってい  
ます。

また、川西市男女共同参画センターに希望すること（問 38）について、女性では「『女性の  
悩みごと相談』などの相談事業の充実」「セクハラ・DV被害者への相談・支援」「就労を支援  
する講座の充実」、男性では「セクハラ・DV被害者への相談・支援」がそれぞれ4割を超えて  
おり、こうした相談体制の充実が求められています。



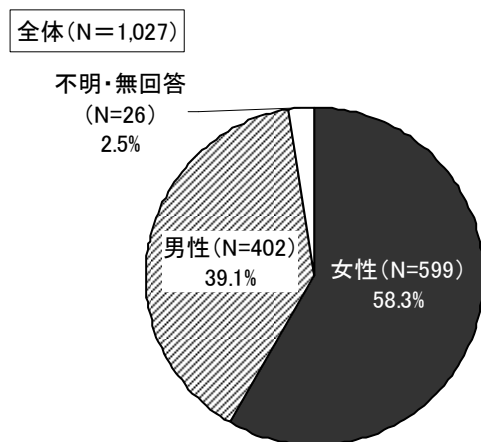


### Ⅲ. アンケート結果

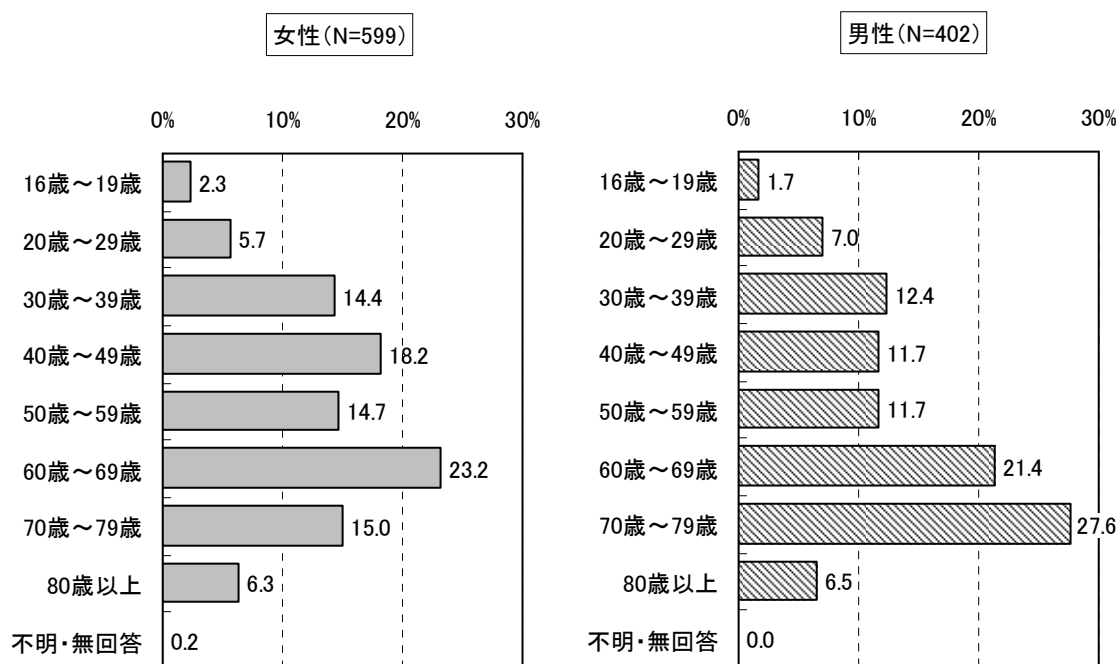


# 1. 回答者の属性

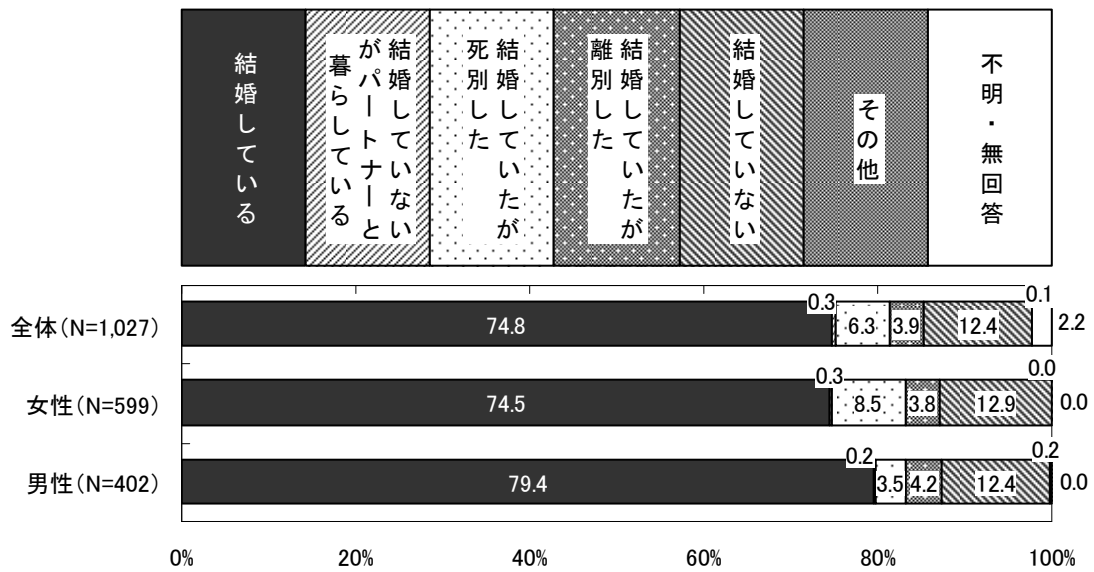
## ◆あなたの性別（自認する性でもけっこうです）（単数回答）



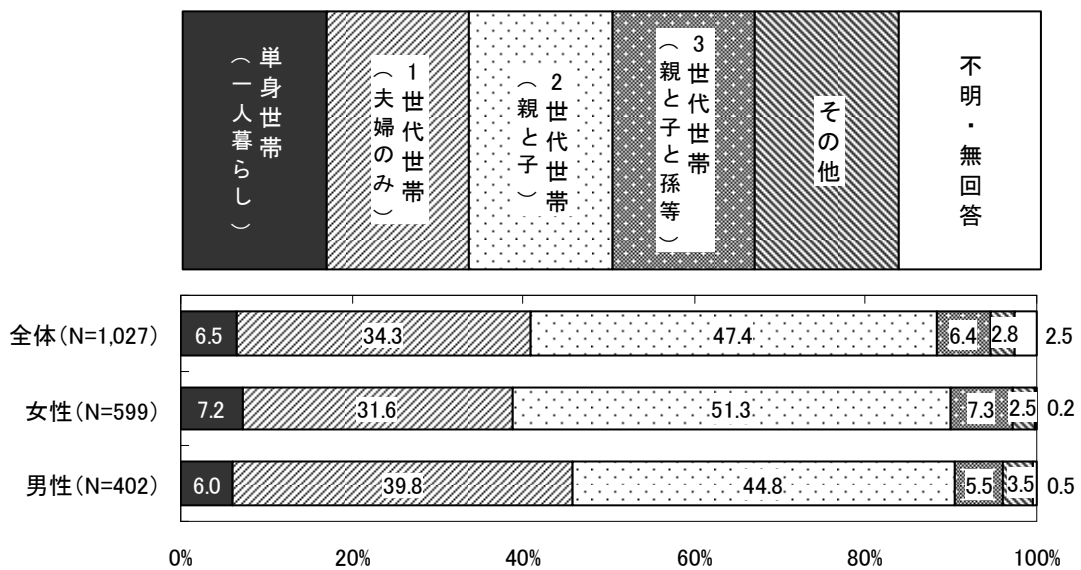
## ◆あなたの年齢（単数回答）



◆あなたは結婚していらっしゃいますか。(単数回答)



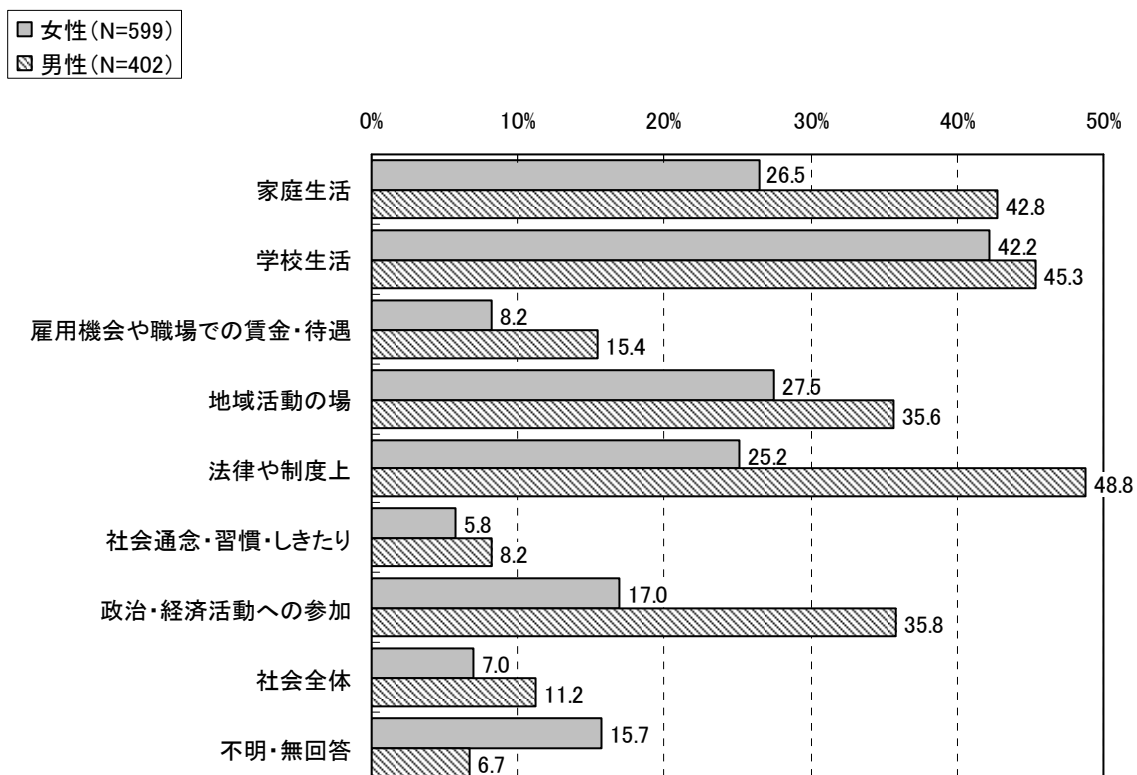
◆あなたが同居している家族の構成 (単数回答)



## 2. 男女の地位について

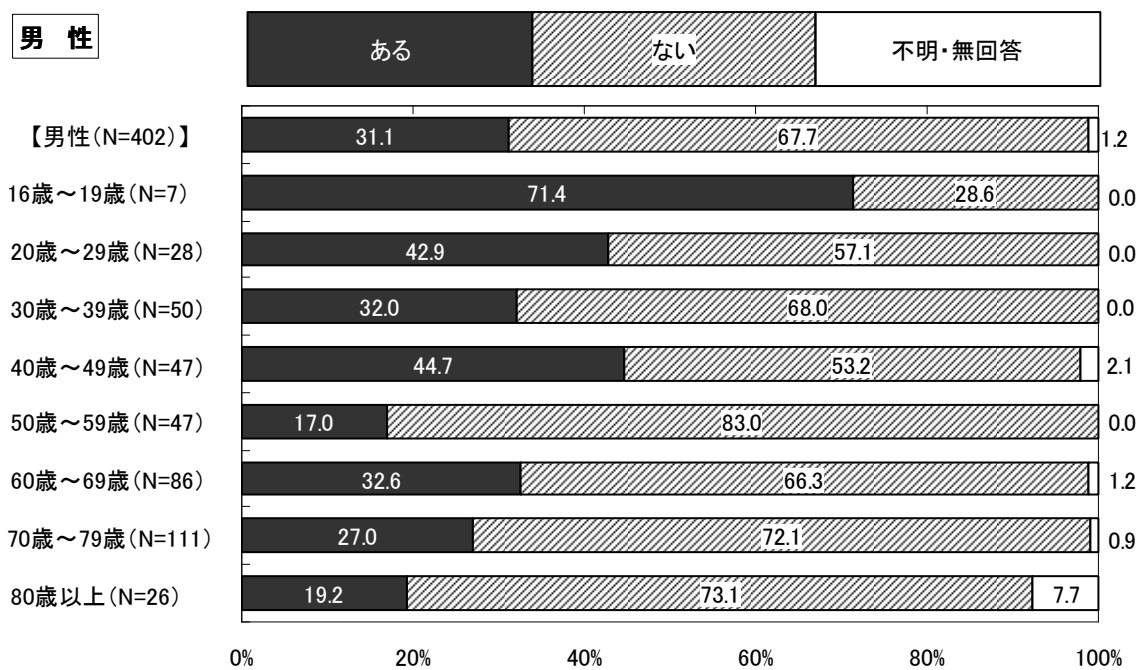
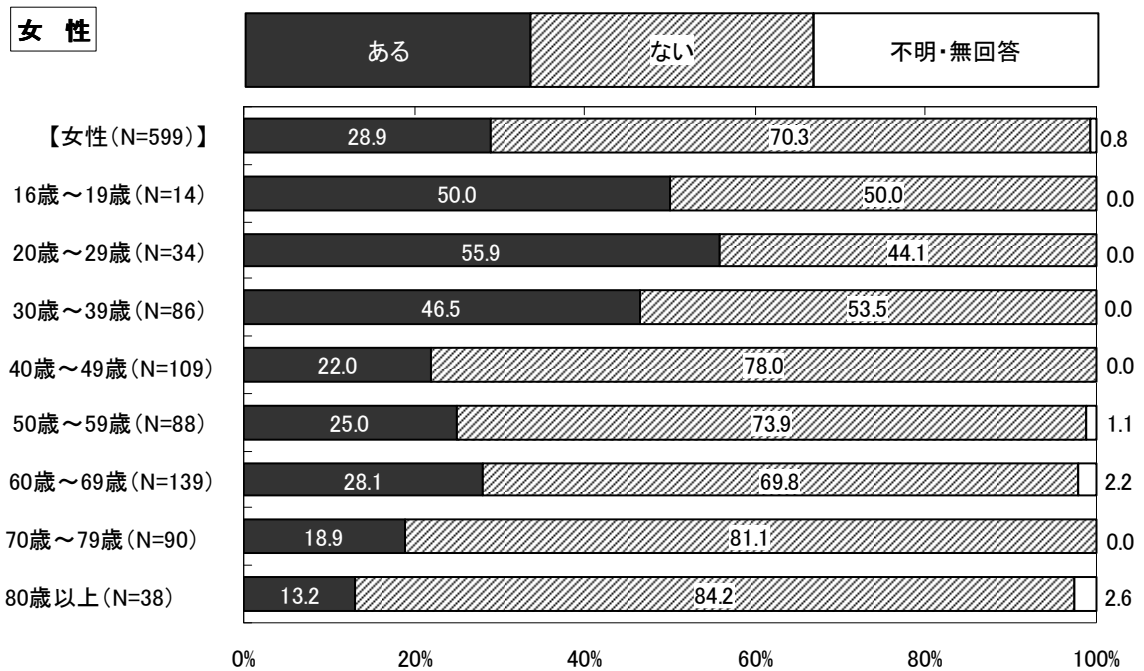
問1 どのようなときに男女の地位が平等になっていると思いますか。(複数回答)

男女の地位の平等感についてみると、女性では「学校生活」が42.2%と最も多く、次いで「地域活動の場」が27.5%、「家庭生活」が26.5%となっている。男性では、「法律や制度上」が48.8%と最も多く、次いで「学校生活」が45.3%、「家庭生活」が42.8%となっている。また、すべての項目において、女性よりも男性の方が平等感の割合が多く、特に「家庭生活」「法律や制度上」「政治・経済活動への参加」では顕著に表れている。



問2 あなたは、ジェンダー問題や男女共同参画がどういうものなのかを学んだり、教えられたりしたことがありますか。(単数回答)

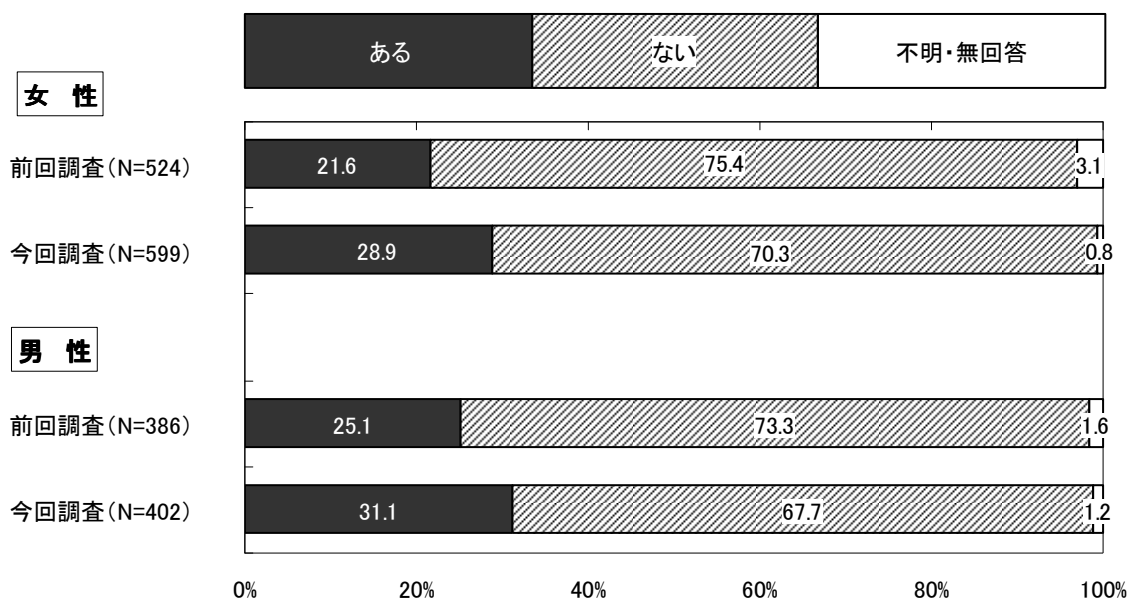
ジェンダー問題や男女共同参画を学んだり、教えられたりしたことがあるかについてみると、「ある」が女性では28.9%、男性では31.1%となっている。また、年齢階層別では、女性では30歳以上、男性では20歳以上で「ない」が5割以上となっている。



◆前回調査（平成 17 年度）との比較

問 2 あなたは、ジェンダー問題や男女共同参画がどのようなものなのかを学んだり、教えられたりしたことがありますか。

前回調査（平成 17 年度）との比較で見ると、女性では「ある」が前回調査 21.6%、今回調査 28.9%と 7.3 ポイント増加しており、「ない」が前回調査 75.4%、今回調査 70.3%と 5.1 ポイント減少している。男性では「ある」が前回調査 25.1%、今回調査 31.1%と 6.0 ポイント増加しており、「ない」が前回調査 73.3%、今回調査 67.7%と 5.6 ポイント減少している。

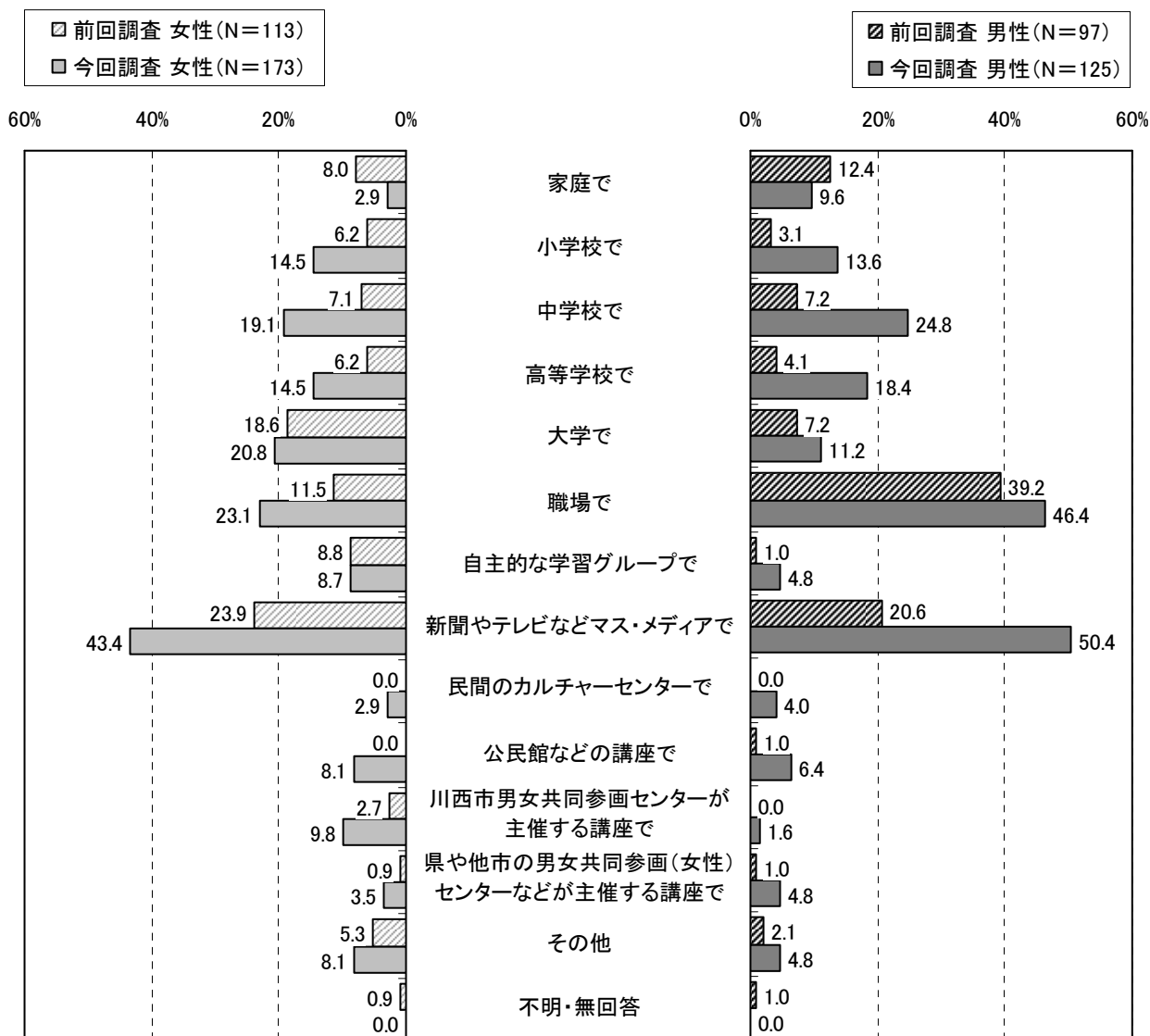


〔問2「ある」の回答者〕

問3 それはどこですか。(複数回答)

ジェンダー問題や男女共同参画を学んだり、教えられたりした場所についてみると、女性・男性ともに「新聞やテレビなどマス・メディアで」が、それぞれ43.4%、50.4%と最も多く、次いで「職場で」が、それぞれ23.1%、46.4%となっている。また、「公民館などの講座で」「川西市男女共同参画センターが主催する講座で」「県や他市の男女共同参画(女性)センターなどが主催する講座で」など、自治体等が行っている講座での学びは、女性・男性ともに1割以下となっている。

前回調査(平成17年度)との比較でみると、女性では前回調査、今回調査ともに「新聞やテレビなどマス・メディアで」が最も多く、前回調査と比較すると、今回調査は43.4%と19.5ポイント増加している。男性では、前回調査では「職場で」が39.2%と最も多くなっていたが、今回調査では「新聞やテレビなどマス・メディアで」が50.4%と最も多く、前回調査の20.6%から29.8ポイント増加しており、2倍以上の割合となっている。また、教育機関や自治体等が行っている講座など、各項目で前回調査よりも今回調査の割合が増加している。





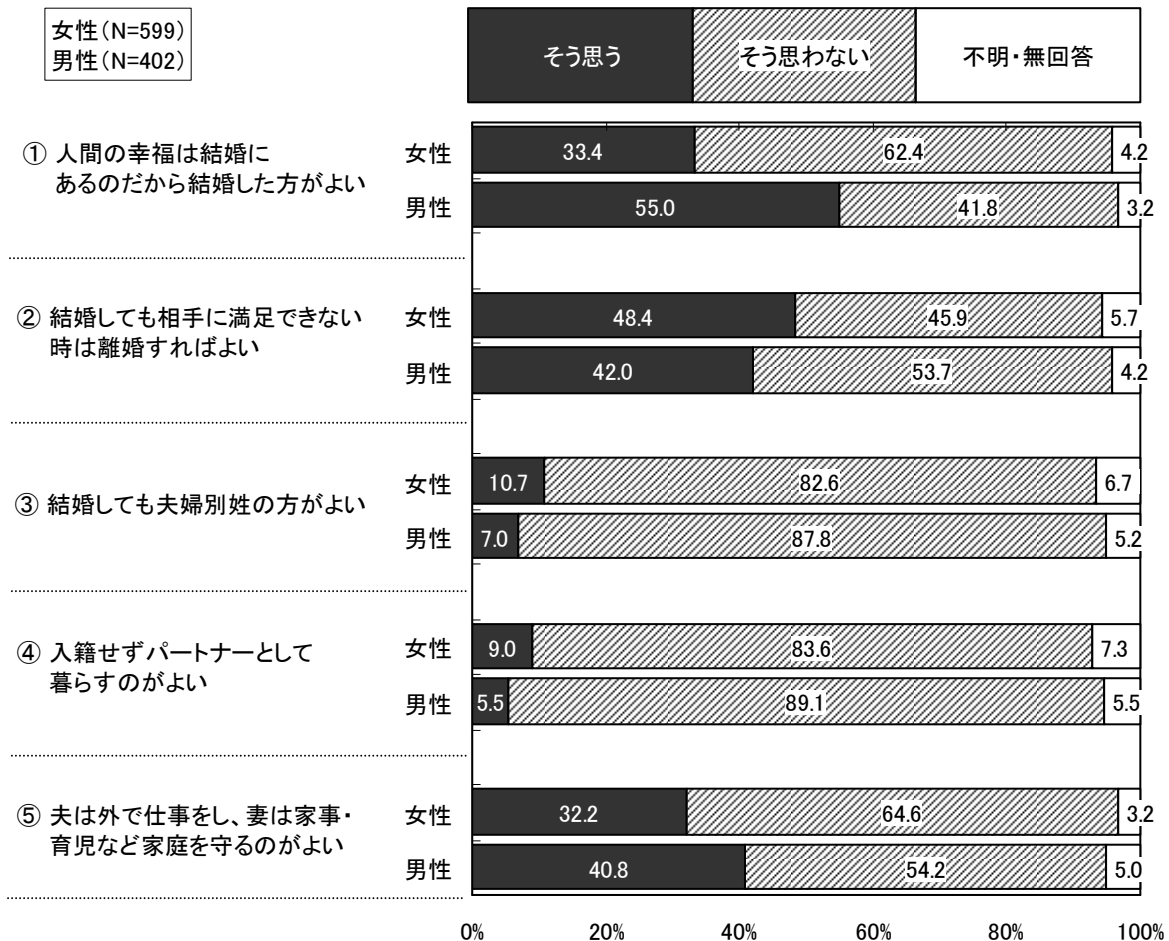
### 3. 結婚と家庭生活について

#### 問4 あなたは結婚・離婚・家庭についてどう思いますか。(単数回答)

結婚・離婚・家庭についてみると、女性では『②結婚しても相手に満足できない時は離婚すればよい』で、「そう思う」が48.4%、「そう思わない」が45.9%と、「そう思う」が若干上回っており、男性の「そう思う」と比較しても若干多くなっている。男性では『①人間の幸福は結婚にあるのだから結婚した方がよい』で、「そう思う」が55.0%と半数以上を占めており、女性は「そう思わない」が62.4%と6割以上になっている。

また、『③結婚しても夫婦別姓の方がよい』『④入籍せずパートナーとして暮らすのがよい』で、「そう思わない」が女性・男性ともに8割以上となっている。

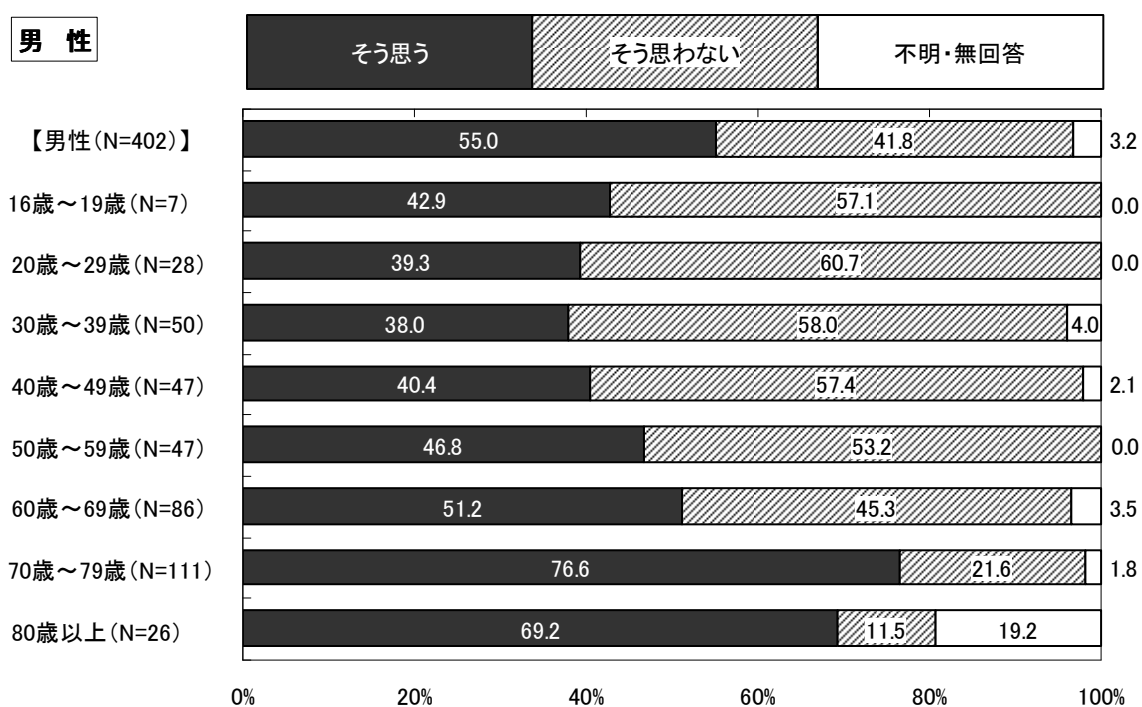
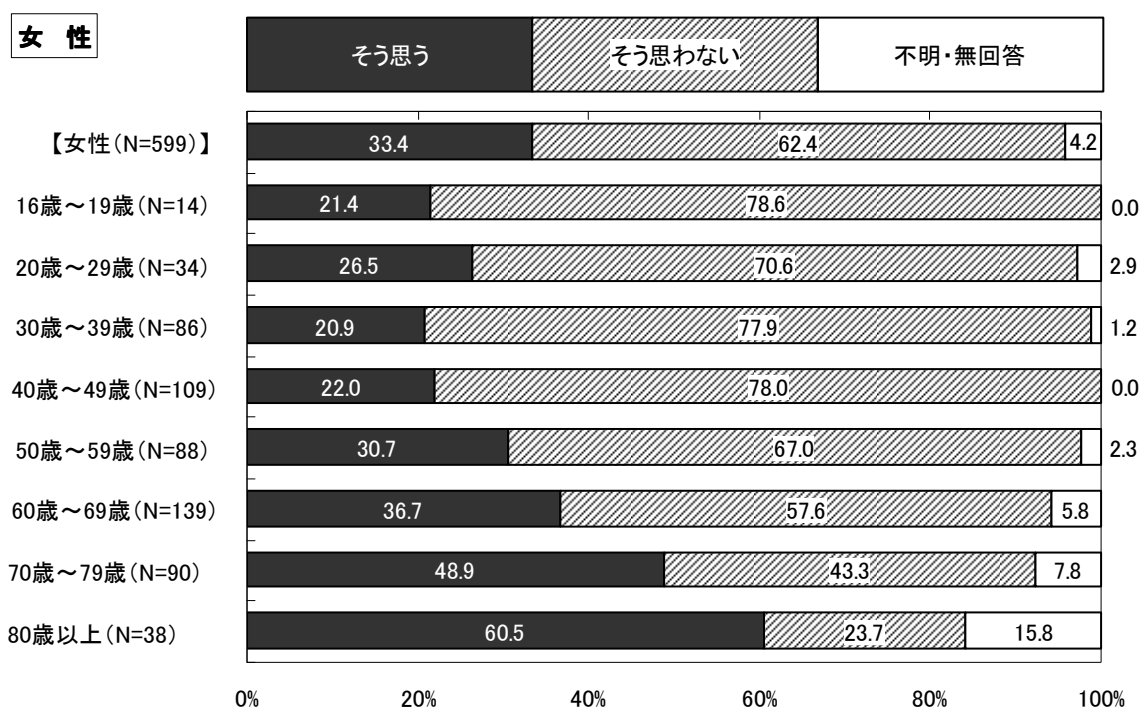
『⑤夫は外で仕事をし、妻は家事・育児など家庭を守るのがよい』で「そう思う」が、女性が32.2%、男性が40.8%と、男性の方が多くなっている。



**(年齢階層別)**

①「人間の幸福は結婚にあるのだから結婚した方がよい」という考え方について  
 どう思いますか。(単数回答)

「人間の幸福は結婚にあるのだから結婚した方がよい」という考え方について年齢階層別にみると、「そう思う」が女性では30歳以上、男性では30歳～79歳で、年齢が上がるにつれて増加しており、男性の方が女性よりも割合は多くなっている。

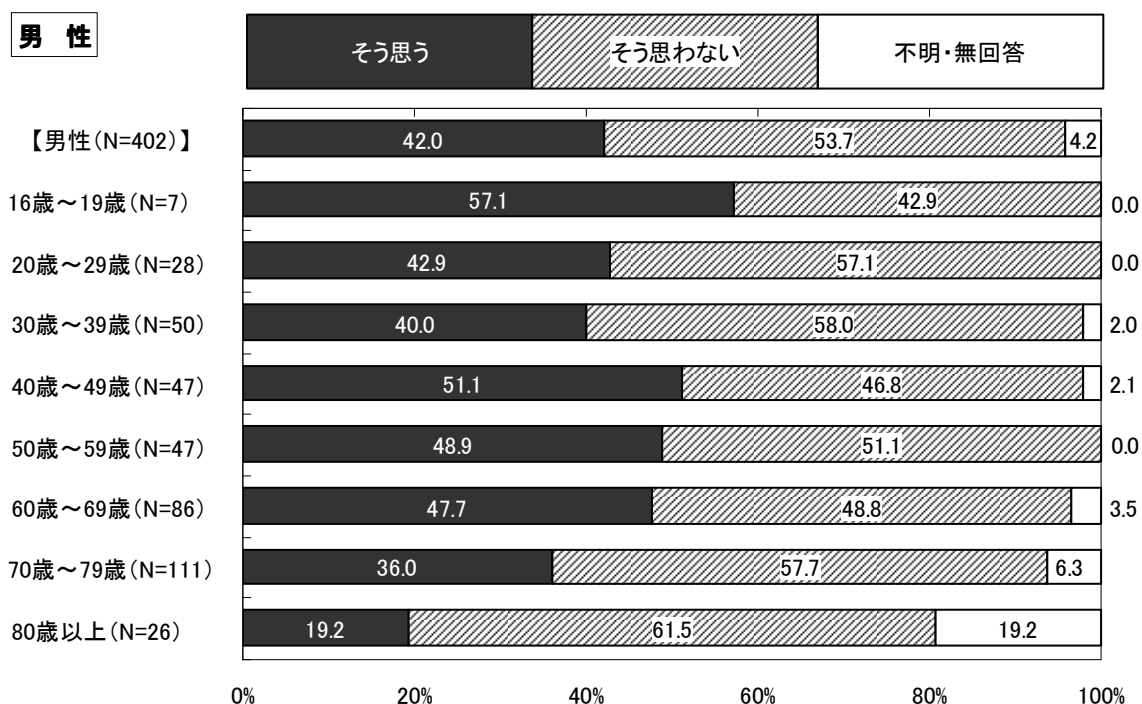
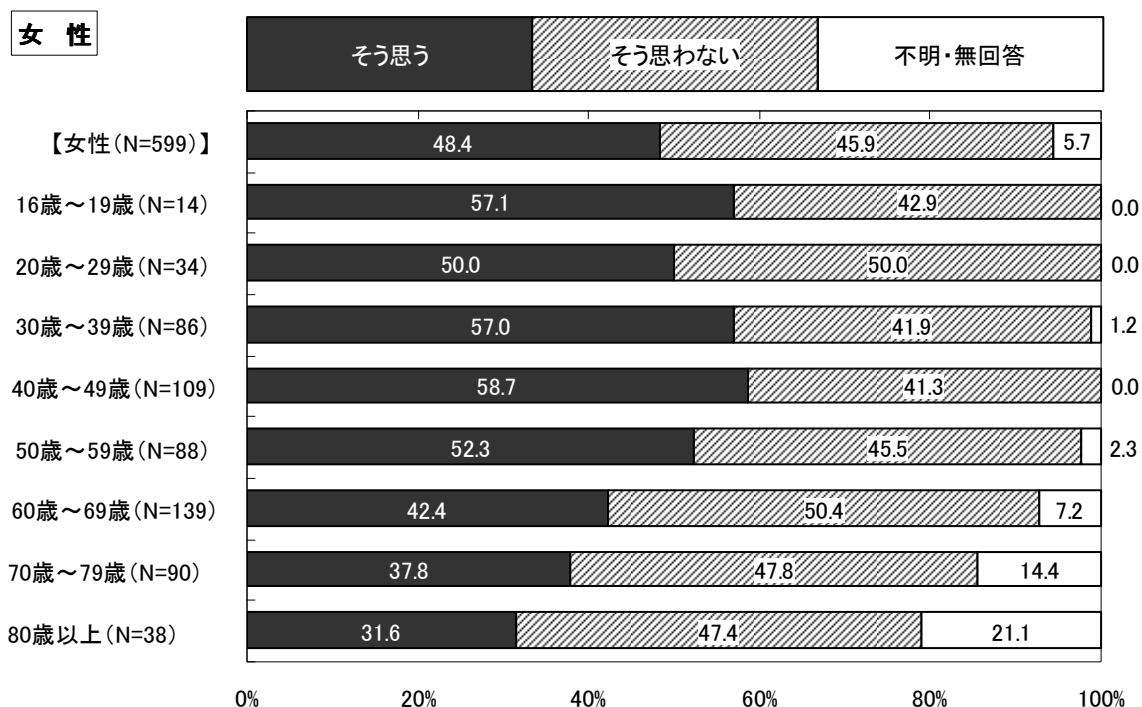


**(年齢階層別)**

②「結婚しても相手に満足できない時は離婚すればよい」という考え方について  
どう思いますか。(単数回答)

「結婚しても相手に満足できない時は離婚すればよい」という考え方について、女性では5割近く、男性で4割強と女性の方が多くなっている。

年齢階層別にみると、「そう思う」が女性・男性ともに、40歳以上で年齢が上がるにつれて減少しており、また、20歳～59歳、70歳以上では女性の方が男性よりも割合は多くなっている。



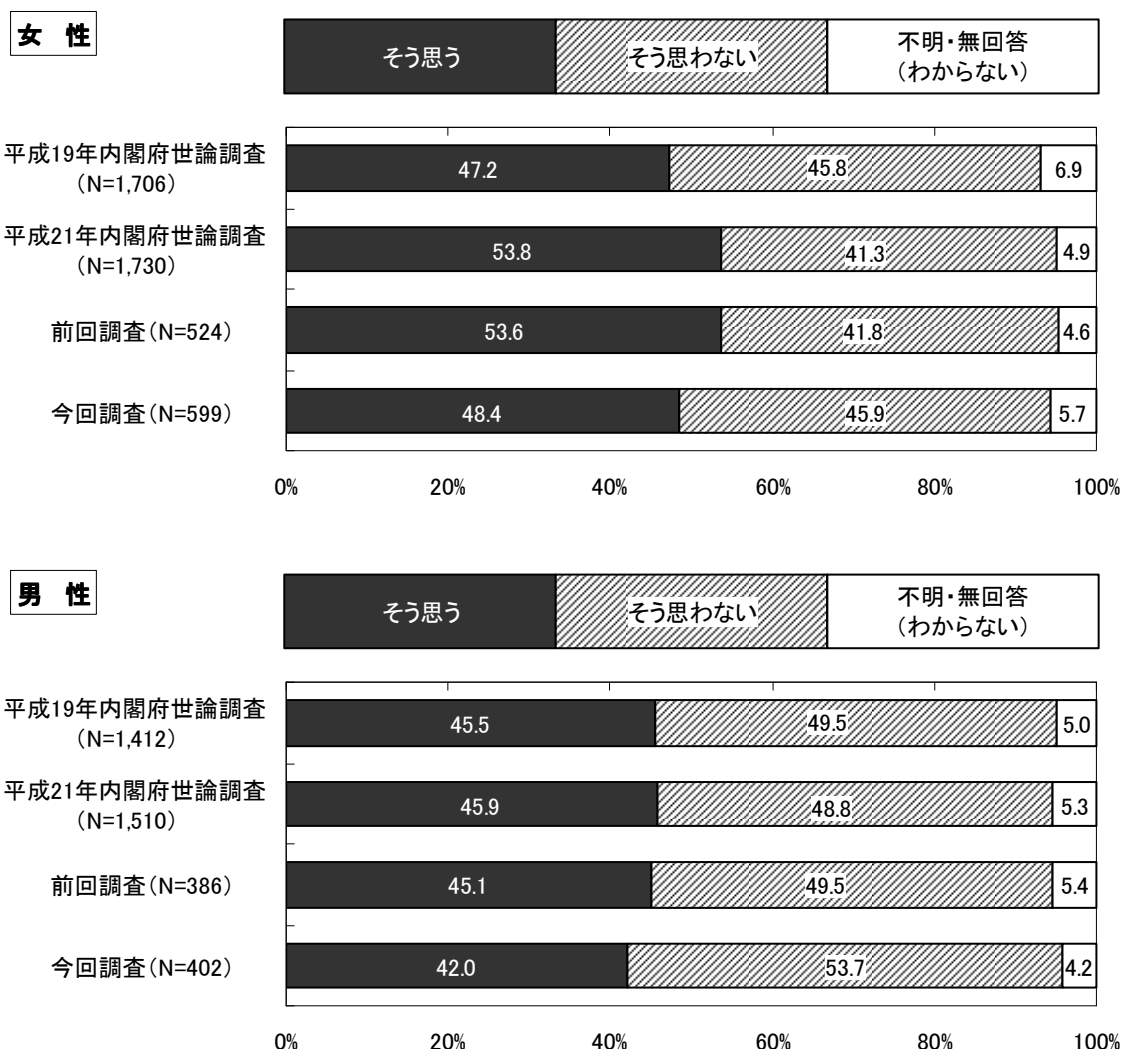
### (内閣府世論調査、前回調査(平成17年度)との比較)

#### ②「結婚しても相手に満足できない時は離婚すればよい」という考え方についてどう思いますか。(単数回答)

内閣府世論調査と前回調査、今回調査を比較すると、「結婚しても相手に満足できない時は離婚すればよい」という考え方について、「そう思う」が女性では、前回調査が53.6%と、平成19年内閣府世論調査よりも6.4ポイント多いのに対し、今回調査では48.4%と、平成21年内閣府世論調査よりも5.4ポイント少ない。

男性では、前回調査が45.1%と、平成19年内閣府世論調査よりも0.4ポイント少なく、今回調査では42.0%と、平成21年内閣府世論調査よりも3.9ポイント少ない。

内閣府世論調査において、女性では「そう思う」が「そう思わない」を、男性では「そう思わない」が「そう思う」を、それぞれ上回っているが、前回調査、今回調査も同様の傾向がみられる。



※前回調査「そう思う」 …「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計

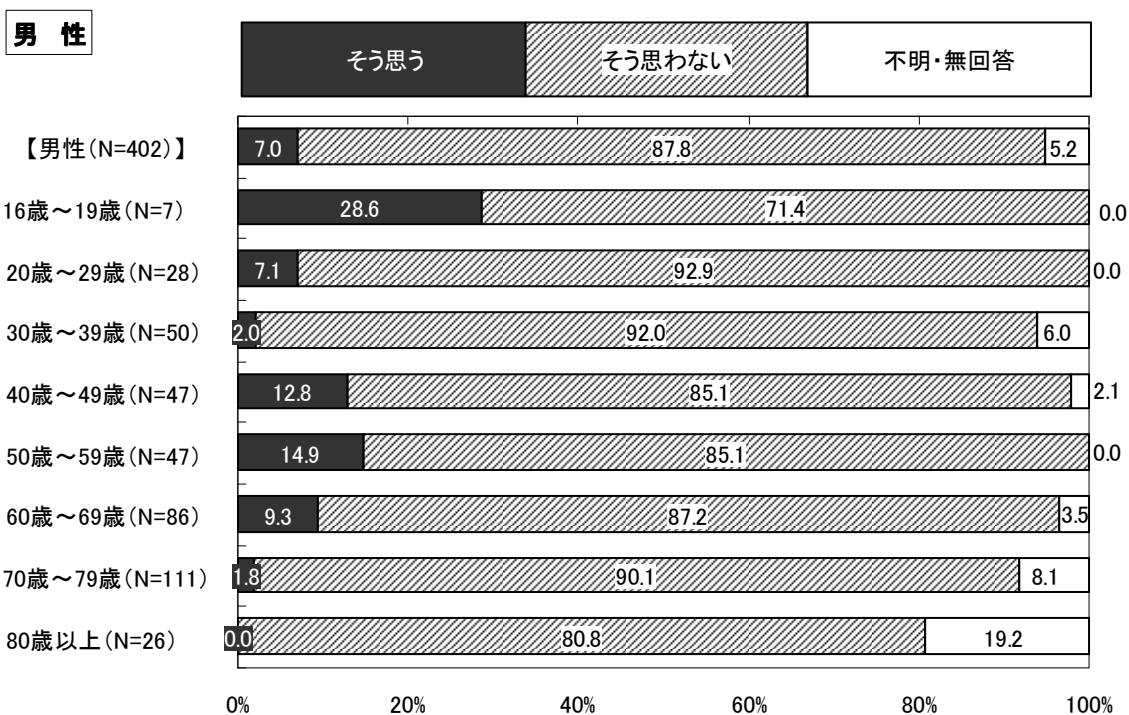
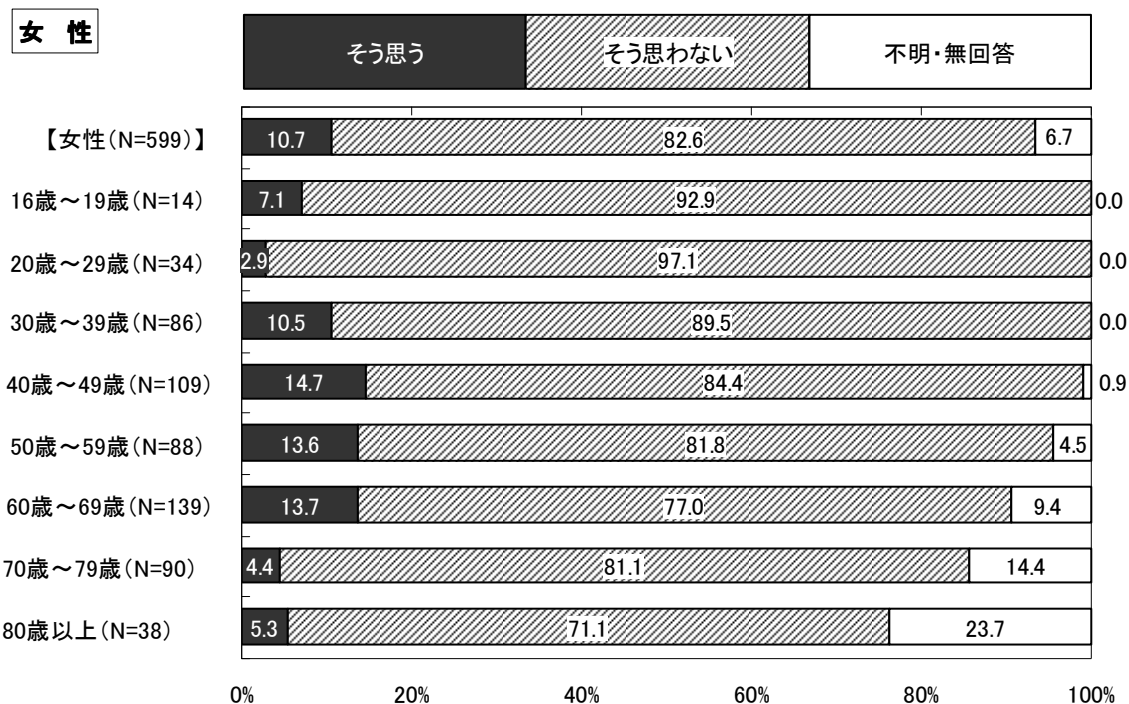
前回調査「そう思わない」…「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計

**(年齢階層別)**

③「結婚しても夫婦別姓の方がよい」という考え方についてどう思いますか。

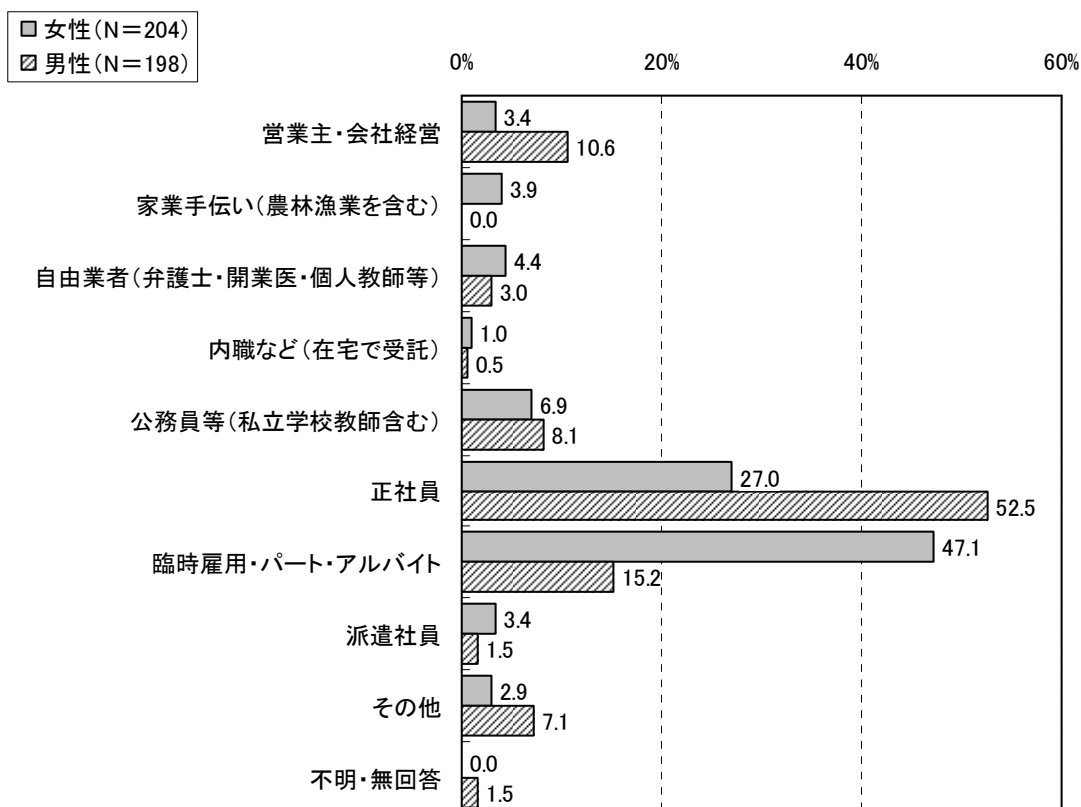
(単数回答)

「結婚しても夫婦別姓の方がよい」という考え方について年齢階層別にみると、女性・男性ともにすべての年齢階層で「そう思わない」が7割以上となっている。



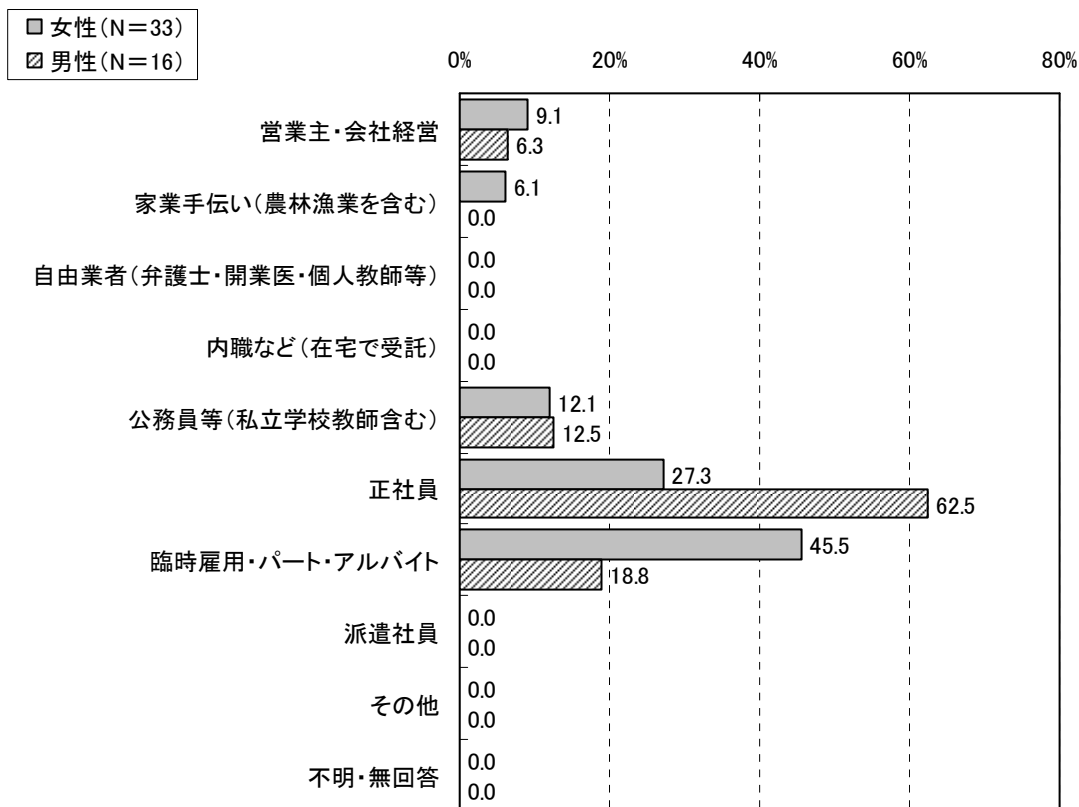
(問4③【結婚しても夫婦別姓の方がよいと思わない】 × 問12【職業別】)

「結婚しても夫婦別姓の方がよいと思わない」方の職業をみると、女性では「臨時雇用・パート・アルバイト」が47.1%と最も多く、次いで「正社員」が27.0%となっている一方、男性では「正社員」が52.5%と最も多く、次いで「臨時雇用・パート・アルバイト」が15.2%となっている。



(問4③【結婚しても夫婦別姓の方がよいと思う】 × 問12【職業別】)

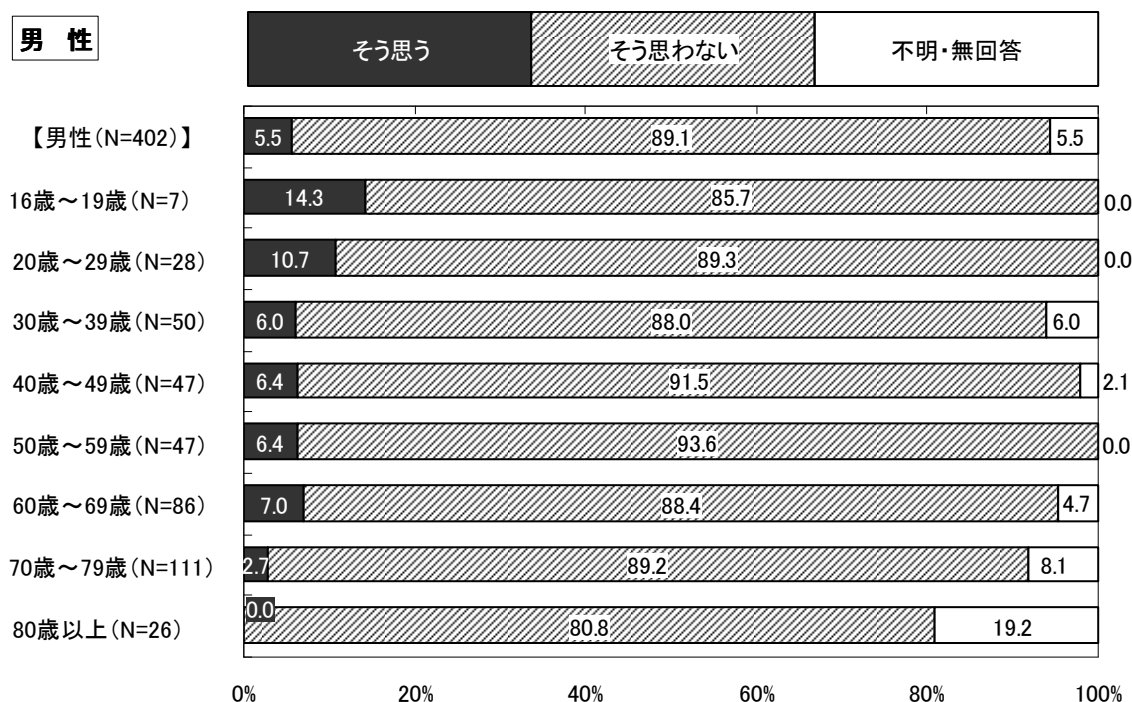
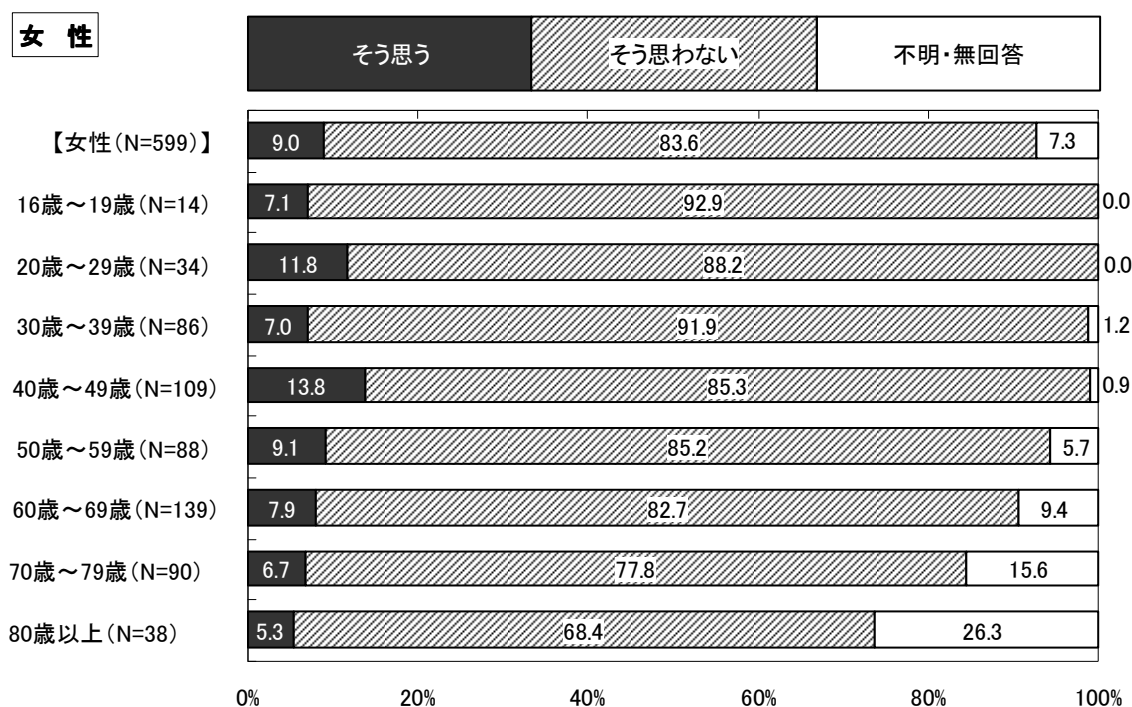
「結婚しても夫婦別姓の方がよいと思う」方の職業をみると、女性では「臨時雇用・パート・アルバイト」が45.5%と最も多く、次いで「正社員」が27.3%となっている一方、男性では「正社員」が62.5%と最も多く、次いで「臨時雇用・パート・アルバイト」が18.8%となっている。



**(年齢階層別)**

④「入籍せずパートナーとして暮らすのがよい」という考え方についてどう思いますか。(単数回答)

「入籍せずパートナーとして暮らすのがよい」という考え方について年齢階層別にみると、女性・男性ともにすべての年齢階層で「そう思わない」が6割以上となっており、特に女性では16歳～39歳、男性では20歳～79歳で9割前後となっている。

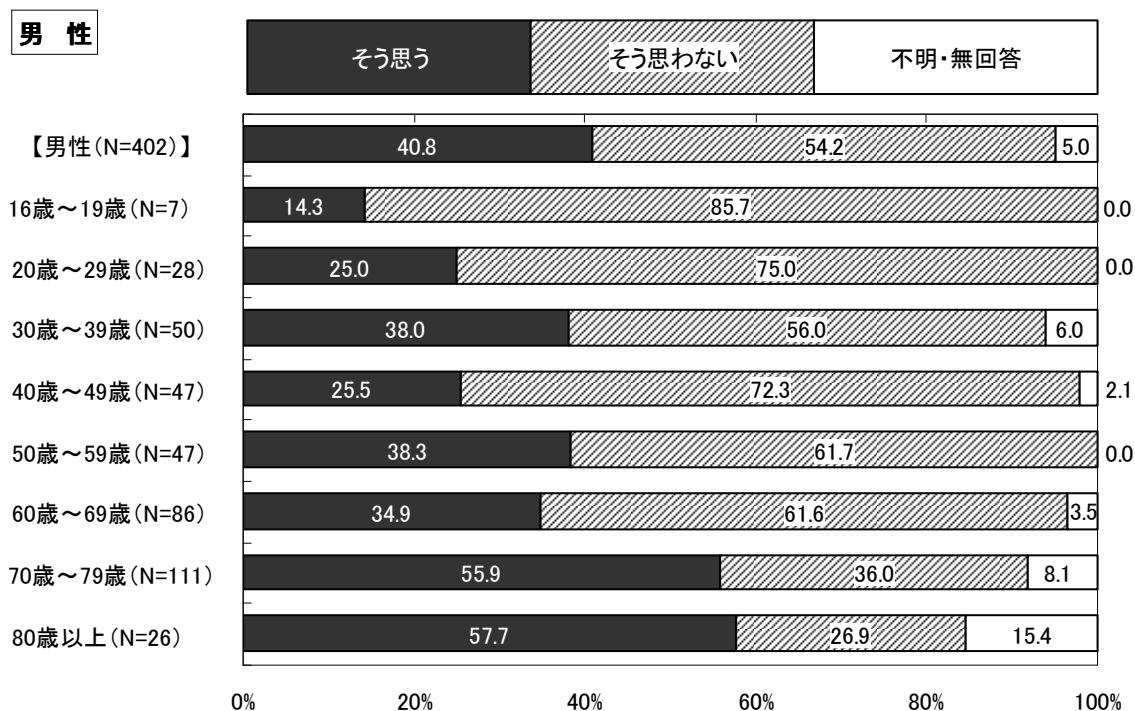
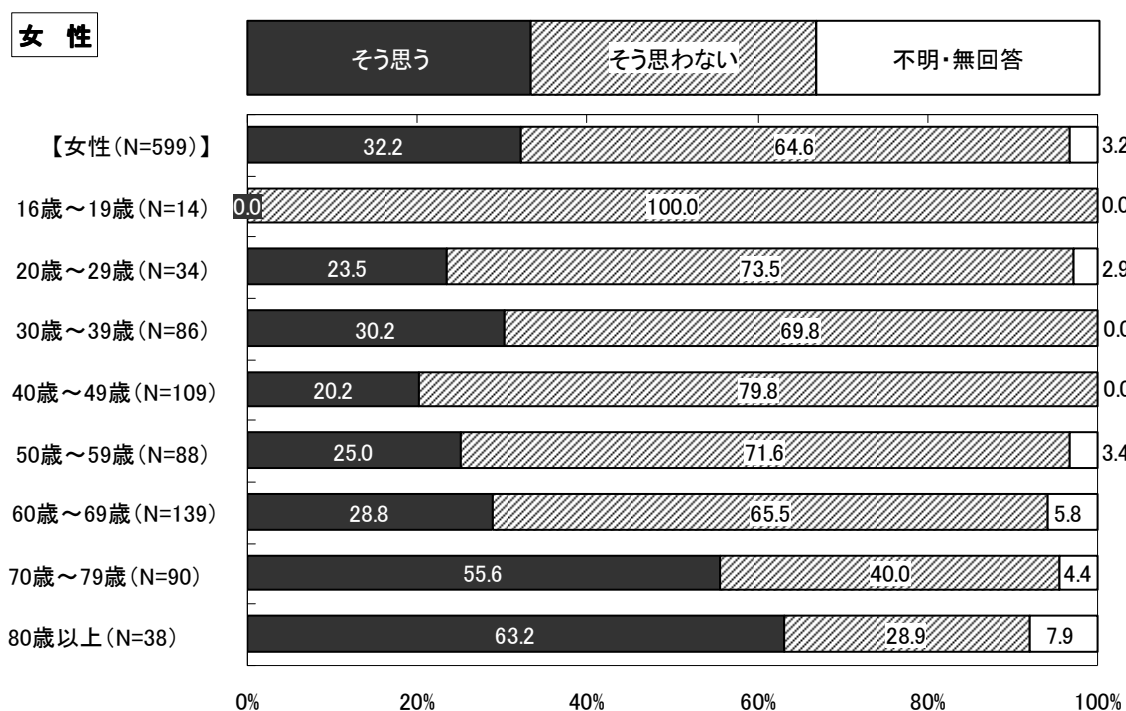




**(年齢階層別)**

⑤「夫は外で仕事をし、妻は家事・育児など家庭を守るのがよい」という考え方についてどう思いますか。(単数回答)

「夫は外で仕事をし、妻は家事・育児など家庭を守るのがよい」という性別役割分担意識について年齢階層別にみると、女性・男性ともに16歳～69歳では「そう思わない」が5割以上となっている一方、70歳以上では「そう思う」が5割以上となっている。



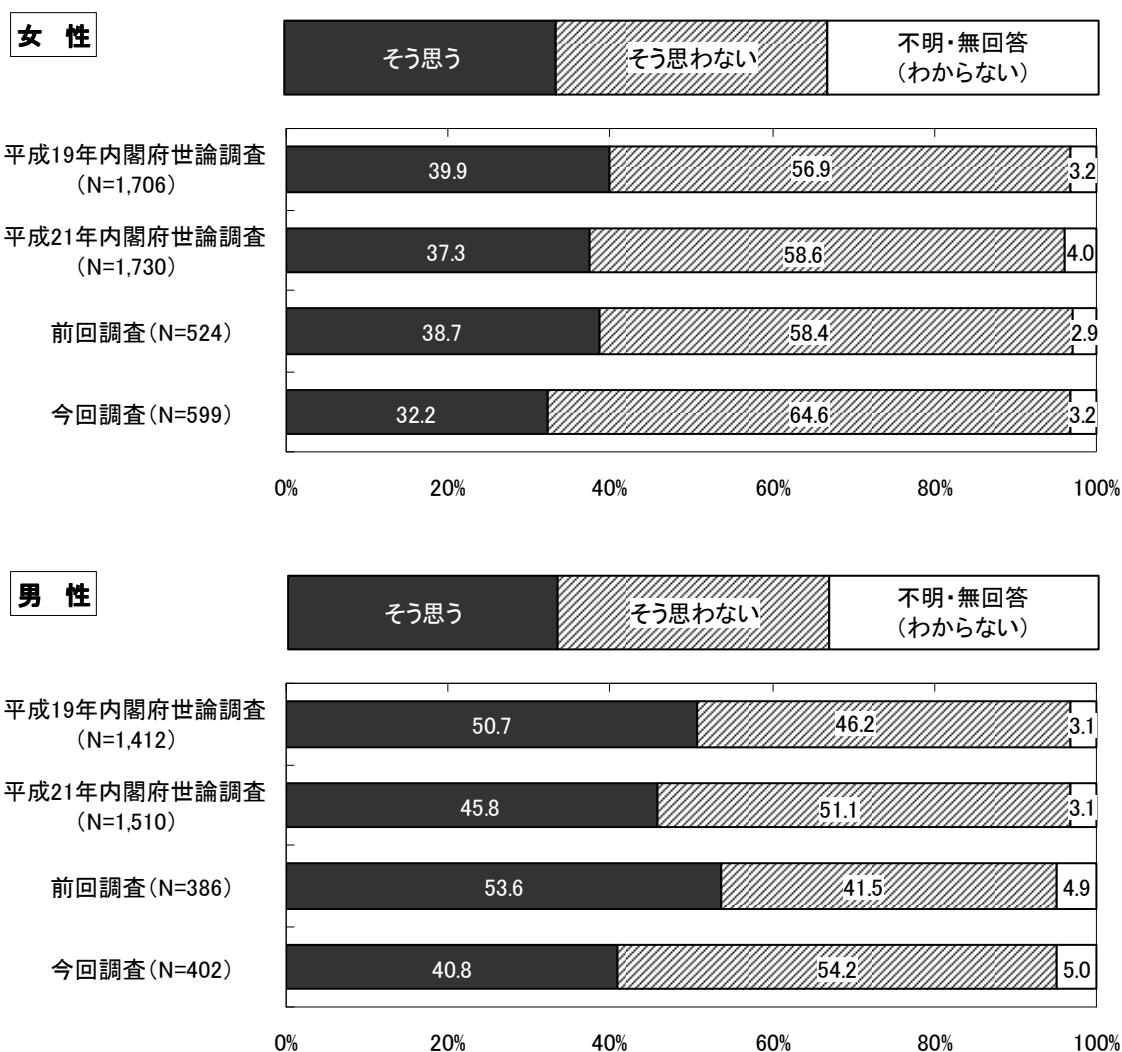
**(内閣府世論調査、前回調査(平成17年度)との比較)**

**⑤「夫は外で仕事をし、妻は家事・育児など家庭を守るのがよい」という考え方について**

「夫は外で仕事をし、妻は家事・育児など家庭を守るのがよい」という性別役割分担意識について、内閣府世論調査と前回調査、今回調査を比較すると、「そう思う」が女性では、前回調査が38.7%と、平成19年内閣府世論調査よりも1.2ポイント少なく、今回調査では32.2%と、平成21年内閣府世論調査よりも5.1ポイント少ない。

男性では、前回調査が53.6%と、平成19年内閣府世論調査よりも2.9ポイント多く、今回調査では40.8%と、平成21年内閣府世論調査よりも5.0ポイント少ない。

内閣府世論調査において、「そう思う」が女性で3割以上、男性で4割以上となっており、前回調査、今回調査でも同様の傾向がみられる。

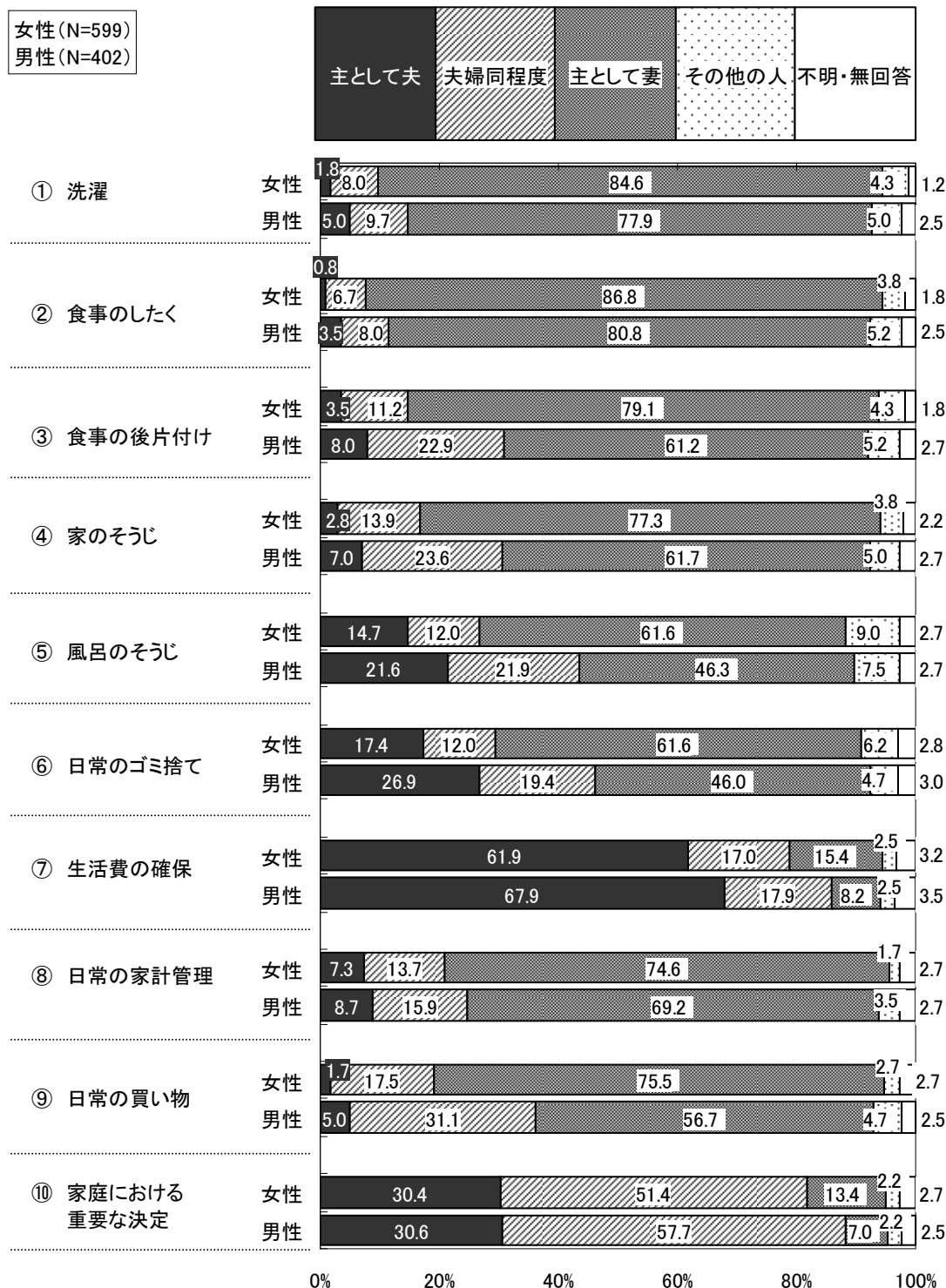


※前回調査「そう思う」 …「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計

前回調査「そう思わない」…「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計

問5 あなたの家庭では、次のようなことを主に誰が担っていますか（未婚の方は親の場合で考えて下さい）。（単数回答）

家庭内での家事等の担当についてみると、女性・男性ともに『①洗濯』『②食事のしたく』『⑧日常の家計管理』では「主として妻」、『⑦生活費の確保』では「主として夫」が、それぞれ最も多くなっている。また、『⑩家庭における重要な決定』では「夫婦同程度」が最も多く、5割となっているが、次いで「主として夫」が3割を占めているのに対し、「主として妻」では1割前後となっている。

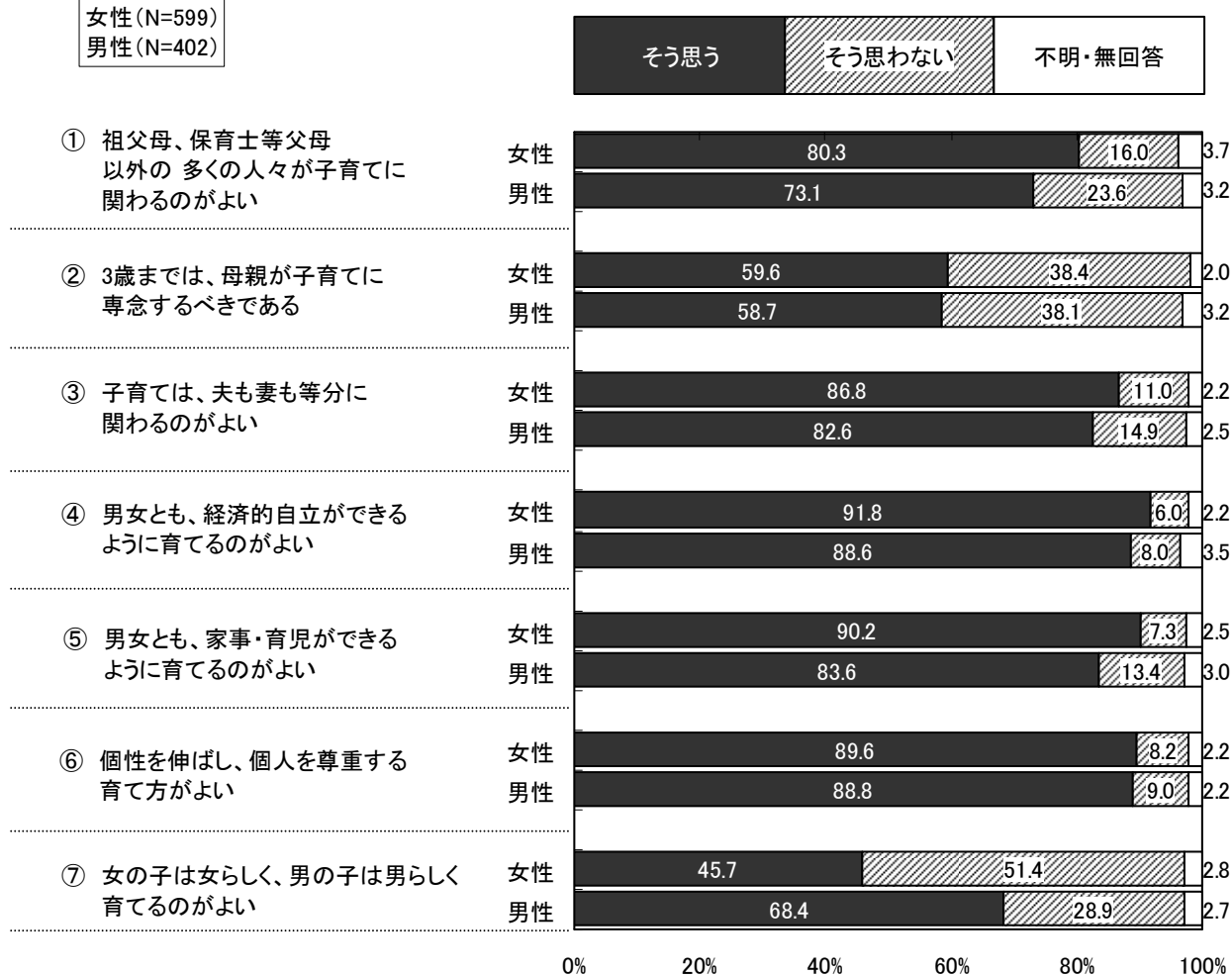


## 4. 子育てについて

### 問6 子育てについてあなたはどのように思いますか。(単数回答)

子育てについてどう思うかについてみると、『④男女とも、経済的自立ができるように育てるのがよい』『⑥個性を伸ばし、個人を尊重する育て方がよい』では、女性・男性ともに「そう思う」が9割前後を占めている。『⑤男女とも、家事・育児ができるように育てるのがよい』では、女性で「そう思う」が90.2%となっている。また、『⑦女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい』では、「そう思う」が女性の45.7%に対し、男性は68.4%と、男女の間で差がみられる。

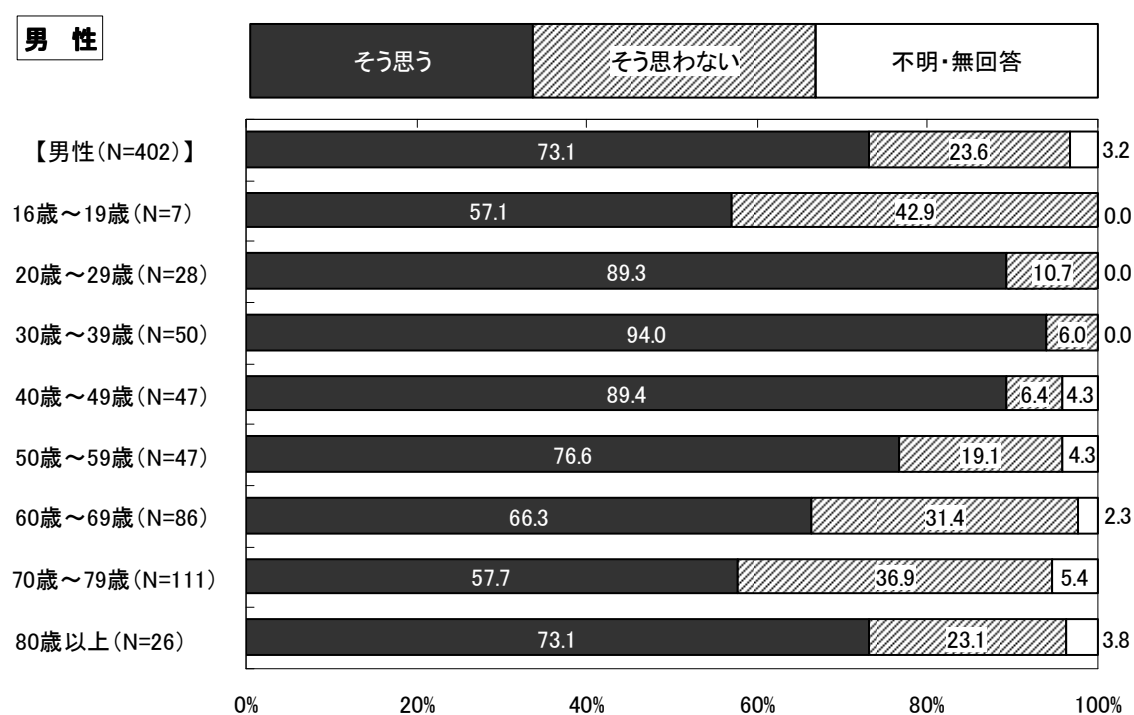
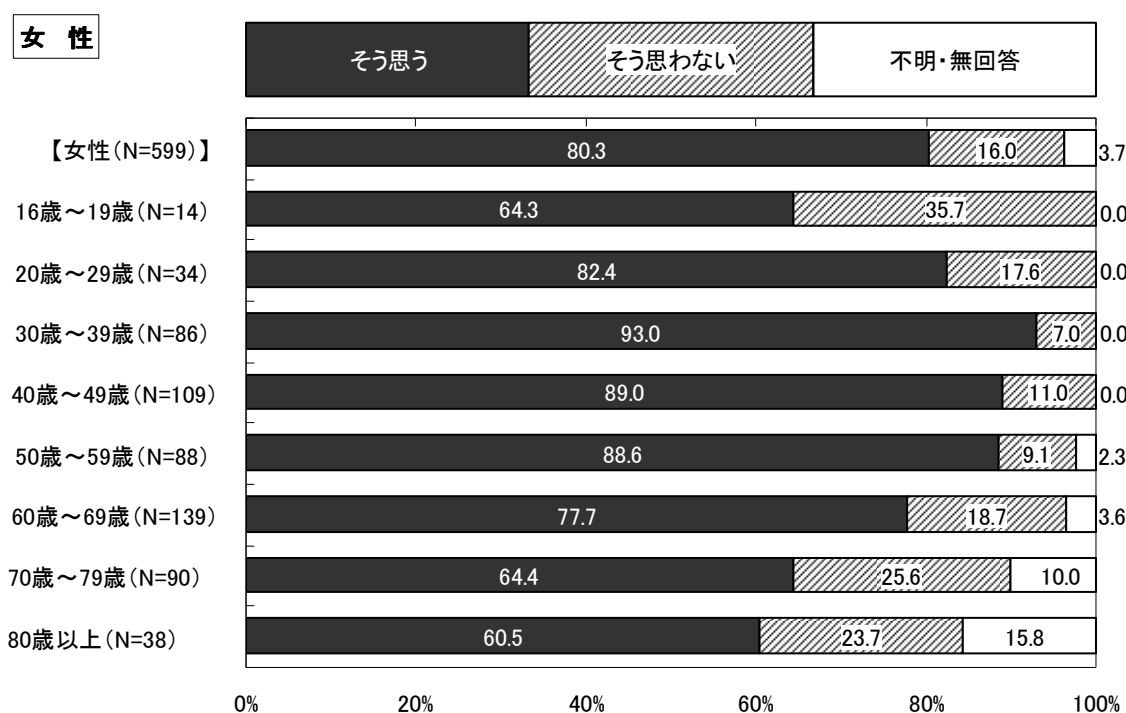
女性(N=599)  
男性(N=402)



**(年齢階層別)**

①「祖父母、保育士等父母以外の多くの人々が子育てに関わるのがよい」という考え方についてどう思いますか。(単数回答)

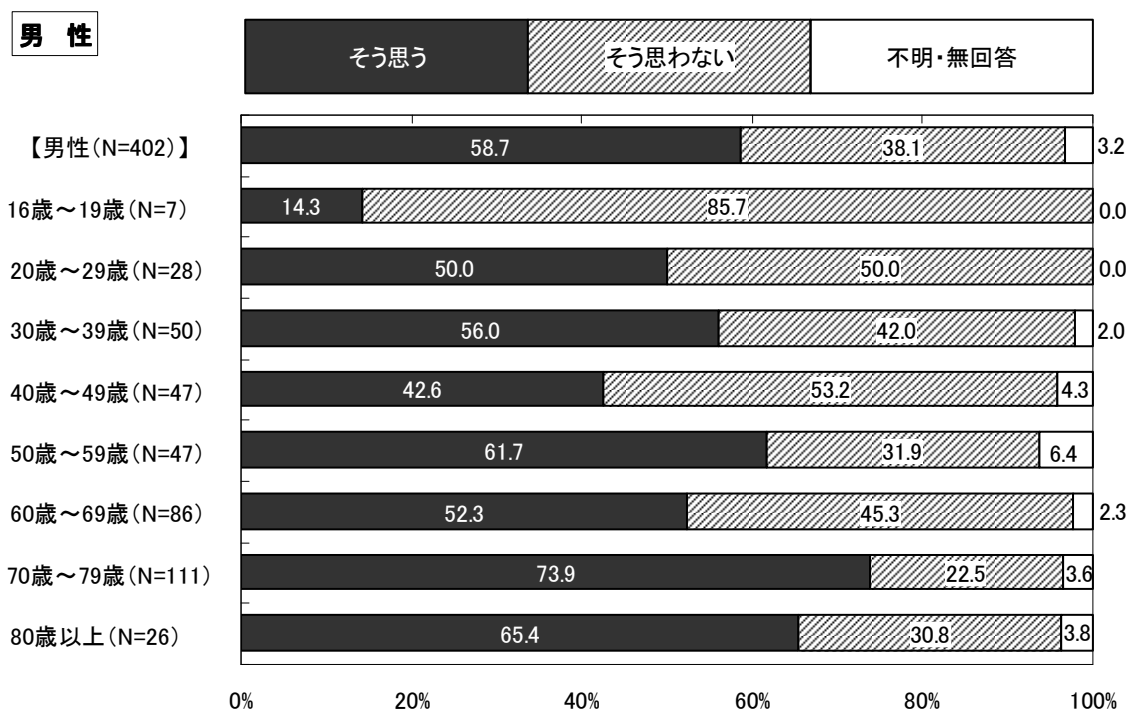
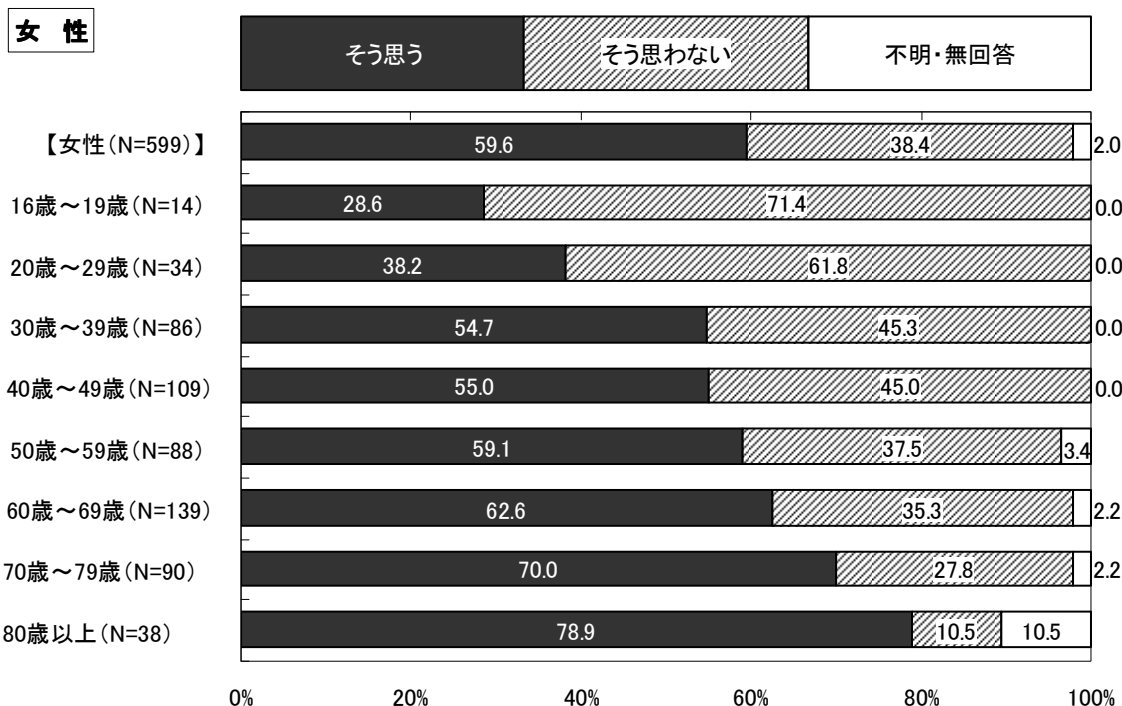
「祖父母、保育士等父母以外の多くの人々が子育てに関わるのがよい」という考え方について年齢階層別にみると、「そう思う」が女性・男性ともにすべての年齢階層で5割以上となっており、女性では30～39歳の93.0%をピークに、年齢が上がるにつれて減少している。男性も同様に、30～39歳の94.0%をピークに年齢が上がるにつれて減少しているが、80歳以上で73.1%と再び増加となっている。



**(年齢階層別)**

②「3歳までは、母親が子育てに専念すべきである」という考え方についてどう思いますか。(単数回答)

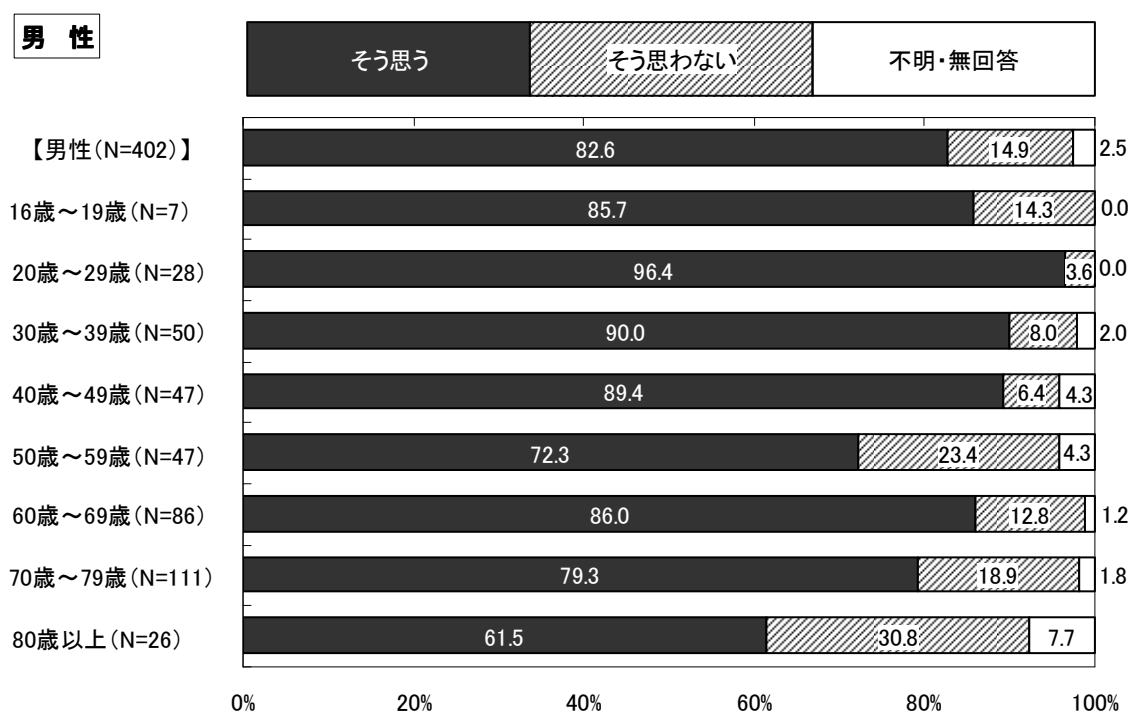
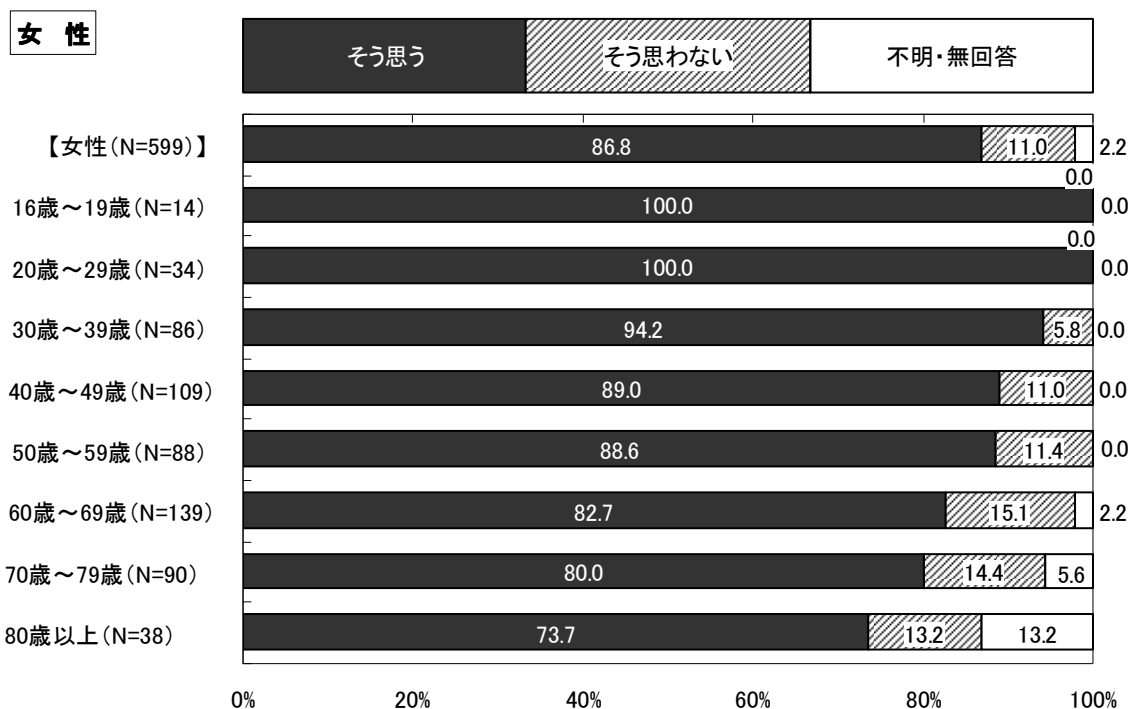
「3歳までは、母親が子育てに専念すべきである」という考え方について年齢階層別にみると、「そう思う」が、女性では30歳以上で5割を超えており、年齢が上がるにつれて増加している。男性では、16歳～19歳、40歳～49歳を除くすべての年齢階層で、5割以上となっている。



**(年齢階層別)**

③「子育ては、夫も妻も等分に関わるのがよい」という考え方についてどう思いますか。(単数回答)

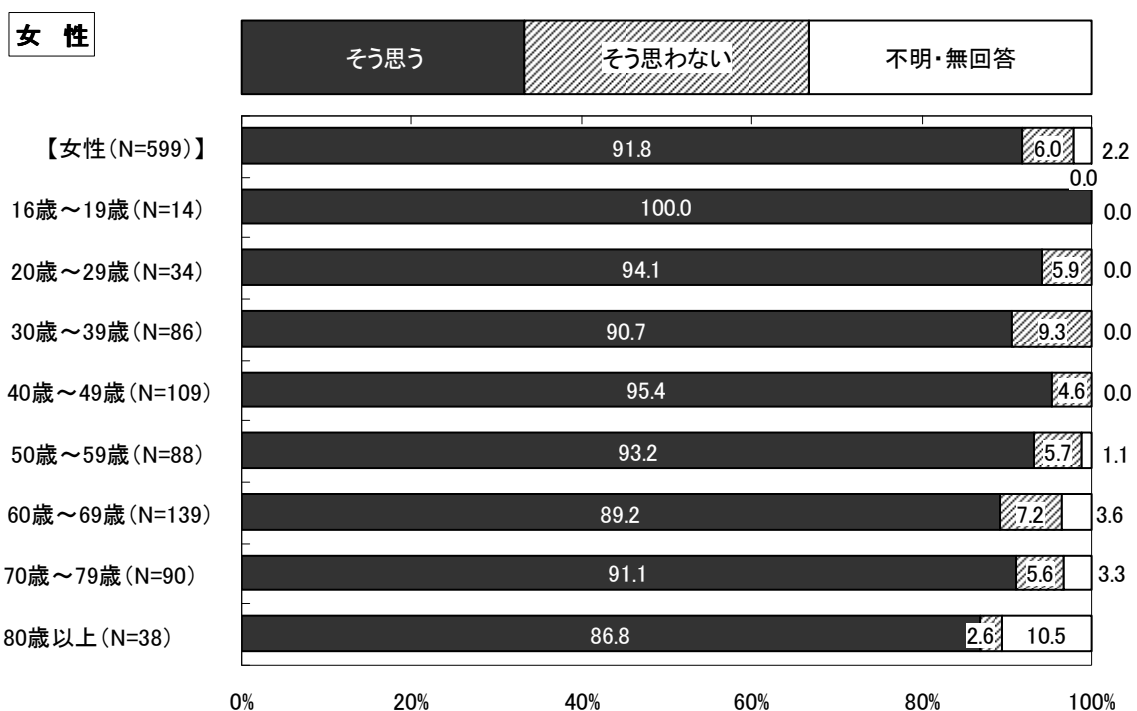
「子育ては、夫も妻も等分に関わるのがよい」という考え方について年齢階層別にみると、「そう思う」が、女性では年齢が上がるにつれて減少しているものの7割を超えている。男性では6割以上となっている。



**(年齢階層別)**

④「男女とも、経済的自立ができるように育てるのがよい」という考え方についてどう思いますか。(単数回答)

「男女とも、経済的自立ができるように育てるのがよい」という考え方について年齢階層別にみると、「そう思う」が、女性・男性ともにすべての年齢階層で8割以上となっており、特に20歳以上では、男性よりも女性の方が「そう思う」割合が若干多くなっている。

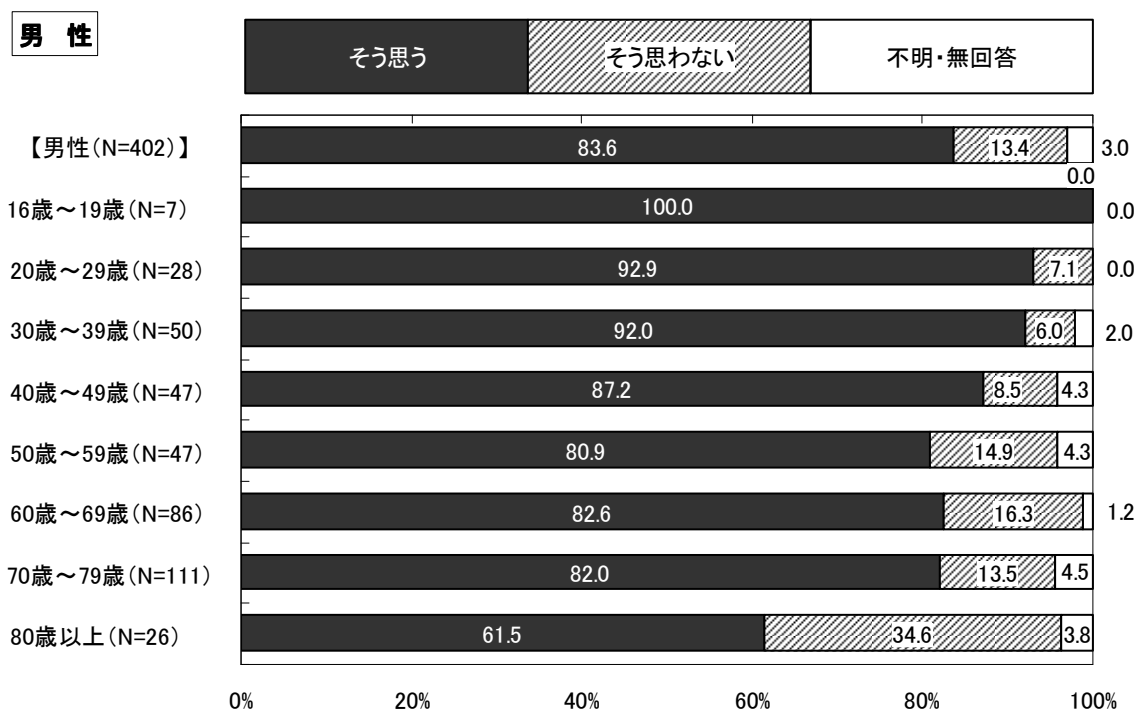
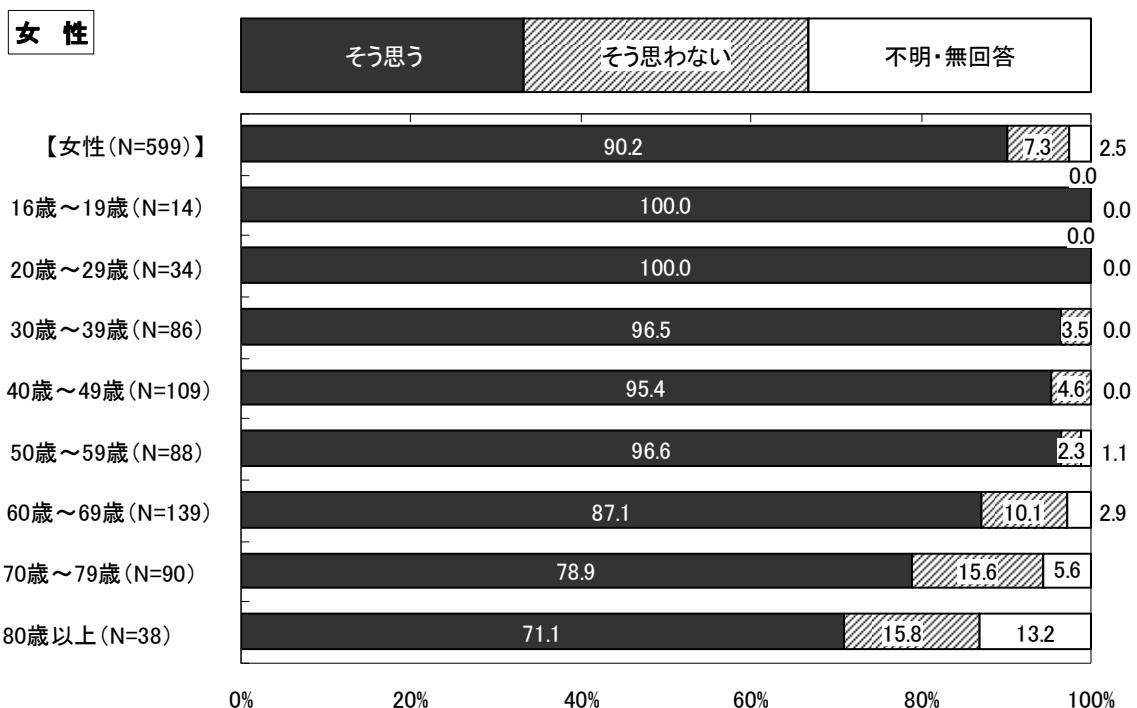




**(年齢階層別)**

⑤「男女とも、家事・育児ができるように育てるのがよい」という考え方についてどう思いますか。(単数回答)

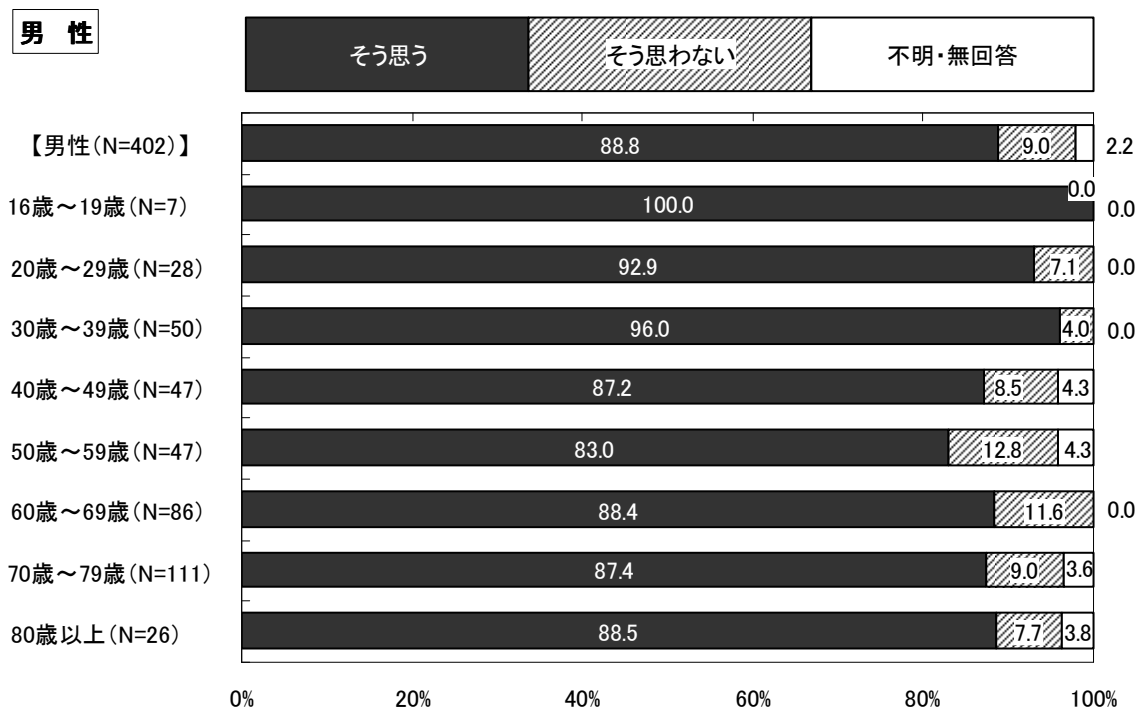
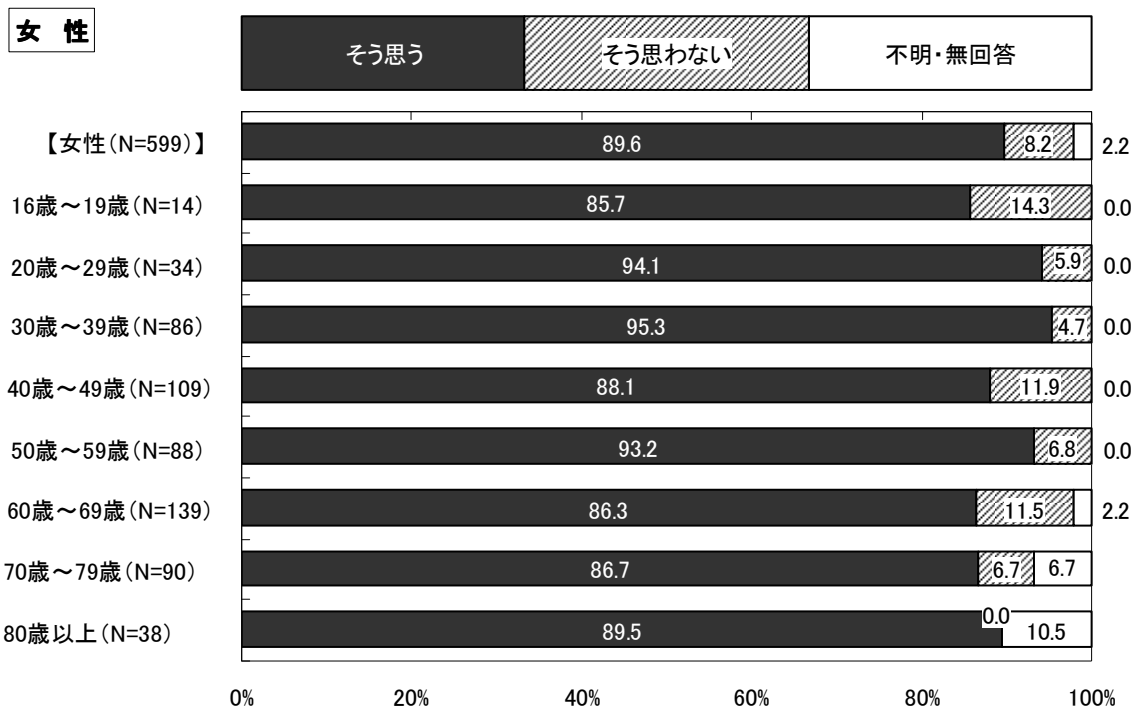
「男女とも、家事・育児ができるように育てるのがよい」という考え方について年齢階層別にみると、「そう思う」が、女性・男性ともにすべての年齢階層で6割以上となっており、女性では69歳以下、男性では79歳以下で、8割を超えている。また、女性・男性ともに若干の増減はあるものの、年齢が上がるにつれて「そう思う」割合が減少している。



**(年齢階層別)**

⑥「個性を伸ばし、個人を尊重する育て方がよい」という考え方についてどう思いますか。(単数回答)

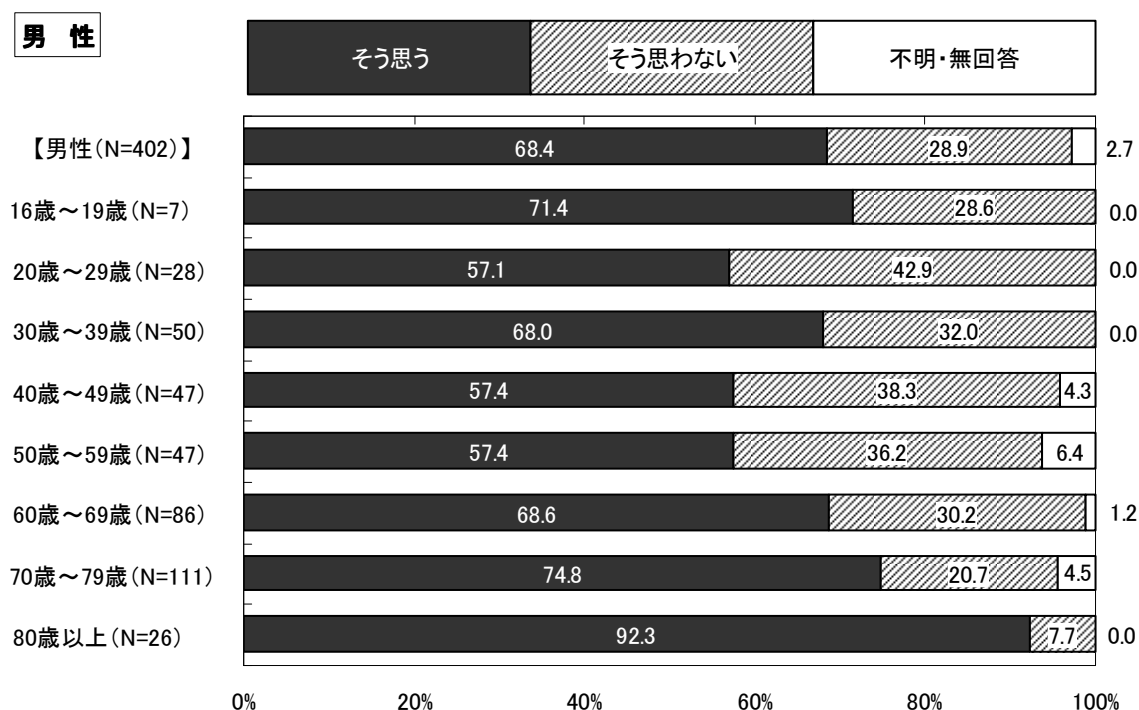
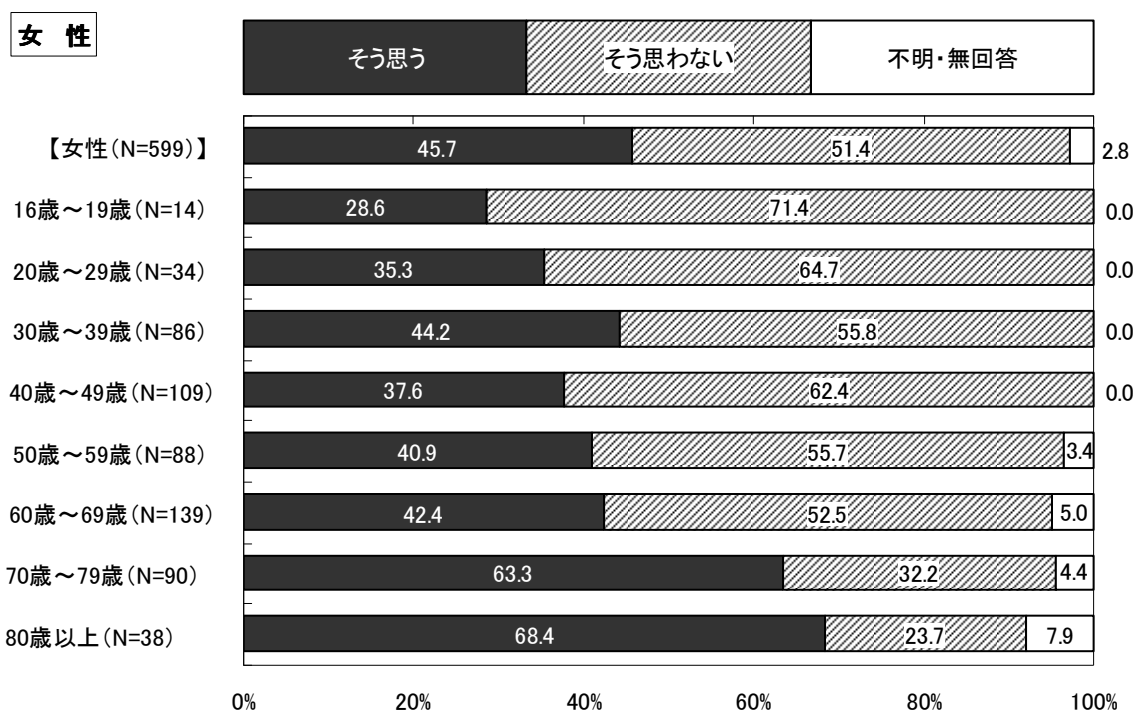
「個性を伸ばし、個人を尊重する育て方がよい」という考え方について年齢階層別にみると、「そう思う」が、女性・男性ともにすべての年齢階層で8割以上となっている。



**(年齢階層別)**

⑦「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい」という考え方についてどう思いますか。(単数回答)

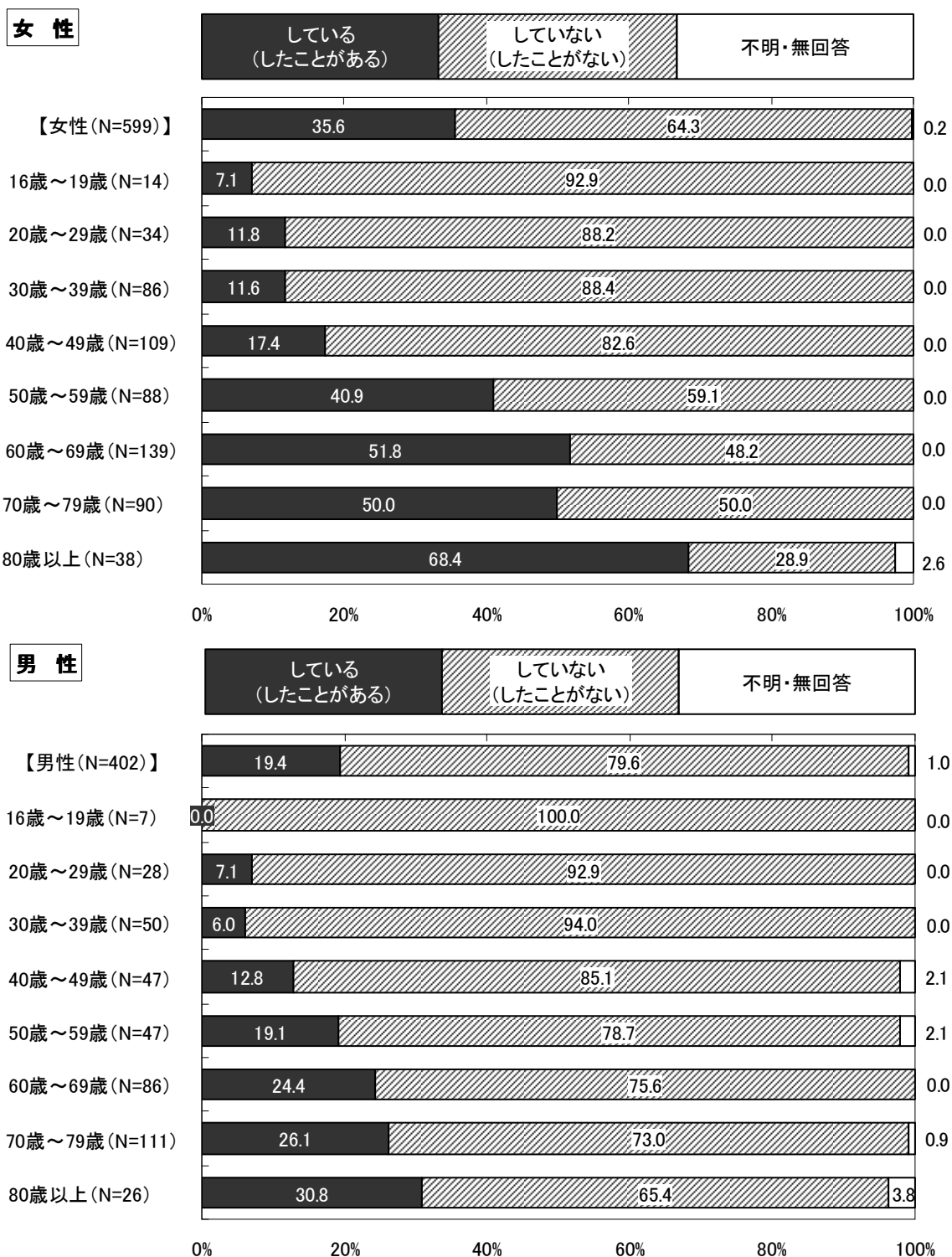
「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい」という考え方について年齢階層別にみると、「そう思わない」が、女性では16歳～69歳で5割以上となっているが、男性では「そう思う」がすべての年齢階層で5割以上となっている。



## 5. 介護について

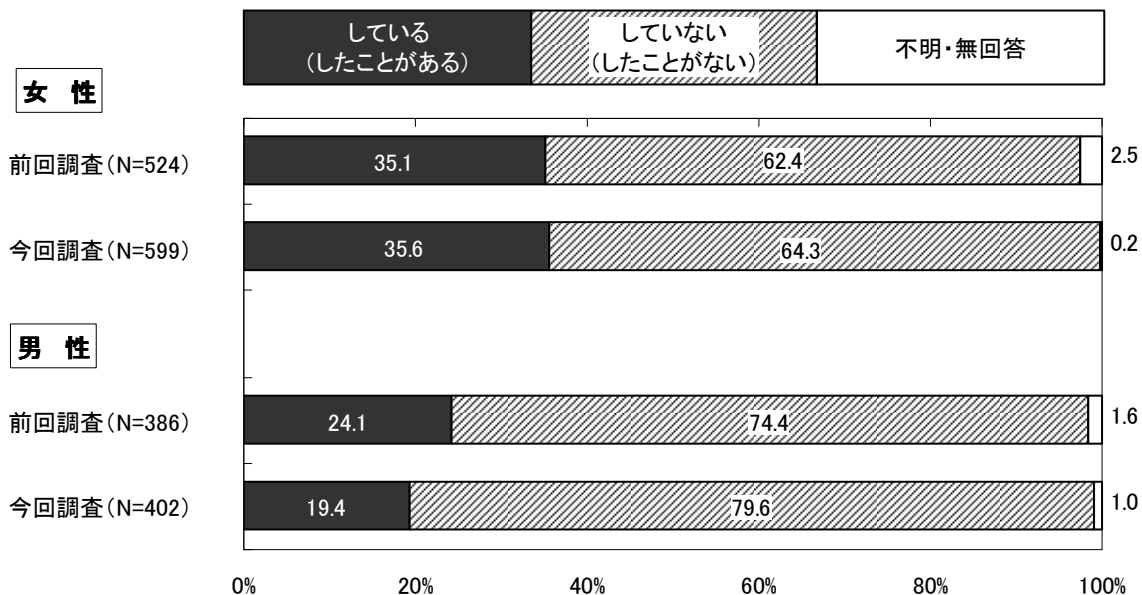
問7 あなたは今、家庭の誰かを介護していますか。または介護をしたことがありますか。(単数回答)

介護の経験についてみると、「している(したことがある)」が女性では35.6%、男性では19.4%となっている。年齢階層別にみると、女性では60歳以上で「している(したことがある)」が5割以上となっている一方、男性ではすべての年齢階層で「していない(したことがない)」が6割以上となっている。また、「している(したことがある)」では、女性・男性ともに若干の増減はあるものの、年齢が上がるにつれて増加している。



## ◆前回調査（平成17年度）との比較

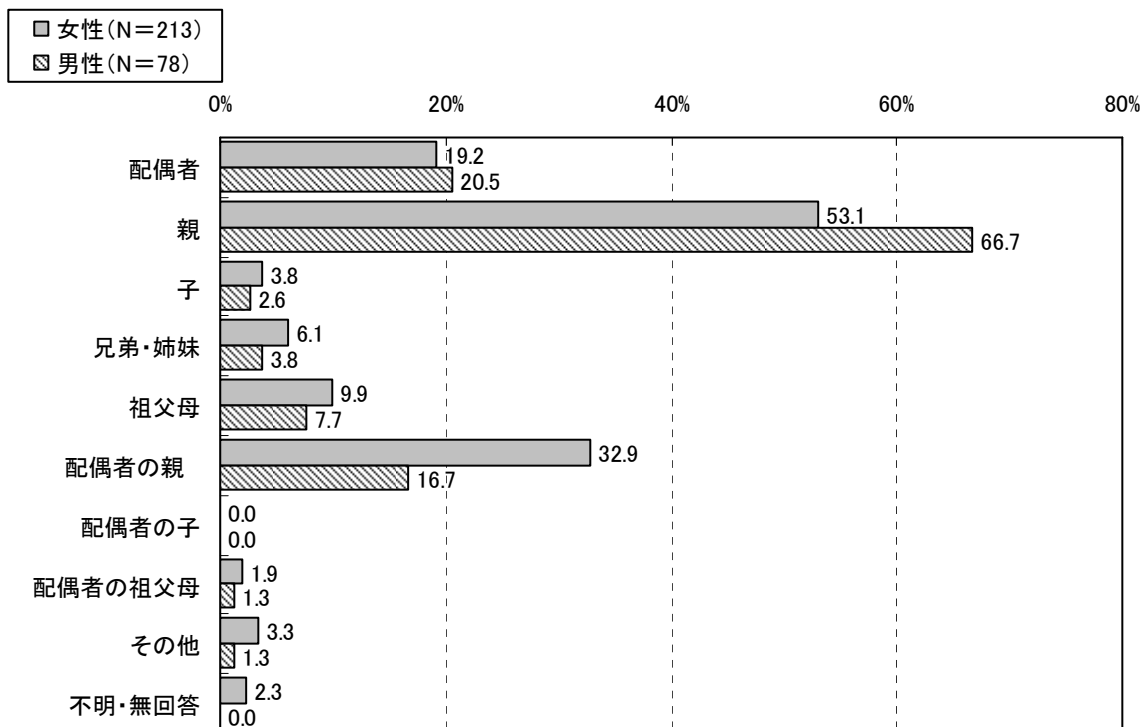
前回調査（平成17年度）との比較でみると、女性では「している（したことがある）」が前回調査 35.1%、今回調査 35.6%とあまり差はみられず、「していない（したことがない）」が前回調査 62.4%、今回調査 64.3%と 1.9 ポイント増加している。男性では「している（したことがある）」が前回調査 24.1%、今回調査 19.4%と 4.7 ポイント減少しており、「していない（したことがない）」が前回調査 74.4%、今回調査 79.6%と 5.2 ポイント増加している。



### 〔問7「している（したことがある）」の回答者〕

#### 問8 介護した相手は誰ですか。（複数回答）

介護した相手についてみると、女性・男性ともに「親」が最も多く、それぞれ 53.1%、66.7%となっている。次いで、女性では「配偶者の親」が 32.9%、「配偶者」が 19.2%、男性では「配偶者」が 20.5%、「配偶者の親」が 16.7%となっている。また、「配偶者の親」では、女性の方が男性よりも割合は多く、2倍近くの差がみられる。

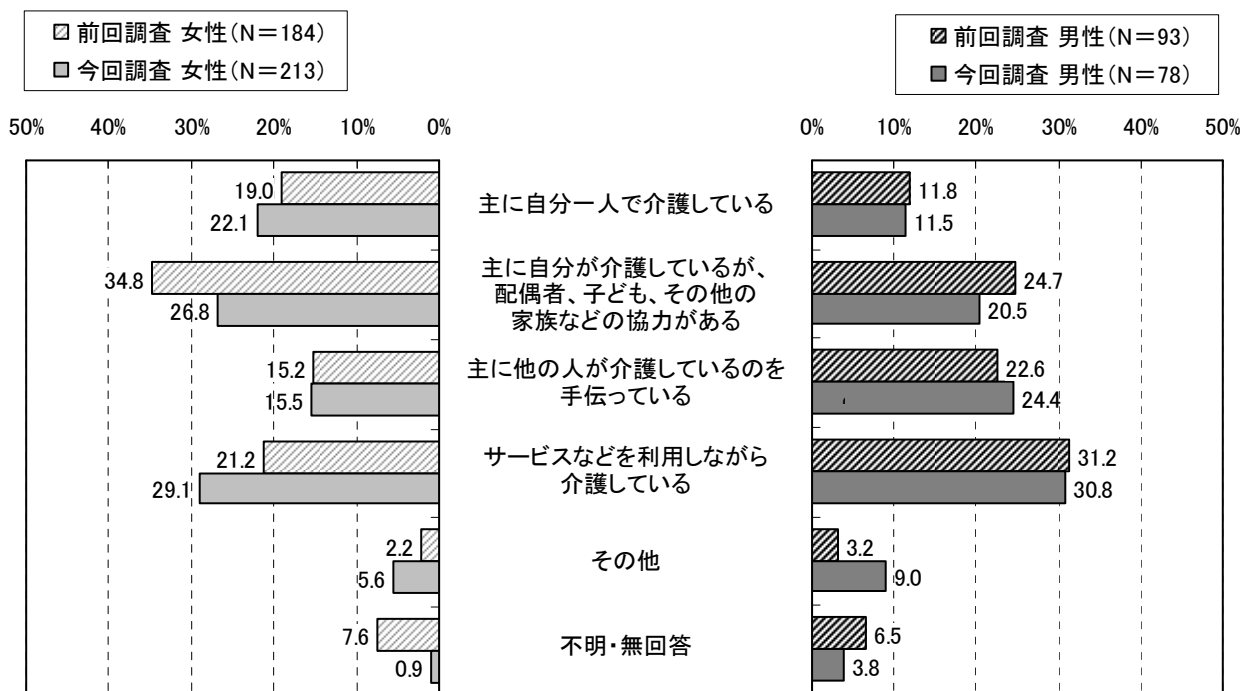


〔問7「している（したことがある）」の回答者〕

問9 介護はどのように行っていますか。（または行っていましたか）（単数回答）

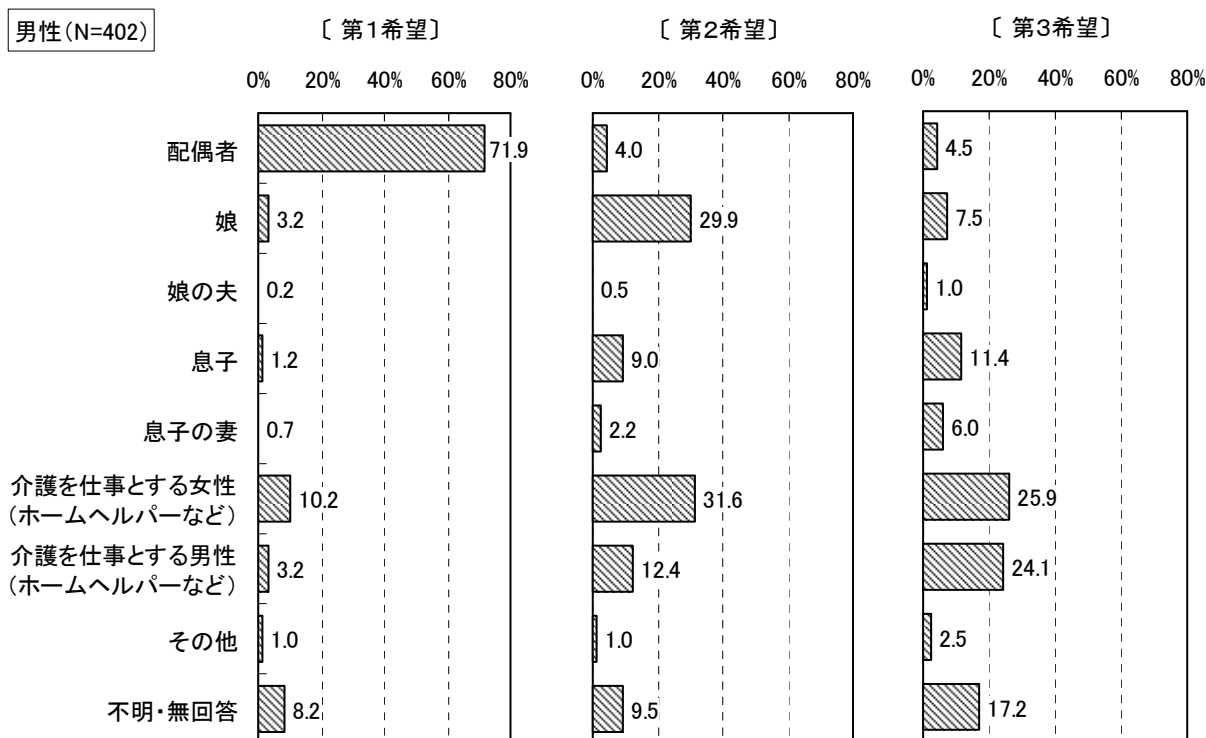
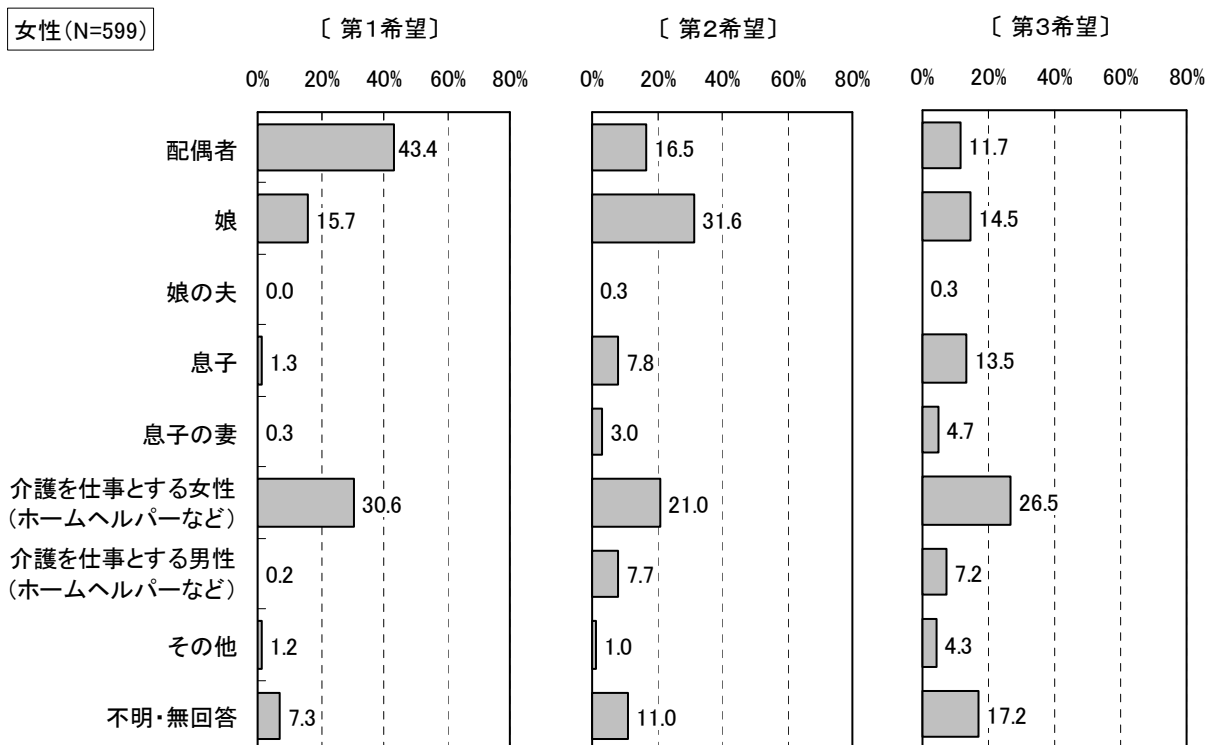
介護はどのように行っているかについてみると、女性・男性ともに「サービスなどを利用しながら介護している」が最も多く、それぞれ 29.1%、30.8%となっている。次いで、女性では「主に自分が介護しているが、配偶者、子ども、その他の家族などの協力がある」が 26.8%、「主に自分一人で介護している」が 22.1%となっている。男性では「主に他の人が介護しているのを手伝っている」が 24.4%、「主に自分が介護しているが、配偶者、子ども、その他の家族などの協力がある」が 20.5%となっている。

前回調査（平成 17 年度）との比較でみると、女性では前回調査で「主に自分が介護しているが、配偶者、子ども、その他の家族などの協力がある」が 34.8%と最も多くなっていたが、今回調査では割合が 8.0 ポイント減少している。また、今回調査で「サービスなどを利用しながら介護している」が前回調査より 7.9 ポイント増加している。男性では、前回調査、今回調査ともに「サービスなどを利用しながら介護している」が最も多くなっているが、割合が今回調査で 0.4 ポイント減少している。



問 10 あなた自身が介護をされるとしたら、主に誰に介護してもらいたいですか。  
(複数回答 [上位3つまで])

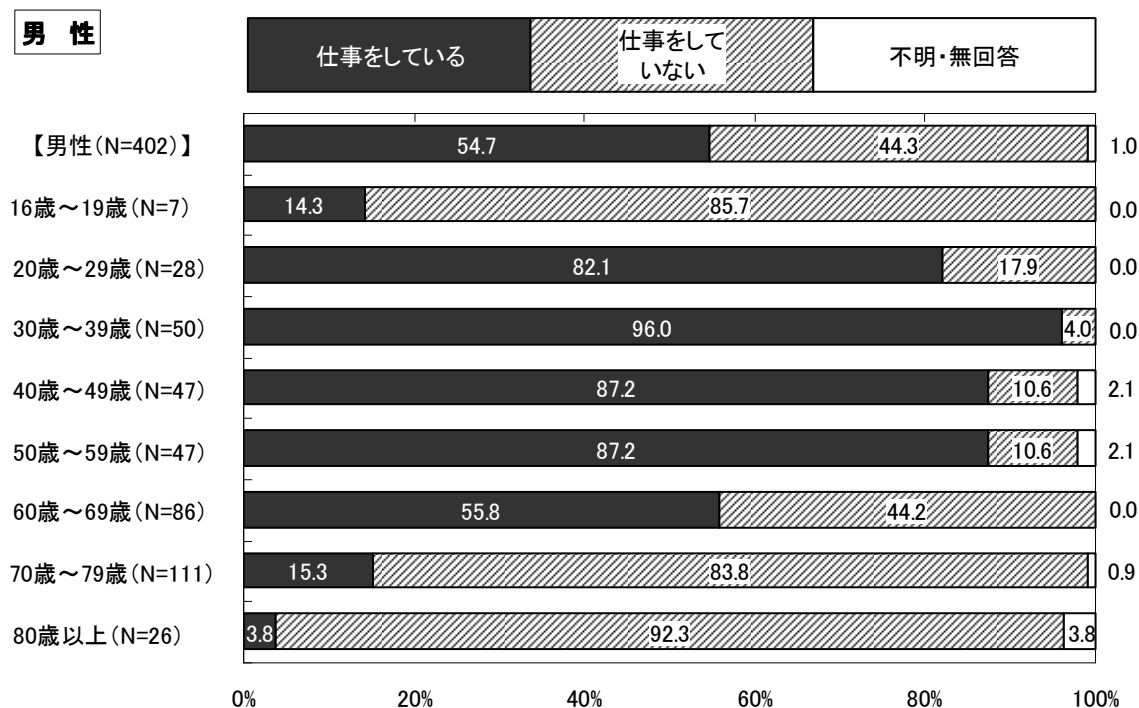
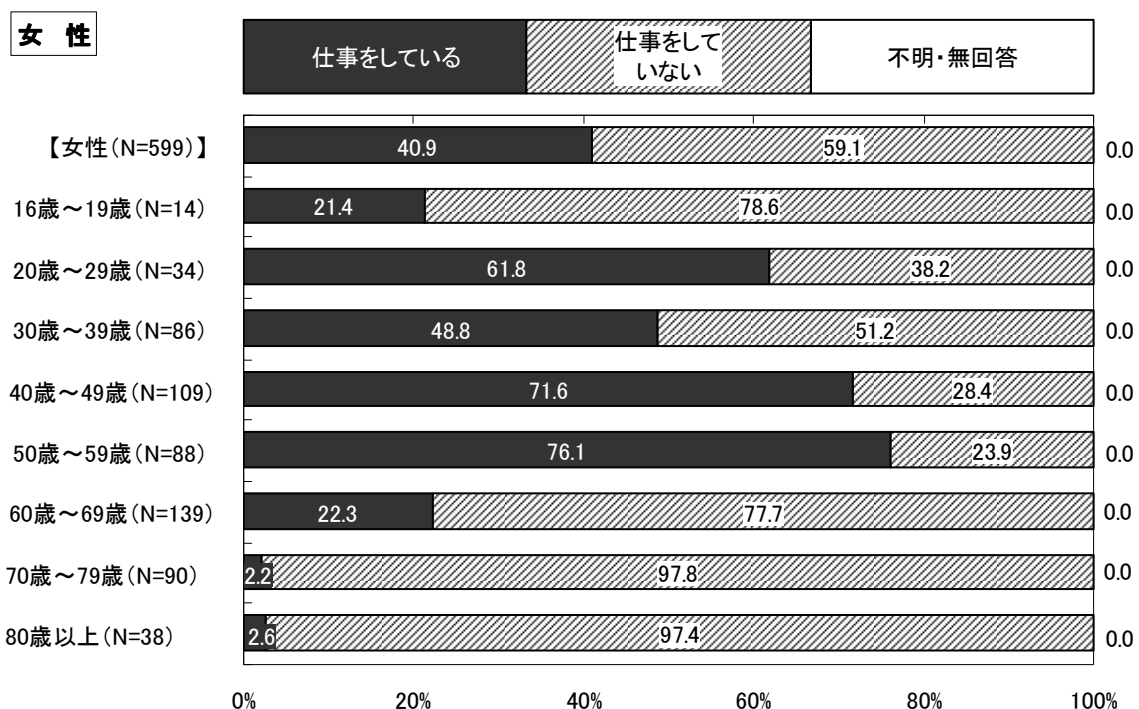
主に誰に介護してもらいたいかについては、第1希望では女性・男性ともに、「配偶者」がそれぞれ43.4%、71.9%と最も多く、第2希望では女性では「娘」が31.6%、男性では「介護を仕事とする女性（ホームヘルパーなど）」が31.6%とそれぞれ最も多く、第3希望では女性・男性ともに「介護を仕事とする女性（ホームヘルパーなど）」がそれぞれ26.5%、25.9%と、最も多くなっている。



## 6. 仕事について

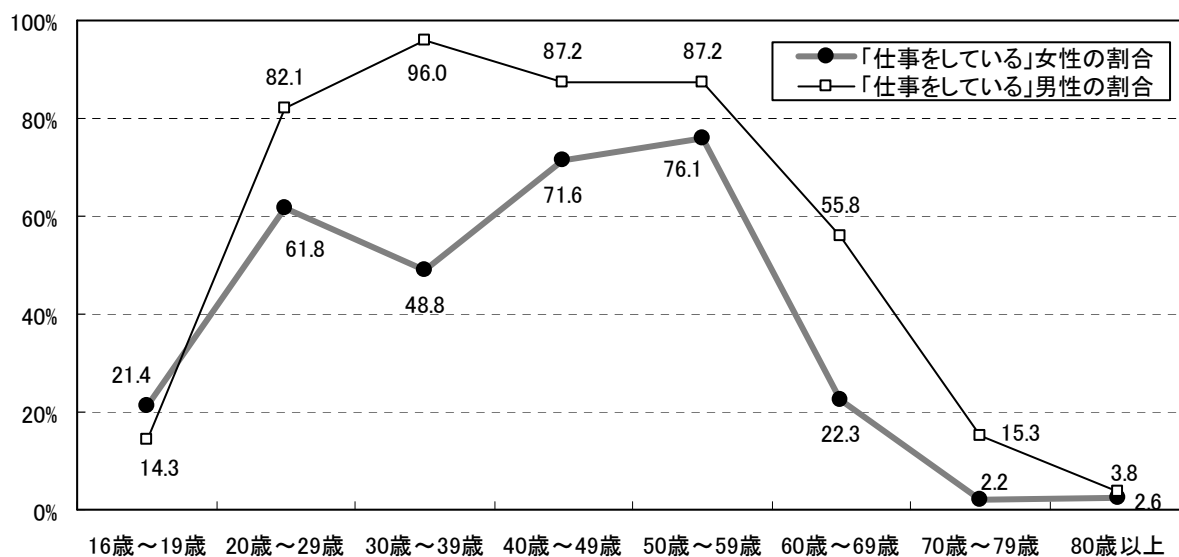
問 11 あなたは、現在、収入をとまなう仕事についていますか。産前・産後、育児介護休暇中の人は働いているものとみなします。(単数回答)

現在、収入をとまなう仕事についているかについてみると、「仕事をしている」が女性では40.9%、男性では54.7%となっている。年齢階層別でみると、女性では「仕事をしている」が20歳～29歳で6割となっているものの、30～39歳で5割を下回り、40歳～59歳で7割と、M字型を示している。男性では「仕事をしている」が20～59歳まで8割以上となっている。





◆就労状況

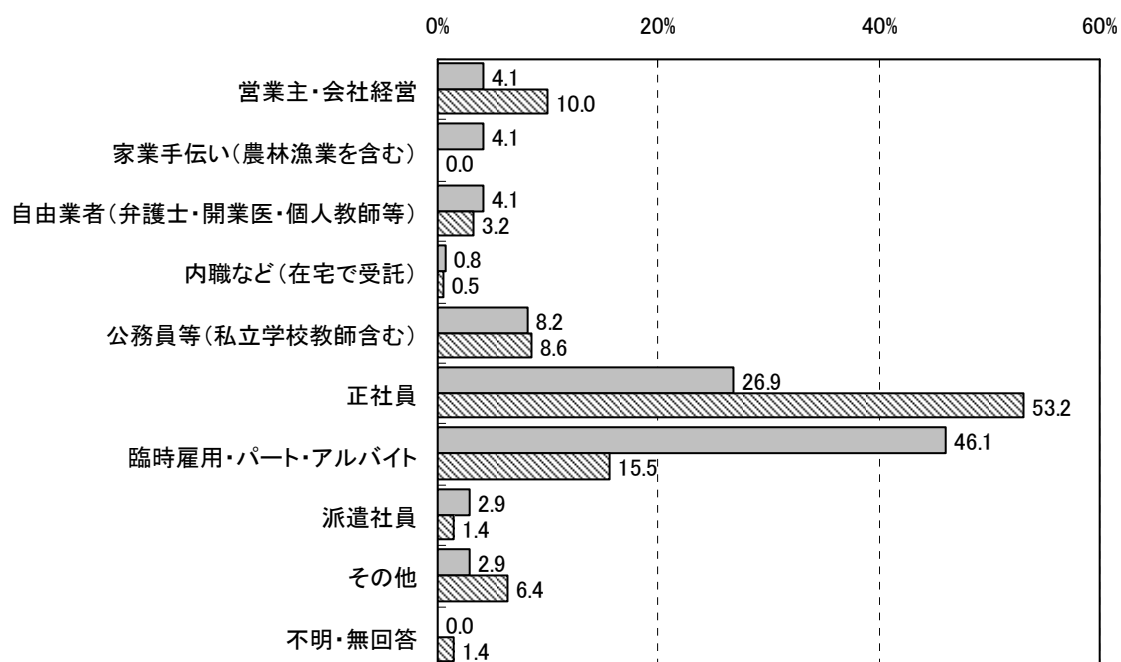


〔問11「仕事をしている」の回答者〕

問12 どのような仕事をしていますか。(単数回答)

仕事の内容についてみると、女性では「臨時雇用・パート・アルバイト」が46.1%と最も多く、次いで「正社員」が26.9%となっている。男性では「正社員」が53.2%と最も多く、次いで「臨時雇用・パート・アルバイト」が15.5%となっている。

□ 女性(N=245)  
▨ 男性(N=220)

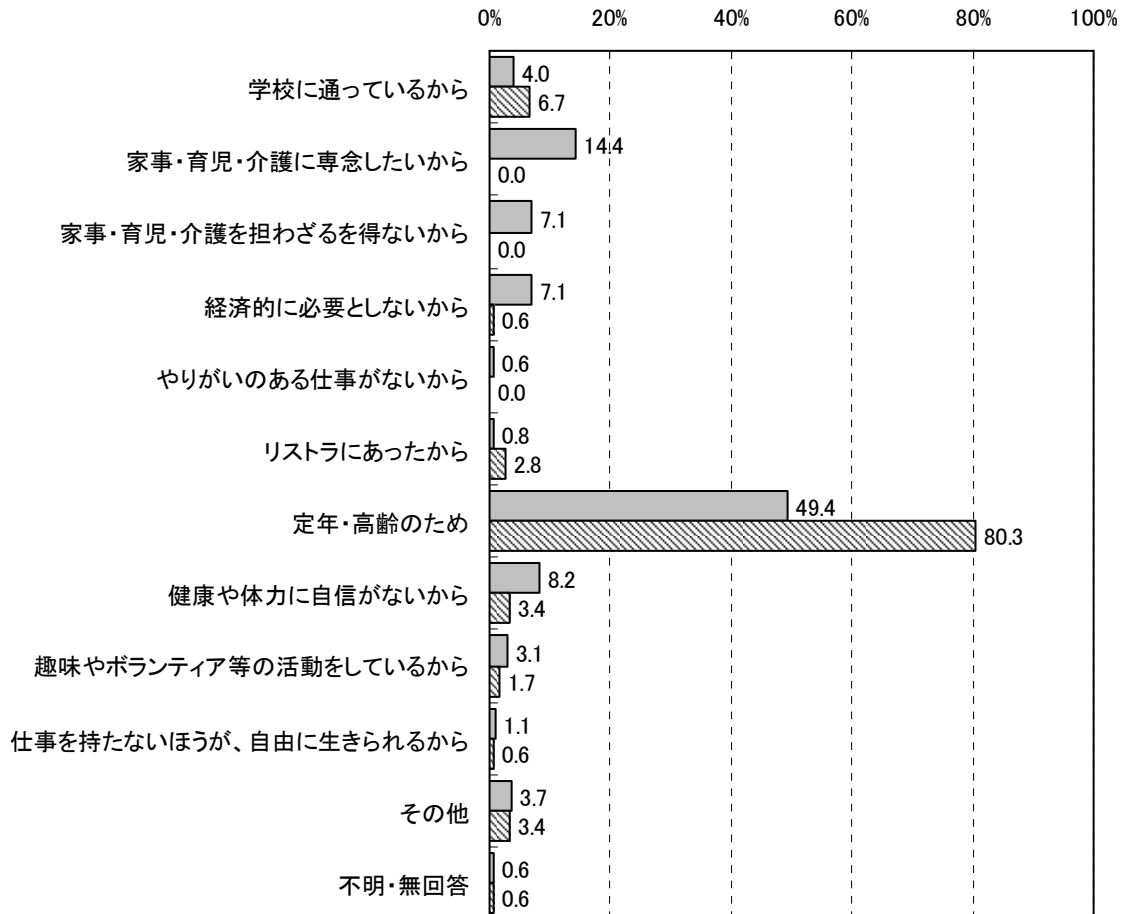


【問11「仕事をしていない」の回答者】

問13 仕事をしていない理由はなんですか。(単数回答)

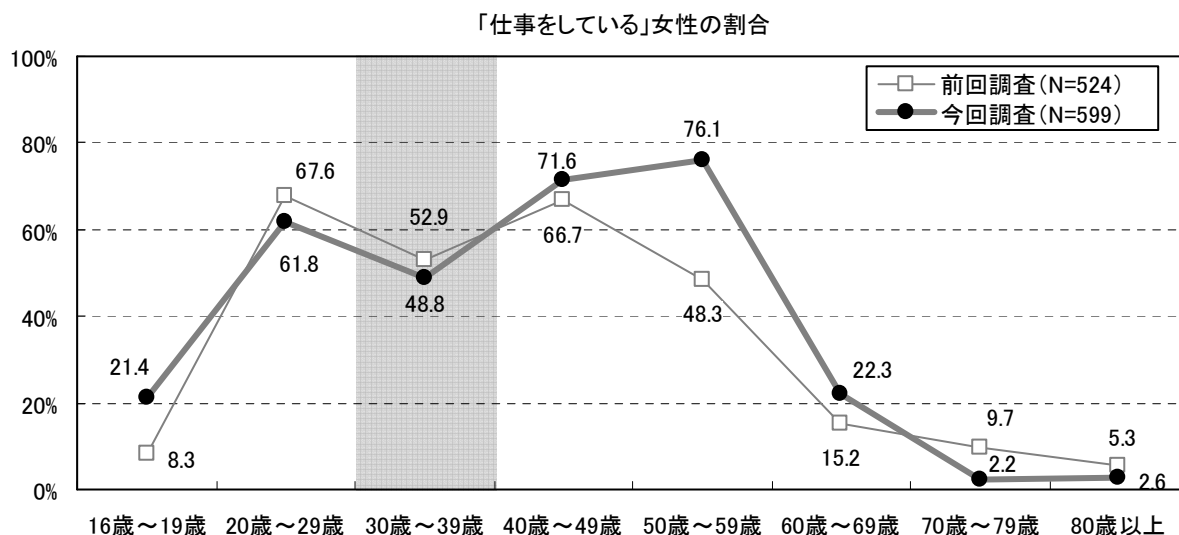
仕事をしていない理由についてみると、女性・男性ともに「定年・高齢のため」がそれぞれ49.4%、80.3%と最も多く、次いで、女性では「家事・育児・介護に専念したいから」が14.4%、男性では「学校に通っているから」が6.7%となっている。

□ 女性(N=354)  
▨ 男性(N=178)



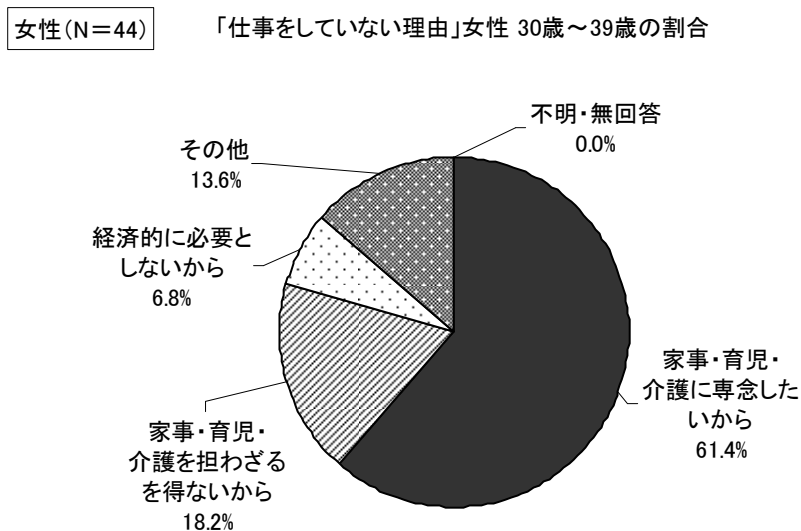
◆前回調査（平成 17 年度）との比較 女性の就労状況

前回調査（平成 17 年度）との比較でみると、今回調査では 20 歳～29 歳で前回調査より 5.8 ポイント、30 歳～39 歳で 4.1 ポイント、それぞれ減少している。



◆30～39 歳 女性の「仕事をしていない」理由（今回調査）

30 歳～39 歳の女性で仕事をしていない理由についてみると、「家事・育児・介護に専念したいから」が 61.4%、「家事・育児・介護を担わざるを得ないから」が 18.2%、「経済的に必要としないから」が 6.8%となっている。

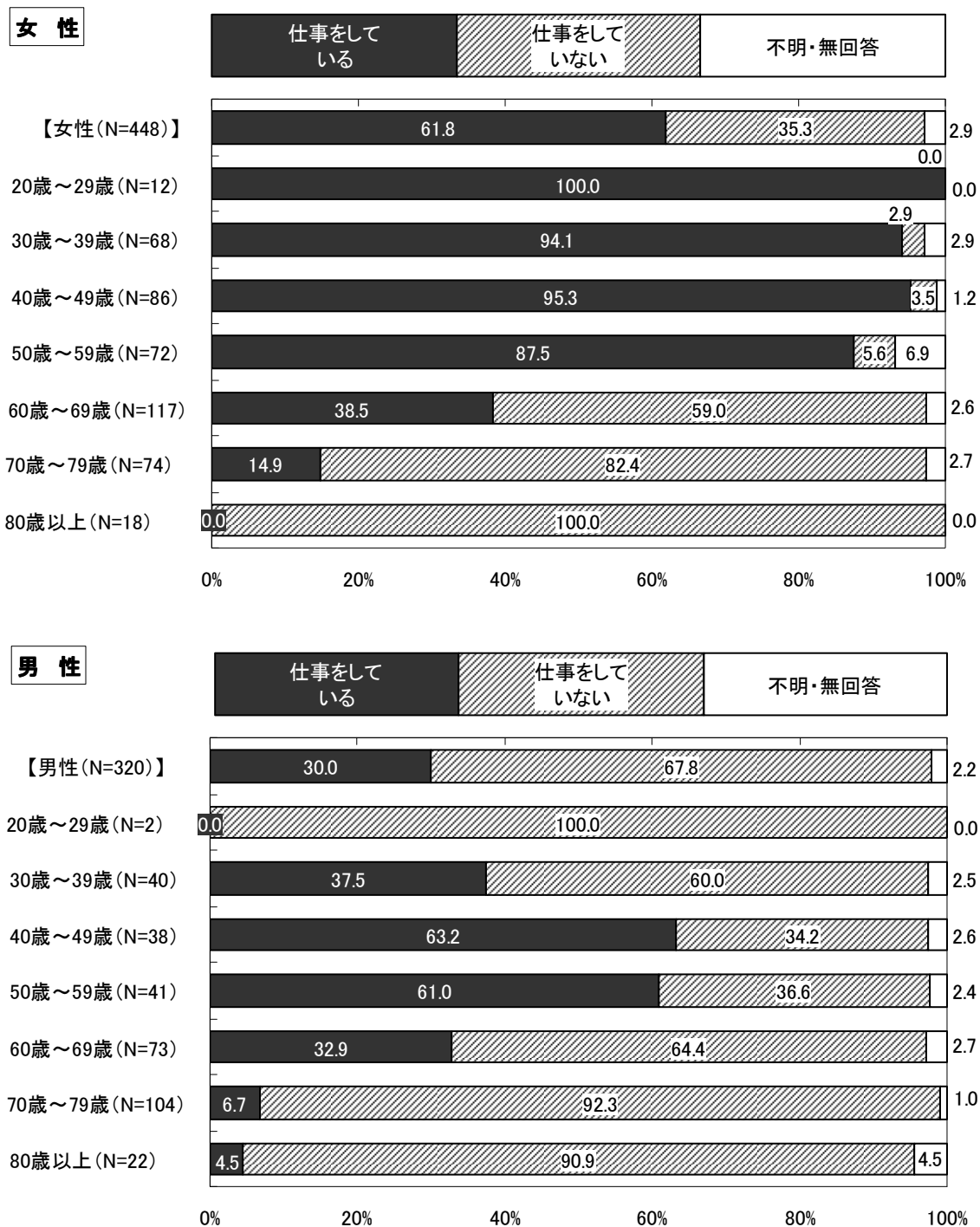


〔◆配偶者やパートナーと一緒に暮らしている方〕

問 14 あなたの配偶者やパートナーは収入を得る仕事をしていますか。(単数回答)

配偶者やパートナーは収入を得る仕事をしているかについてみると、「仕事をしている」が女性では61.8%、男性では30.0%となっている。

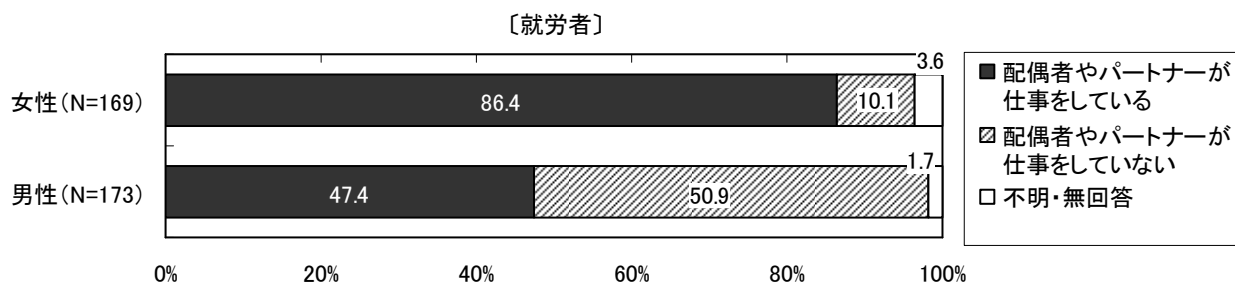
年齢階層別でみると、女性では「仕事をしている」が20歳～59歳で8割以上となっており、男性では「仕事をしている」が40歳～59歳で6割となっている。



※16歳～19歳は、男女ともに該当者なし(図省略)

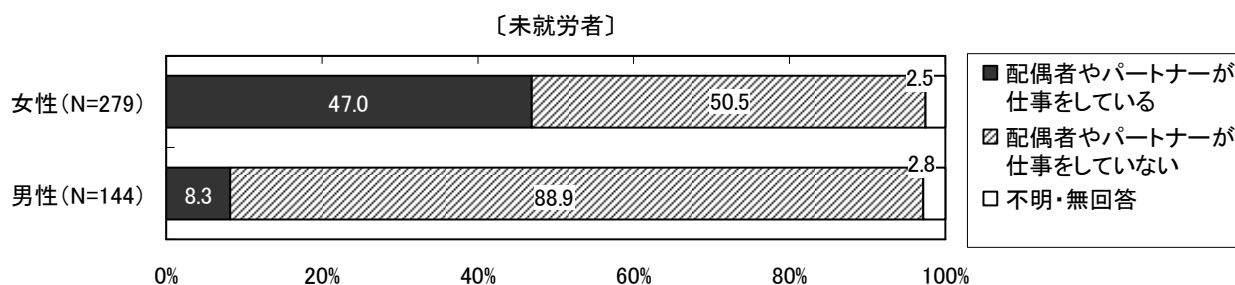
◆本人が就労している男女の配偶者・パートナーの就労状況

本人の就労状況と配偶者・パートナーの就労状況を合わせてみると、本人が就労しており、「配偶者やパートナーが仕事をしている」割合は、女性で86.4%、男性で47.4%となっている。



◆本人が就労していない男女の配偶者・パートナーの就労状況

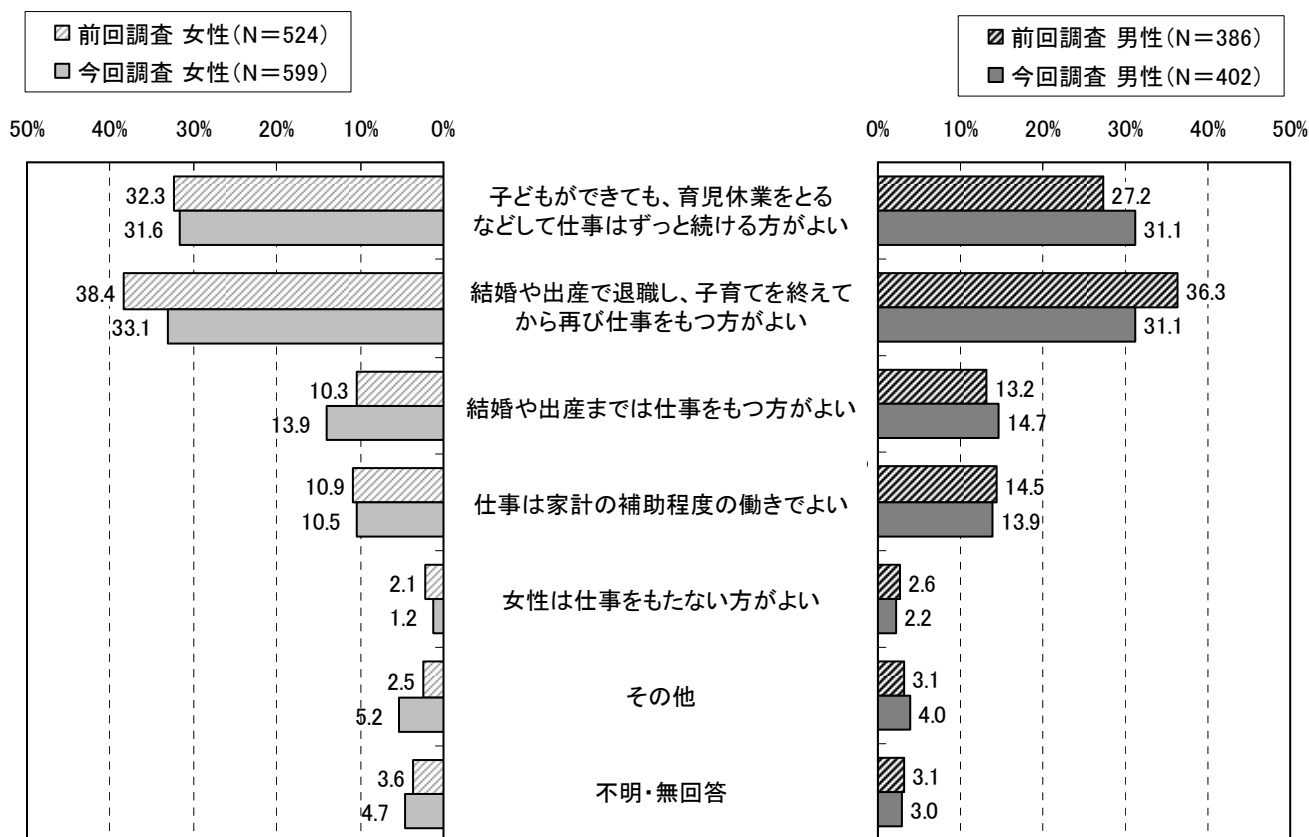
本人が未就労で、「配偶者やパートナーが仕事をしている」割合は、女性で47.0%、男性で8.3%となっている。



問 15 一般的に女性が収入をとまなう仕事をもつことについて、あなたはどのように思いますか。(単数回答)

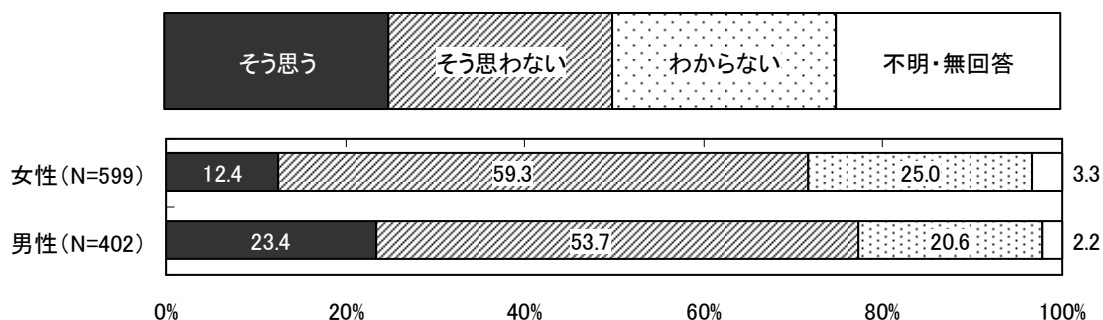
一般的に女性が収入をとまなう仕事をもつことをどう思うかについてみると、女性では「結婚や出産で退職し、子育てを終えてから再び仕事をもつ方がよい」が 33.1%と最も多く、次いで「子どもができて、育児休業をとるなどして仕事はずっと続ける方がよい」が 31.6%となっている。男性では「結婚や出産で退職し、子育てを終えてから再び仕事をもつ方がよい」「子どもができて、育児休業をとるなどして仕事はずっと続ける方がよい」がともに 31.1%と多くなっている。

前回調査（平成 17 年度）との比較でみると、女性・男性ともに前回調査で「結婚や出産で退職し、子育てを終えてから再び仕事をもつ方がよい」がそれぞれ 38.4%、36.3%と最も多くなっていたが、今回調査では割合が、女性で 5.3 ポイント、男性で 5.2 ポイント減少している。「子どもができて、育児休業をとるなどして仕事はずっと続ける方がよい」では、女性では、前回調査よりも割合が 0.7 ポイント減少しているが、逆に男性では 3.9 ポイント増加している。また、「結婚や出産までは仕事をもつ方がよい」では、女性・男性ともに前回調査よりも割合が、それぞれ 3.6 ポイント、1.5 ポイント増加している。



問 16 あなたは、現在の女性は働きやすい状況にあると思いますか。(単数回答)

現在の女性は働きやすい状況にあるかについては、女性では「そう思う」が12.4%、「そう思わない」が59.3%、「わからない」が25.0%となっている。男性では「そう思う」が23.4%、「そう思わない」が53.7%、「わからない」が20.6%となっている。

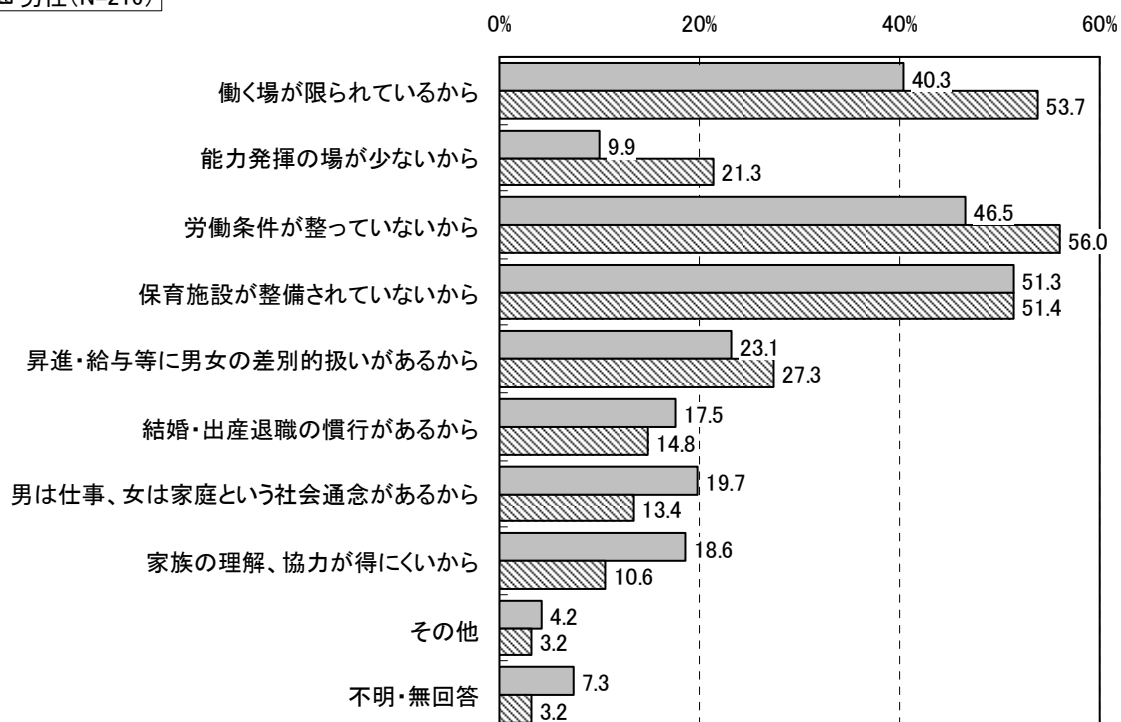


〔問 16 「そう思わない」の回答者〕

問 17 そう思わない理由は何ですか。(複数回答 [3つまで])

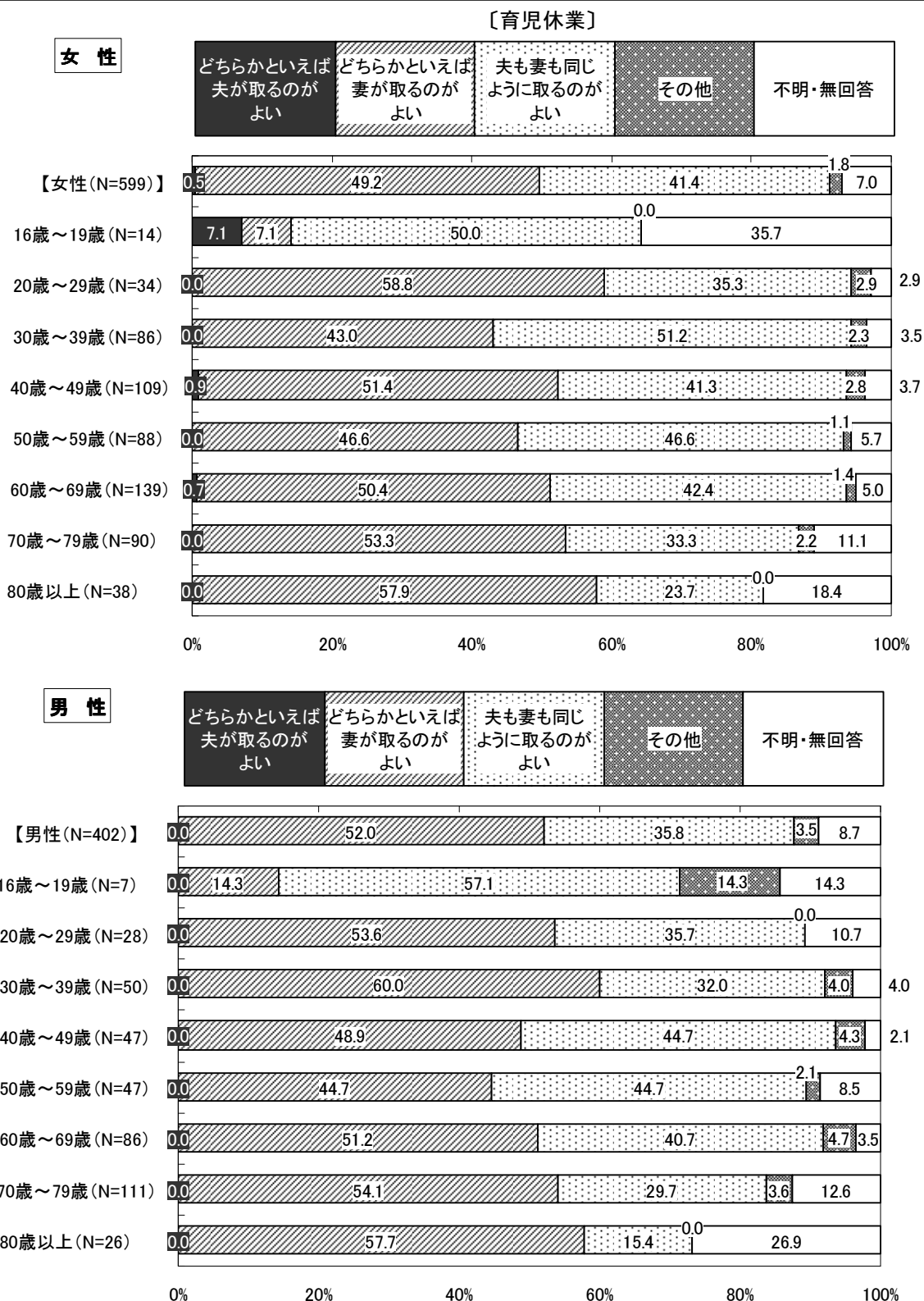
現在の女性は働きやすい状況にあると思わない理由についてみると、女性では「保育施設が整備されていないから」が51.3%と最も多く、次いで「労働条件が整っていないから」が46.5%、「働く場が限られているから」が40.3%となっている。男性では「労働条件が整っていないから」が56.0%と最も多く、次いで「働く場が限られているから」が53.7%、「保育施設が整備されていないから」が51.4%となっている。

□ 女性(N=355)  
▨ 男性(N=216)



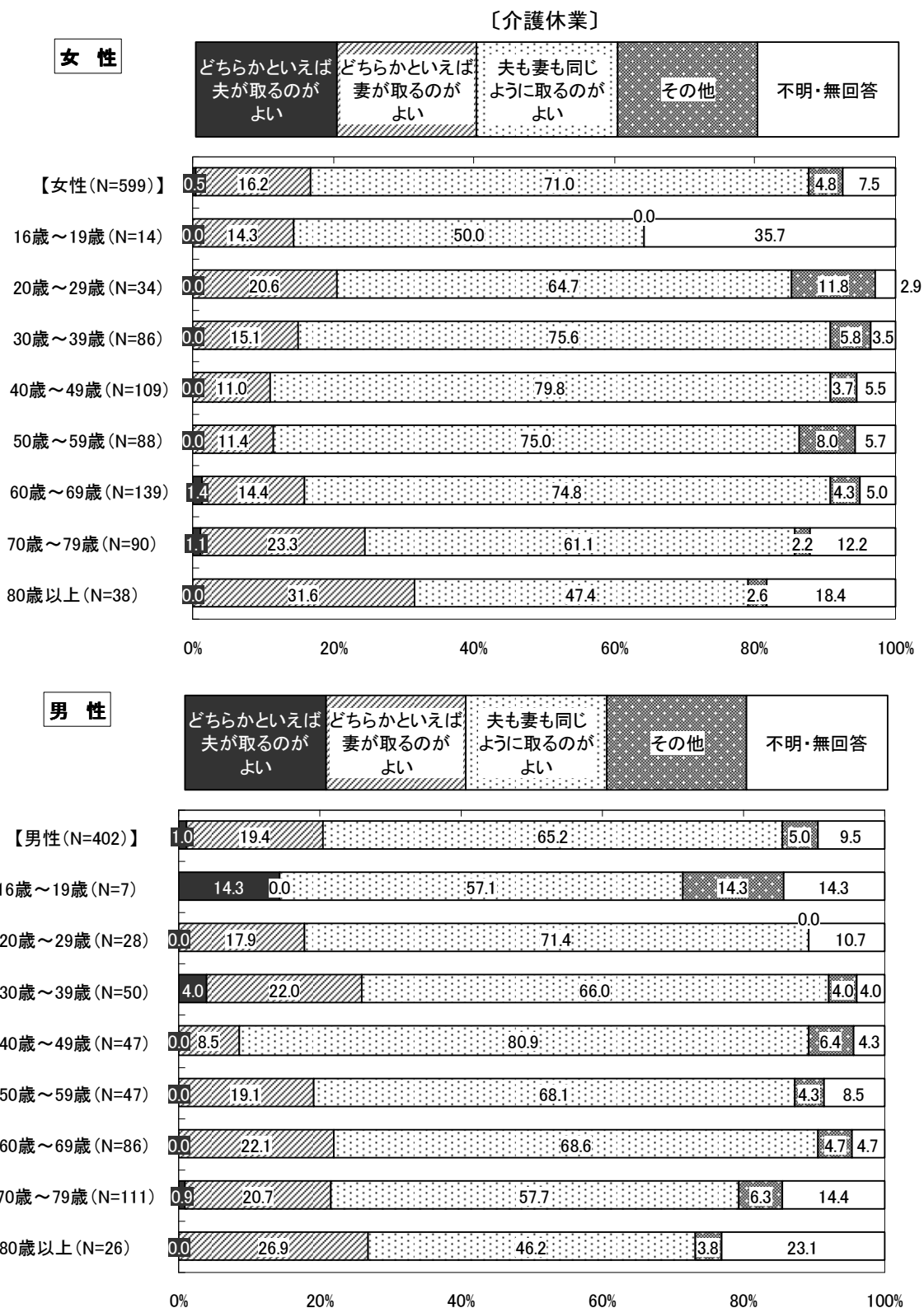
問 18 家庭で育児や介護が必要なとき、共働き夫婦が育児休業や介護休業を取るとしたらどうするのがよいと思いますか。(単数回答)

共働き夫婦が育児休業や介護休業を取るとしたらどうするのがよいと思うかについてみると、『育児休業』では、女性・男性ともに「どちらかといえば妻が取るのがよい」が、それぞれ 49.2%、52.0%と最も多くなっている。また、「どちらかといえば夫が取るのがよい」では、女性では 0.5%、男性では 0.0%と非常に少ない結果となっている。年齢階層別にみると、女性の 16 歳～19 歳、30～39 歳、男性の 16 歳～19 歳で「夫も妻も同じように取るのがよい」が最も多く、5 割以上となっている。





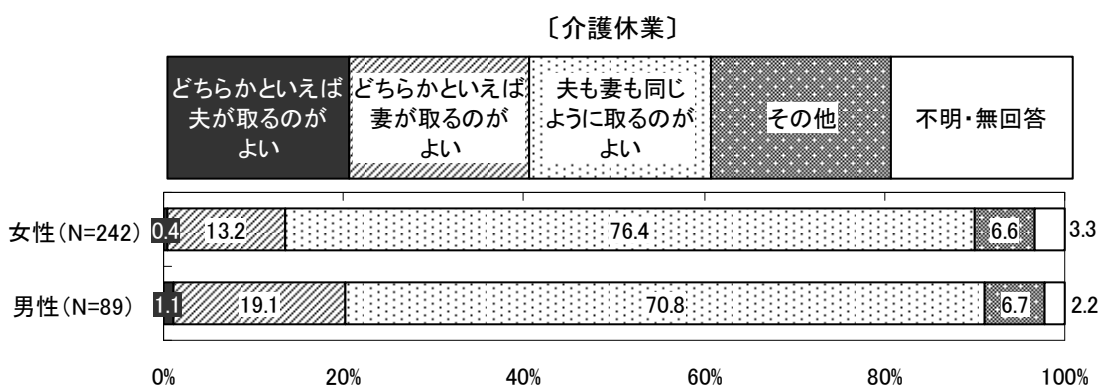
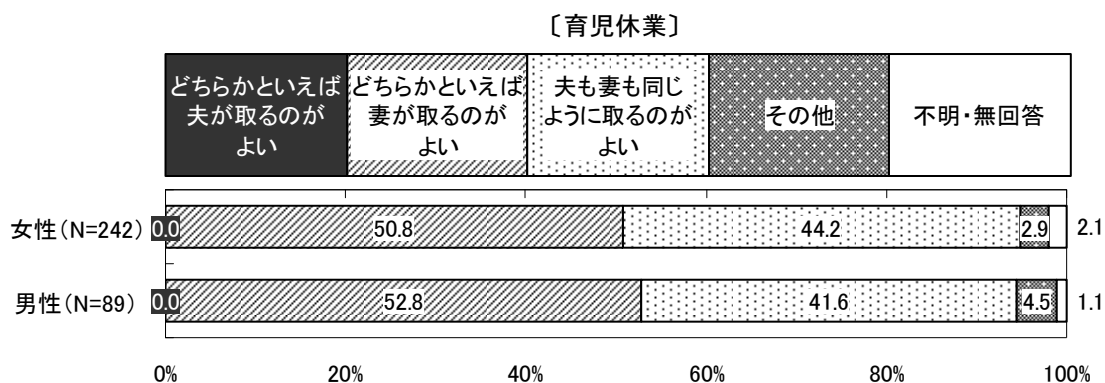
『介護休業』では、女性・男性ともに「夫も妻も同じように取るのがよい」が、それぞれ71.0%、65.2%と最も多くなっている。また、「どちらかといえば夫が取るのがよい」では、女性では0.5%、男性では1.0%とどちらも少数の結果となっている。年齢階層別にみると、女性・男性ともにすべての年齢階層で、「夫も妻も同じように取るのがよい」が最も多く、特に40歳～49歳では8割前後となっている。



◆配偶者またはパートナーと共働きの男女

配偶者・パートナーと共働きである状況と合わせてみると、『育児休業』では女性・男性ともに、「どちらかといえば妻が取るのがよい」が最も多く、それぞれ50.8%、52.8%となっている。

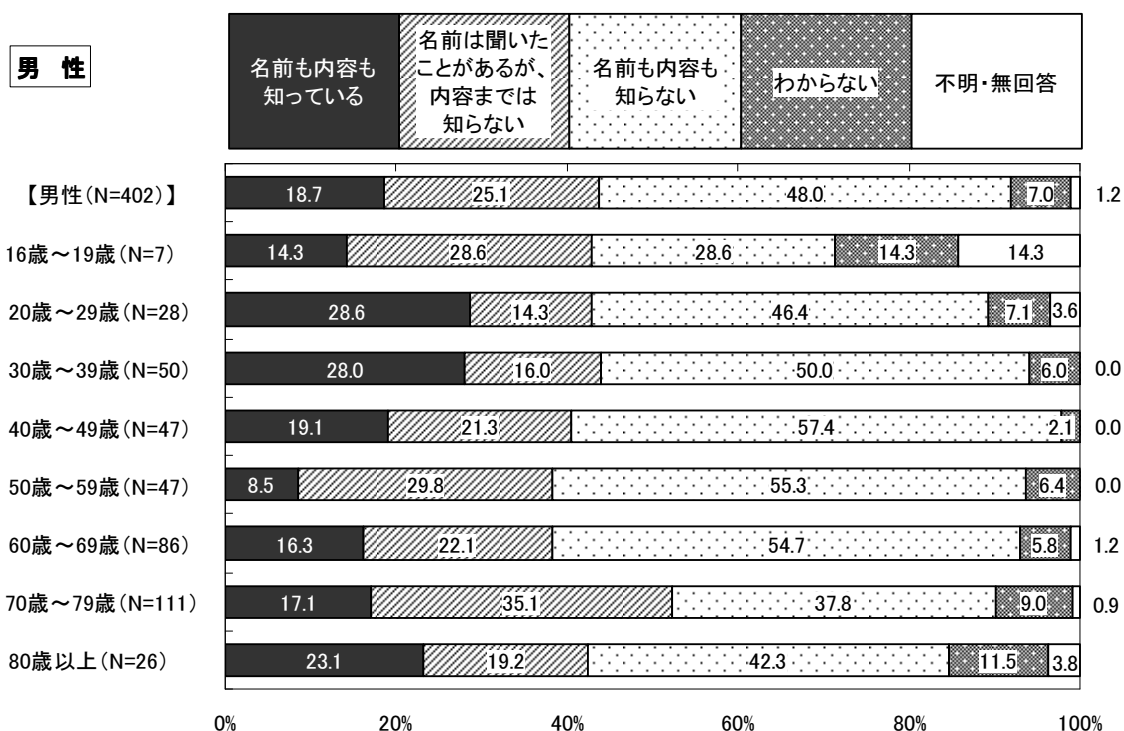
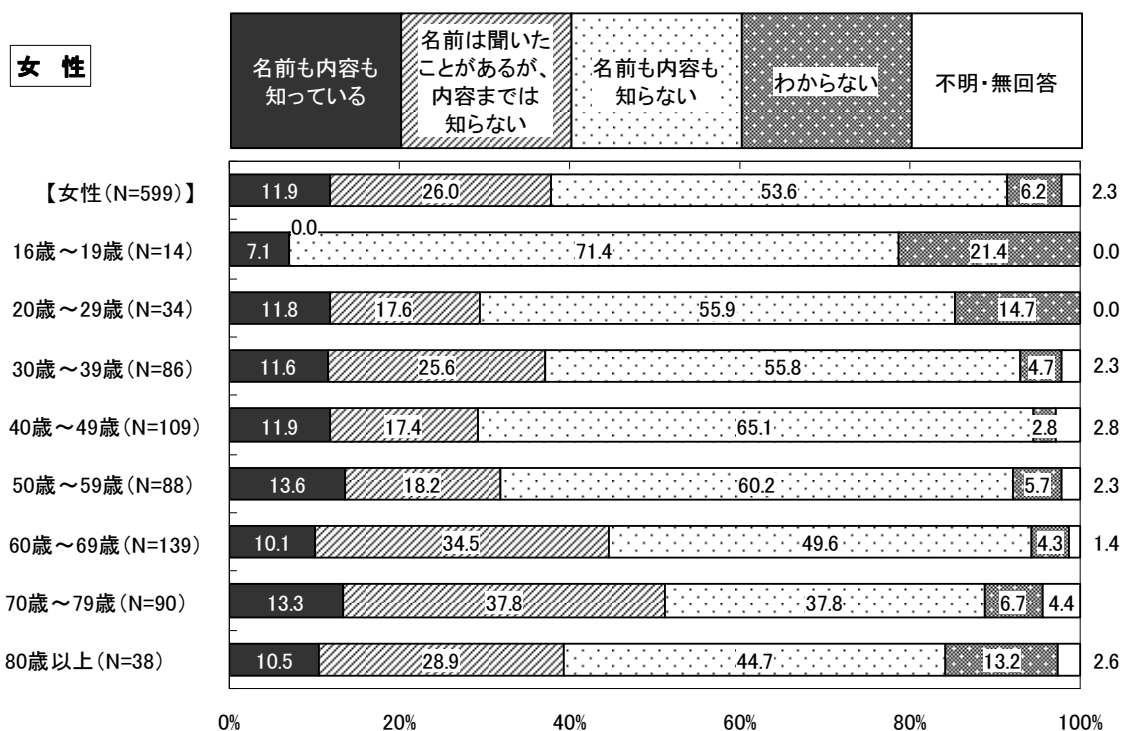
『介護休業』では女性・男性ともに、「夫も妻も同じように取るのがよい」が最も多く、それぞれ76.4%、70.8%となっている。



## 7. ワーク・ライフ・バランスについて

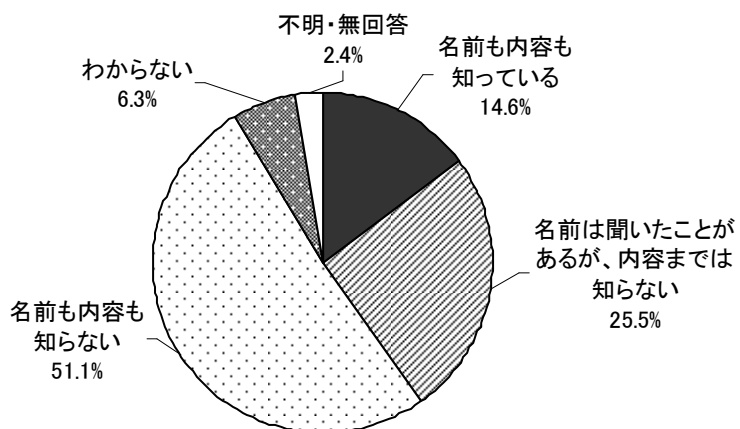
問 19 あなたは「仕事と生活の調和」すなわち「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っていますか。(単数回答)

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度についてみると、女性・男性ともに「名前も内容も知らない」が最も多く、それぞれ 53.6%、48.0%となっている。年齢階層別にみると、女性の70歳～79歳、男性の16歳～19歳を除くすべての年齢階層で、「名前も内容も知らない」が最も多くなっている。



◆ワーク・ライフ・バランスの認知度（全体）

全体(N=1,027)



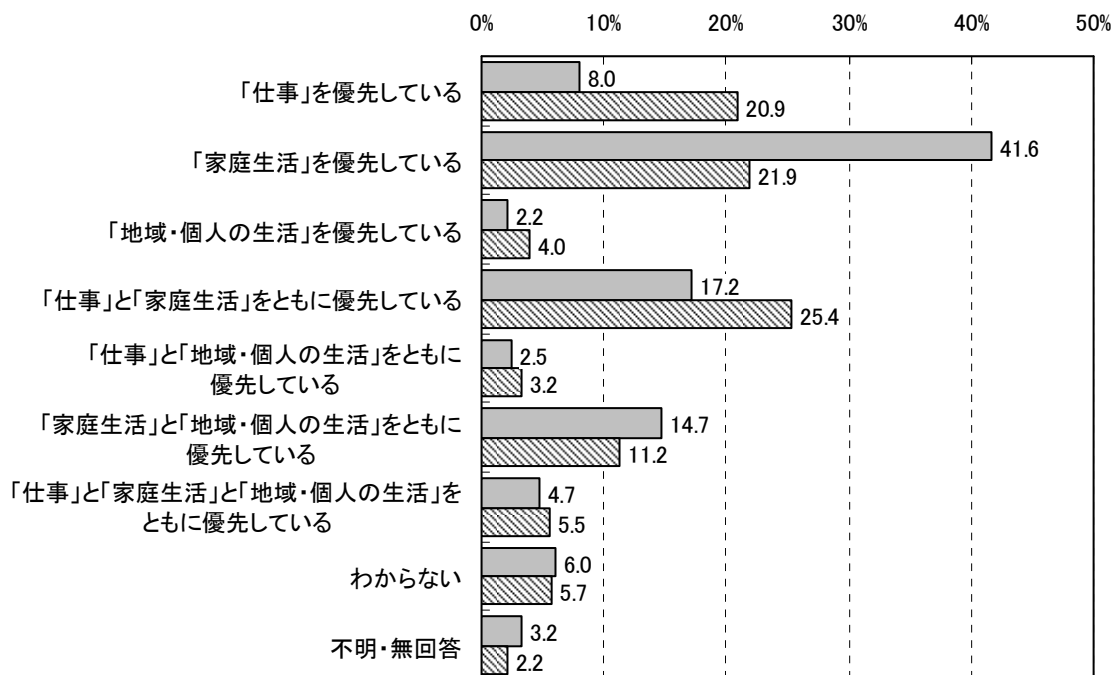
ワーク・ライフ・バランスの認知度を全体で見ると、「名前も内容も知らない」が51.1%と半数以上を占めている。

一方、「名前も内容も知っている」が1割強、「名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない」が2割強となっている。

問 20 あなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか。（単数回答）

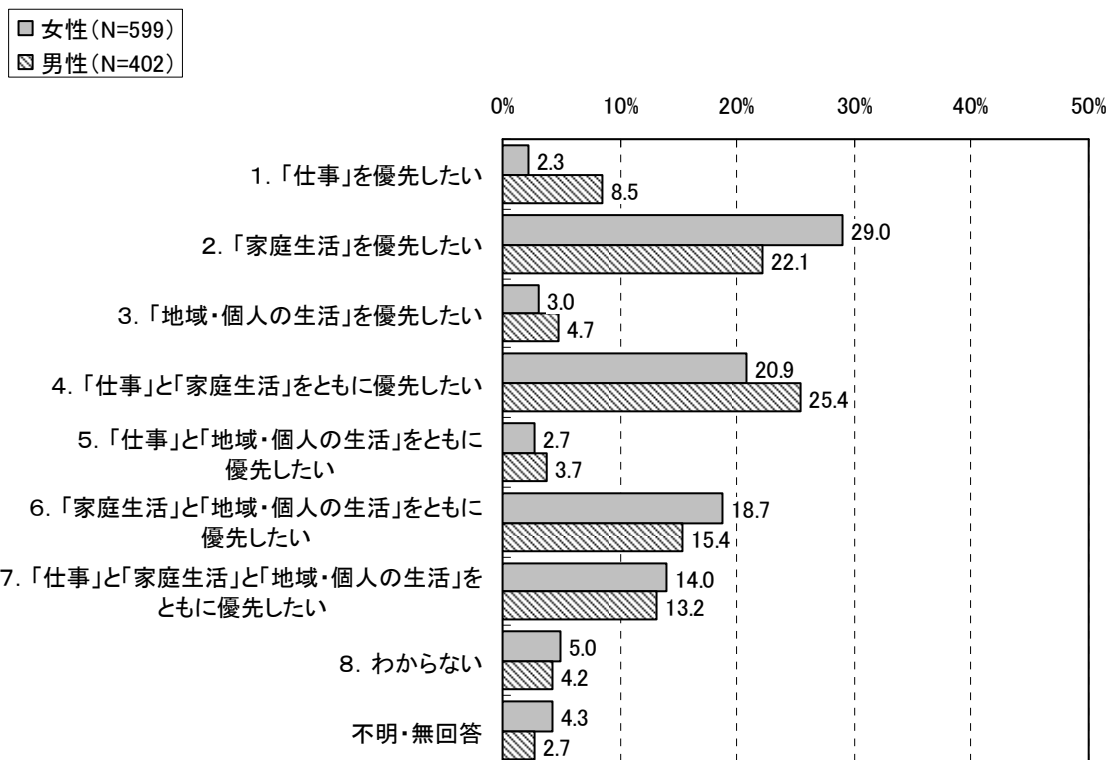
あなたの現実（現状）に最も近いものについてみると、女性では「『家庭生活』を優先している」が41.6%と最も多く、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が17.2%、「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先している」が14.7%となっている。男性では「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が25.4%と最も多く、次いで「『家庭生活』を優先している」が21.9%、「『仕事』を優先している」が20.9%となっている。

■ 女性(N=599)  
 ▨ 男性(N=402)



## 問 21 あなたの希望に最も近いものはどれですか。(単数回答)

希望に最も近いものについてみると、女性では『家庭生活』を優先したいが29.0%と最も多く、次いで『仕事』と『家庭生活』をともに優先したいが20.9%となっている。男性では『仕事』と『家庭生活』をともに優先したいが25.4%と最も多く、次いで『家庭生活』を優先したいが22.1%となっている。



### ◆ 現状と希望の比較

女性(N=599)	現状(している)	比較	希望(したい)
「仕事」を優先	8.0	>	2.3
「家庭生活」を優先	41.6	>	29.0
「地域・個人の生活」を優先	2.2	<	3.0
「仕事」と「家庭生活」をともに優先	17.2	<	20.9
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	2.5	<	2.7
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	14.7	<	18.7
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	4.7	<	14.0

単位: %

男性(N=402)	現状(している)	比較	希望(したい)
「仕事」を優先	20.9	>	8.5
「家庭生活」を優先	21.9	<	22.1
「地域・個人の生活」を優先	4.0	<	4.7
「仕事」と「家庭生活」をともに優先	25.4	=	25.4
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	3.2	<	3.7
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	11.2	<	15.4
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	5.5	<	13.2

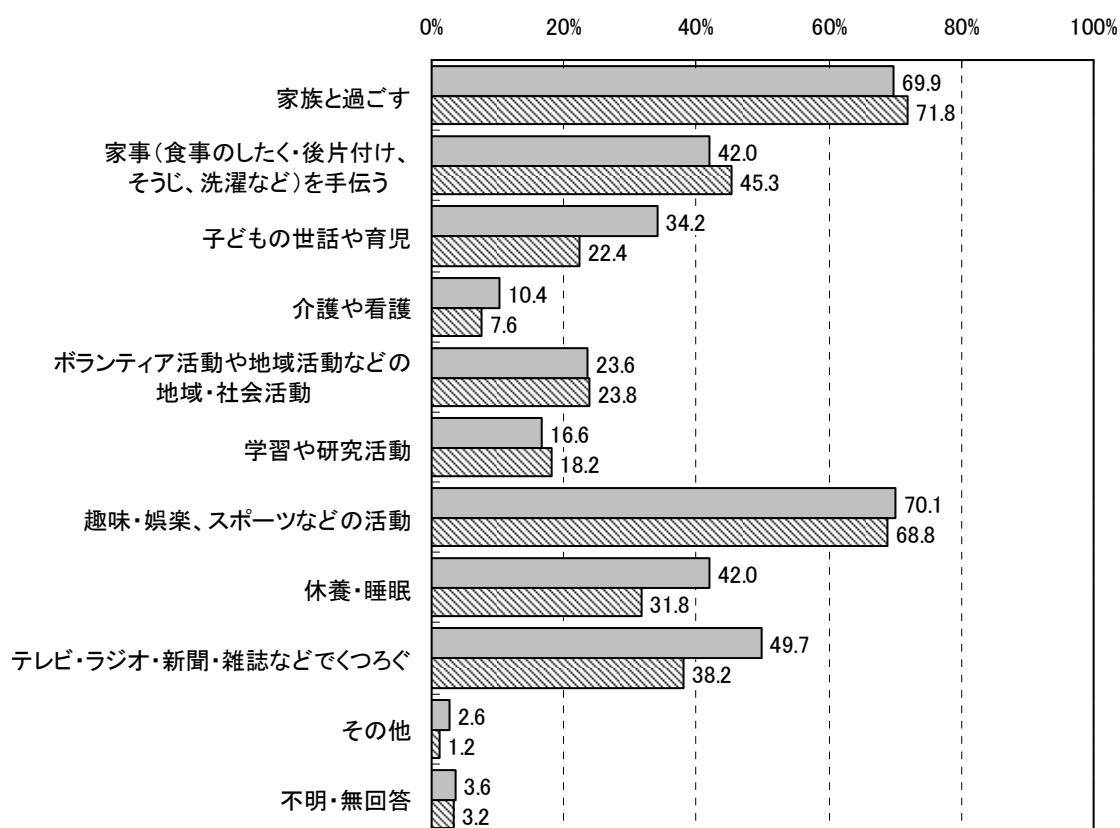
単位: %

〔問 21「2」～「7」のいずれかの回答者〕

問 22 家庭生活や地域・個人の生活としては、どのようなことをしたいと思いますか。  
(複数回答)

家庭生活や地域・個人の生活としては、どのようなことをしたいと思うかについてみると、女性では「趣味・娯楽、スポーツなどの活動」が70.1%と最も多く、次いで「家族と過ごす」が69.9%、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌などでくつろぐ」が49.7%となっている。男性では「家族と過ごす」が71.8%と最も多く、次いで「趣味・娯楽、スポーツなどの活動」が68.8%、「家事（食事のしたく・後片付け、そうじ、洗濯など）を手伝う」が45.3%となっている。

□ 女性(N=529)  
▨ 男性(N=340)

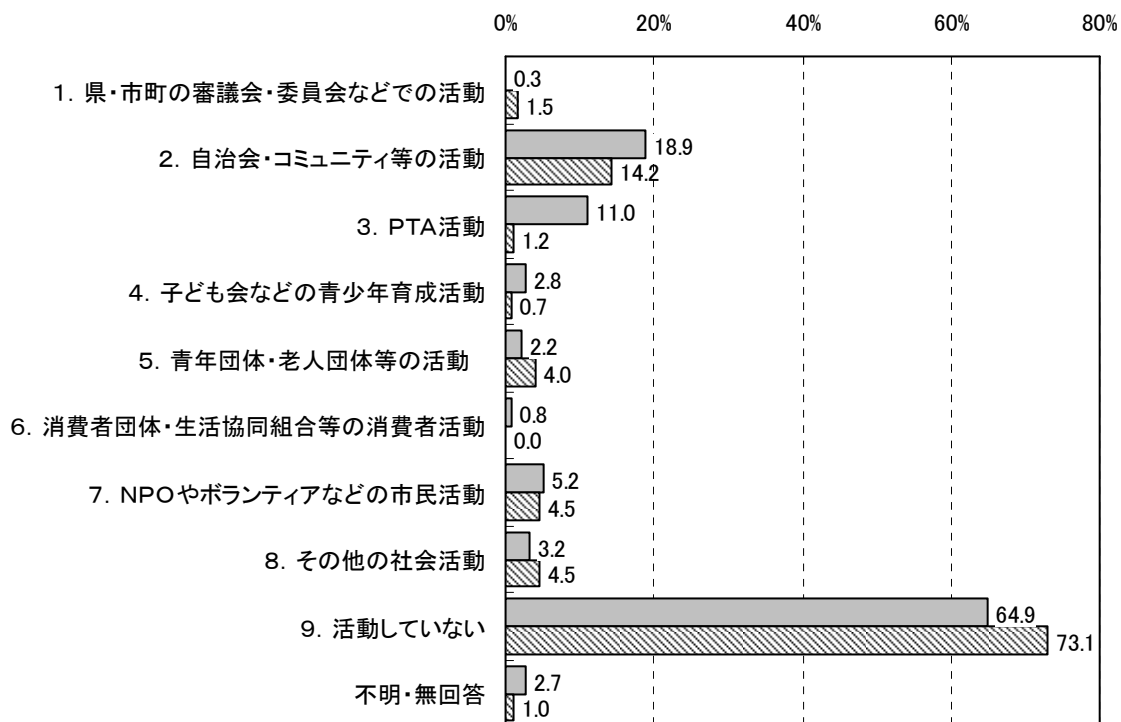


問 23 あなたは次のような活動をしていますか。(複数回答)

活動についてみると、女性・男性ともに「活動していない」が最も多く、それぞれ64.9%、73.1%となっている。

また、活動内容については、女性では「自治会・コミュニティ等の活動」が18.9%、「PTA活動」が11.0%となっている。男性では「自治会・コミュニティ等の活動」が14.2%、「NPOやボランティアなどの市民活動」「その他の社会活動」がともに4.5%となっている。

■ 女性(N=599)  
 ▨ 男性(N=402)

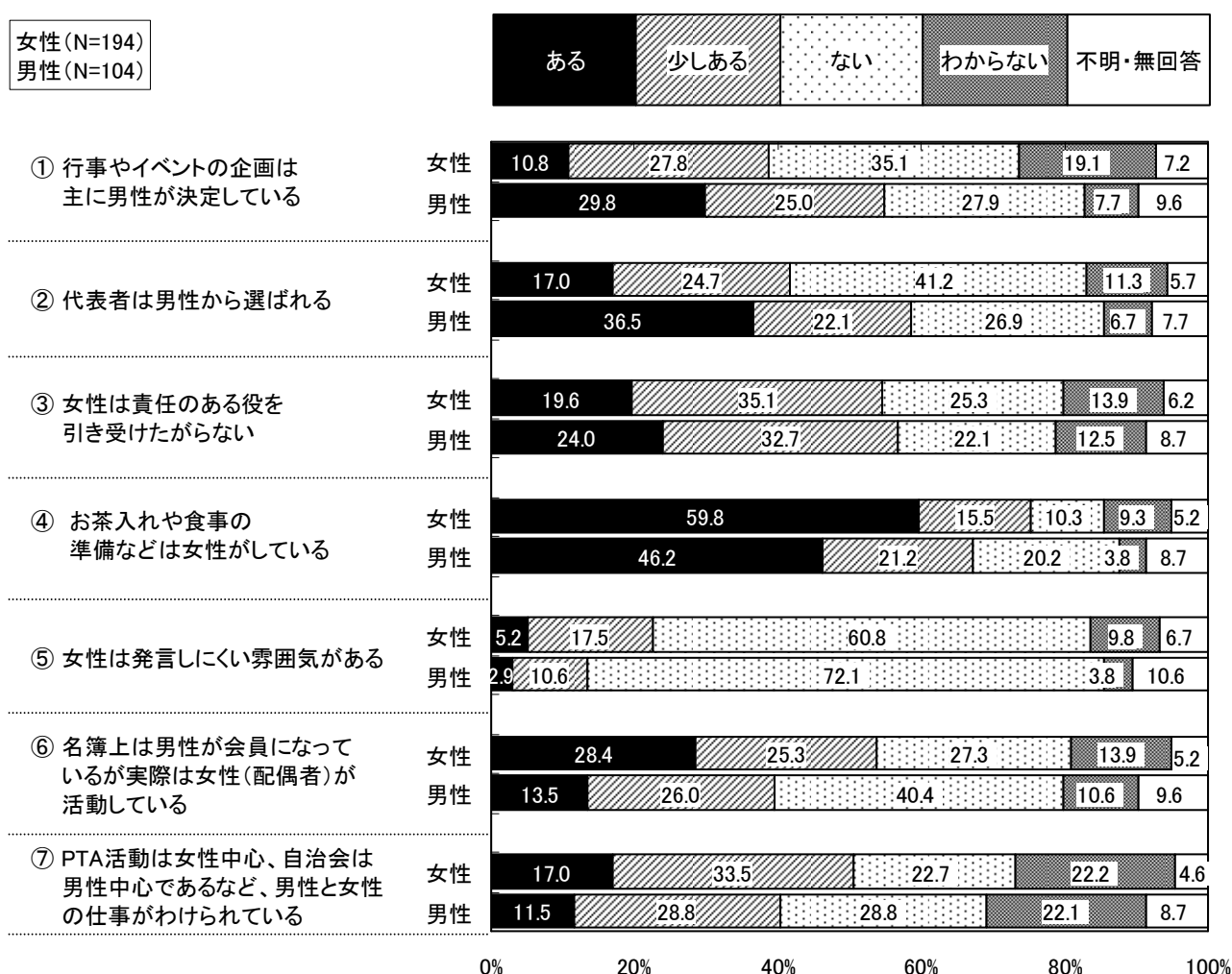


〔問 23 「1」～「8」の回答者〕

問 24 あなたが参加した活動では、次のようなことがありましたか。（単数回答）

参加している活動についてみると、『④お茶入れや食事の準備などは女性がしている』では、女性・男性ともに「ある」が、それぞれ 59.8%、46.2%と最も多くなっている。また、『②代表者は男性から選ばれる』『①行事やイベントの企画は主に男性が決定している』で、女性では「ない」が最も多く、男性では「ある」が最も多くなっている。一方、『⑥名簿上は男性が会員になっているが実際は女性（配偶者）が活動している』で、女性では「ある」が最も多く、男性では「ない」が最も多くなっている。

「ある」と「少しある」を合わせた〔ある〕でみると、『③女性は責任のある役を引き受けたがらない』『④お茶入れや食事の準備などは女性がしている』では、女性・男性ともに 5割以上となっている。

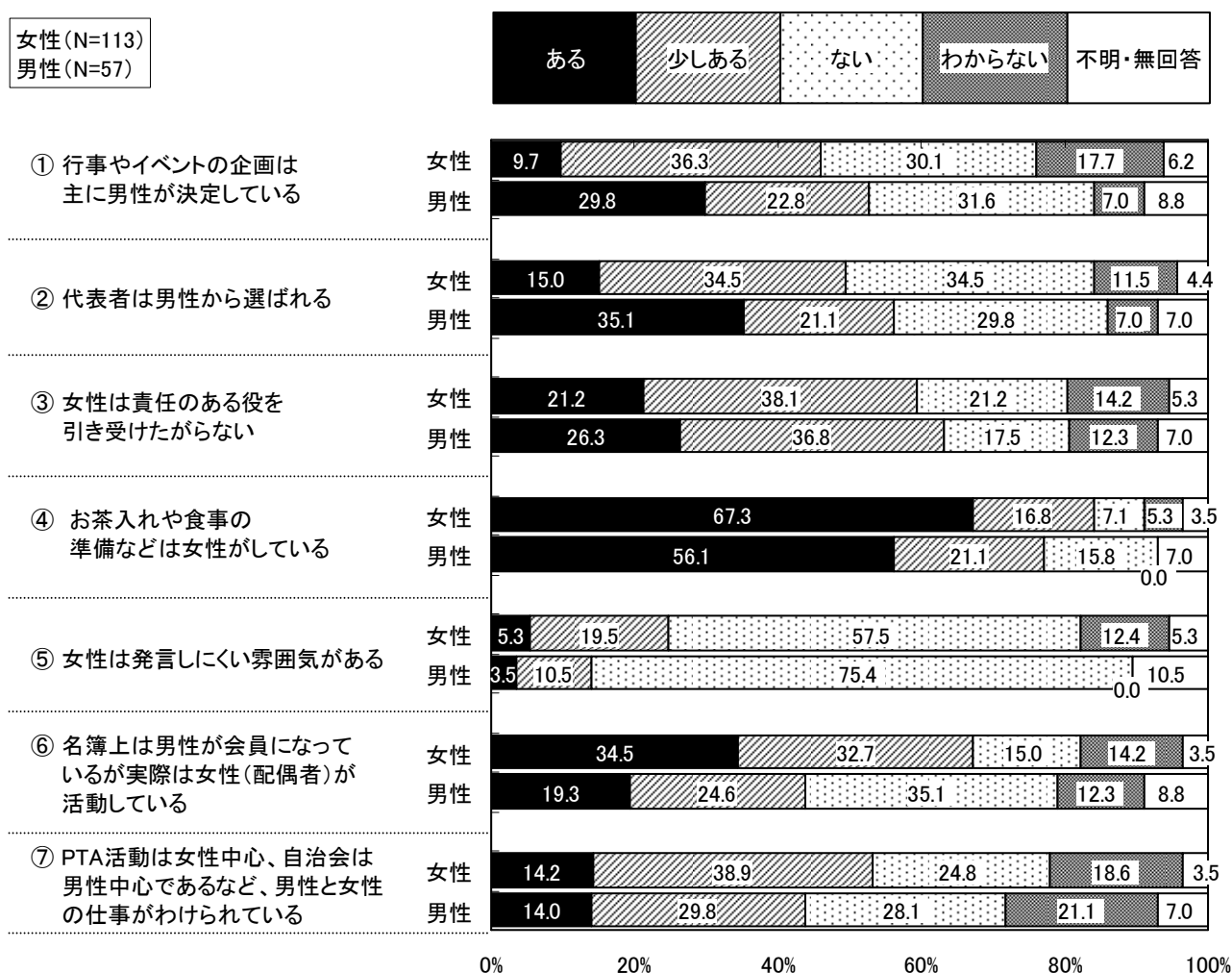




(問 23 [自治会・コミュニティ等の活動をしている] × 問 24 [参加した活動であったこと])

自治会・コミュニティ等の活動をしている方の、参加している活動であったことをみると、『④お茶入れや食事の準備などは女性がしている』では、女性・男性ともに「ある」が、それぞれ67.3%、56.1%と最も多くなっている。『⑤女性は発言しにくい雰囲気がある』では、女性・男性ともに「ない」が、それぞれ57.5%、75.4%と最も多くなっている。また、『⑥名簿上は男性が会員になっているが実際は女性（配偶者）が活動している』で、女性では「ある」が最も多く、男性では「ない」が最も多くなっている。

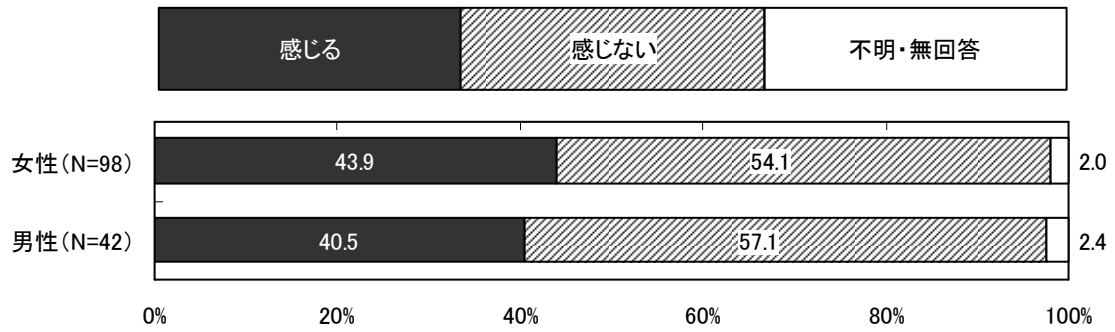
「ある」と「少しある」を合わせた〔ある〕でみると、女性・男性ともに『③女性は責任のある役を引き受けたがらない』では6割前後、『④お茶入れや食事の準備などは女性がしている』では7割以上となっている。



〔問 24 の⑦で「ある」または「少しある」の回答者〕

問 25 男性と女性の仕事が変わられていることに問題を感じますか。(単数回答)

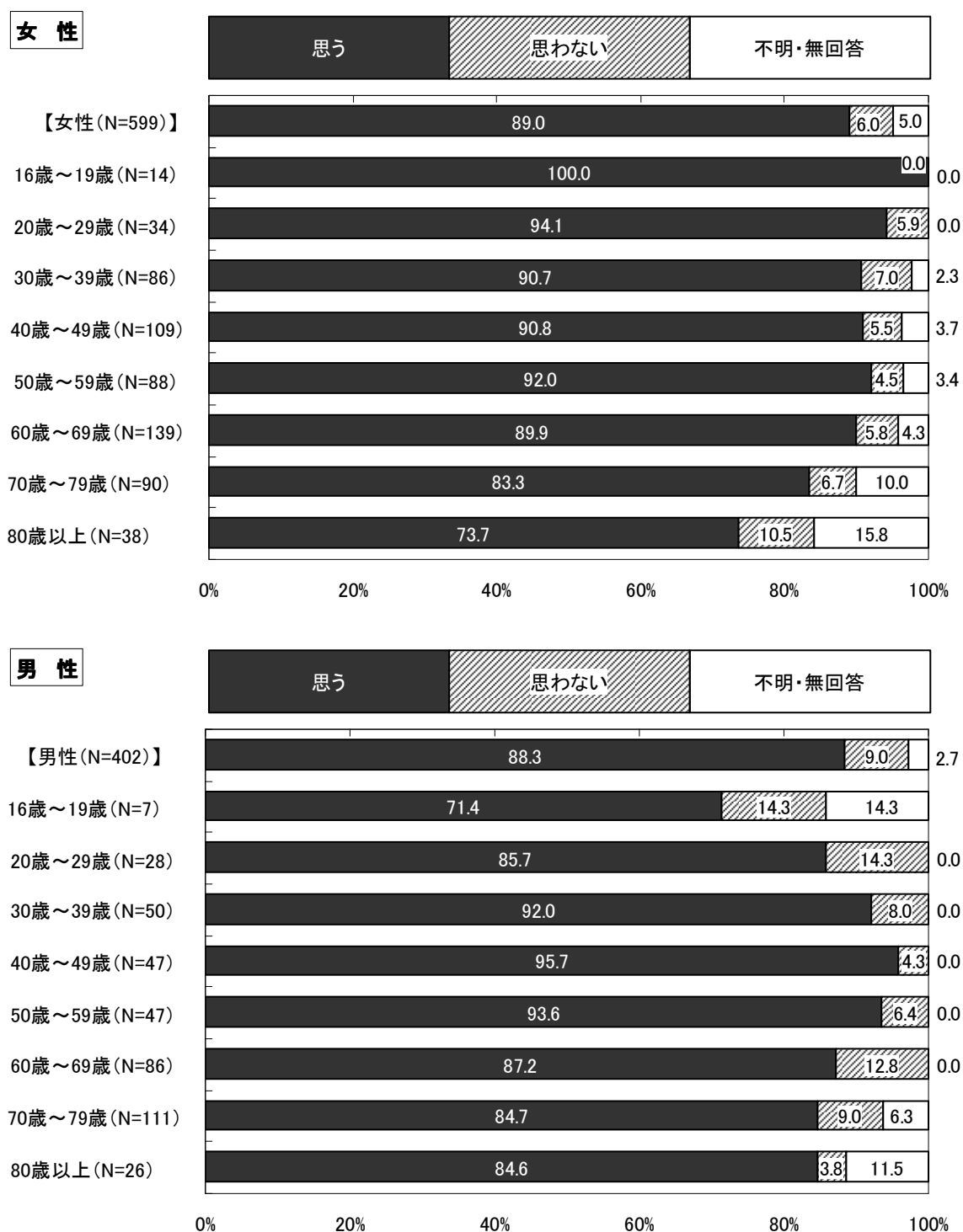
男性と女性の仕事が変わられていることに問題を感じるかについてみると、女性では「感じる」が43.9%、「感じない」が54.1%となっている。男性では「感じる」が40.5%、「感じない」が57.1%となっている。



## 8. 性と人権について

問 26 セクシュアル・ハラスメント（セクハラ、性的嫌がらせ）やドメスティック・バイオレンス（DV）は、男女互いの性に対する人権侵害だと思いますか。  
（単数回答）

セクシュアル・ハラスメントやDVは、男女互いの性に対する人権侵害だと思うかについてみると、女性では「思う」が89.0%、男性では88.3%となっている。年齢階層別にみると、女性・男性ともにすべての年齢階層で「思う」が7割以上となっている。

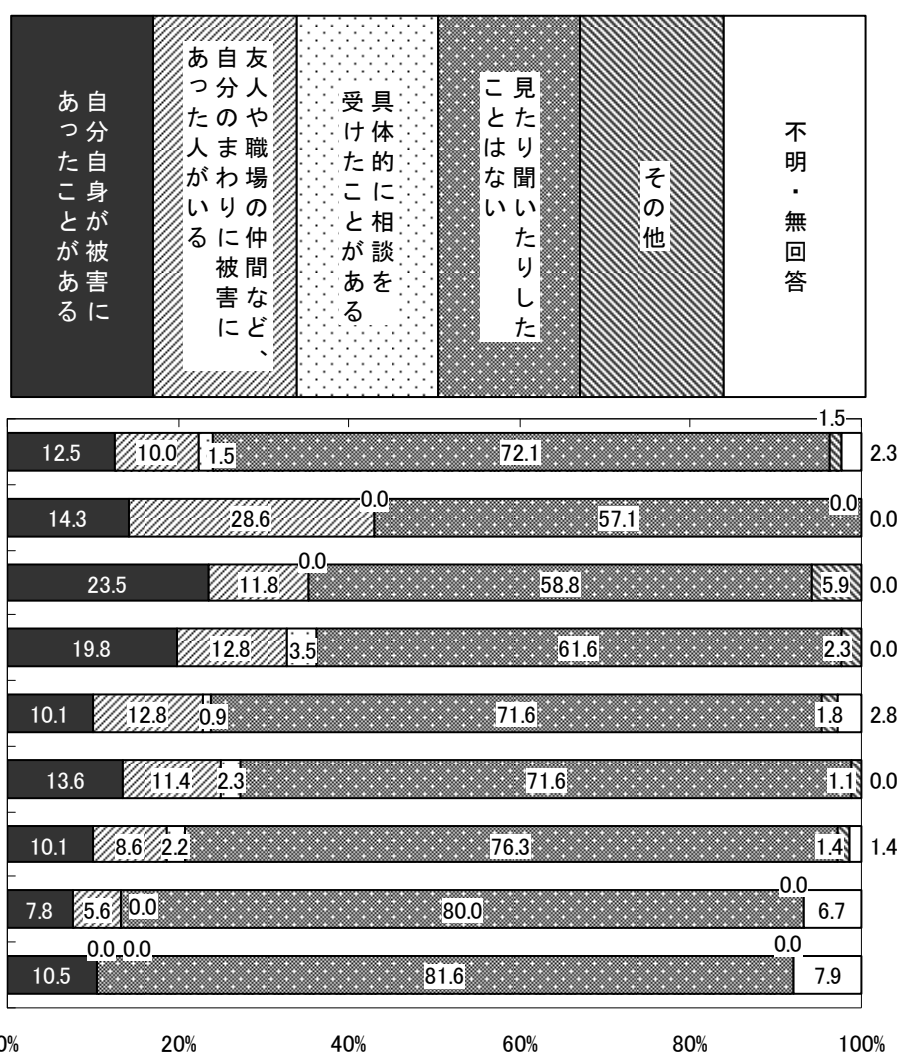


問 27 あなたやあなたのまわりの方が学校・職場・地域活動等でセクシュアル・ハラスメントの被害にあわれたことがありますか。(単数回答)

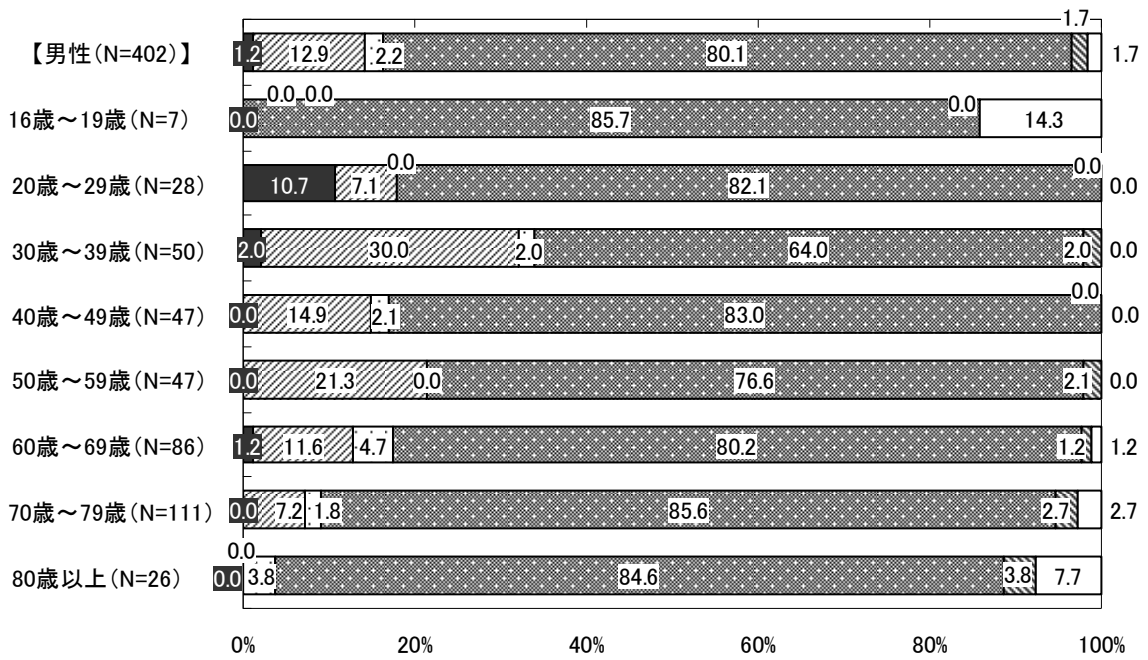
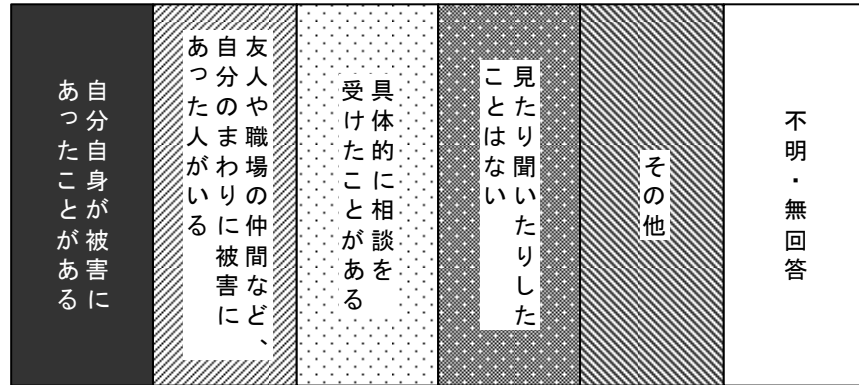
本人や本人のまわりの方が学校・職場・地域活動等でセクシュアル・ハラスメントの被害にあわれたことがあるかについてみると、女性・男性ともに「見たり聞いたりしたことはない」が最も多く、それぞれ72.1%、80.1%となっている。また、「自分自身が被害にある」「友人や職場の仲間など、自分のまわりに被害にあった人がいる」「具体的に相談を受けたことがある」を合わせた、周囲に何らかのセクシャル・ハラスメントがあった割合は、女性で24.0%、男性で16.3%となっている。

年齢階層別にみると、女性・男性ともにすべての年齢階層で「見たり聞いたりしたことはない」が最も多く、5割以上となっている。また、周囲に何らかのセクシャル・ハラスメントがあった割合は、女性の16歳～39歳、男性の30歳～39歳で3～4割となっている。

女性



男性



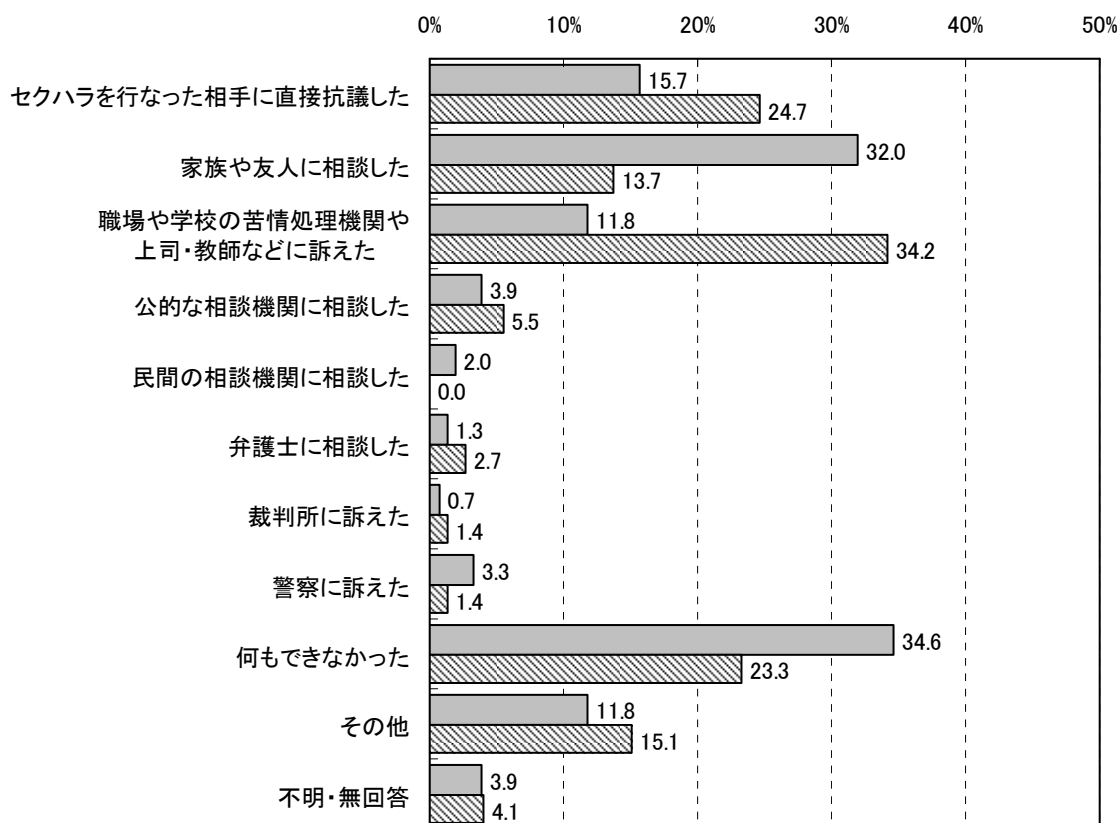
〔問 27 「見たり聞いたりしたことはない」「不明・無回答」以外の回答者〕

### 問 28 あなたやあなたの方のまわりの方がセクシュアル・ハラスメントの被害にあわれたとき、あなたはどのような対応をしましたか。(複数回答)

本人や本人のまわりの方がセクシュアル・ハラスメントの被害にあわれたときの対応についてみると、女性では「何もできなかった」が 34.6%と最も多く、次いで「家族や友人に相談した」が 32.0%となっている。男性では「職場や学校の苦情処理機関や上司・教師などに訴えた」が 34.2%と最も多く、次いで「セクハラを行なった相手に直接抗議した」が 24.7%となっている。「家族や友人に相談した」では、女性の割合が男性の2倍以上、「職場や学校の苦情処理機関や上司・教師などに訴えた」では、男性の割合が女性の2倍以上となっており、男女間で差がみられる。

また、「公的な相談機関に相談した」「弁護士に相談した」「裁判所に訴えた」「警察に訴えた」など、公的機関に対応を求めた割合は女性・男性ともに1割未満となっている。

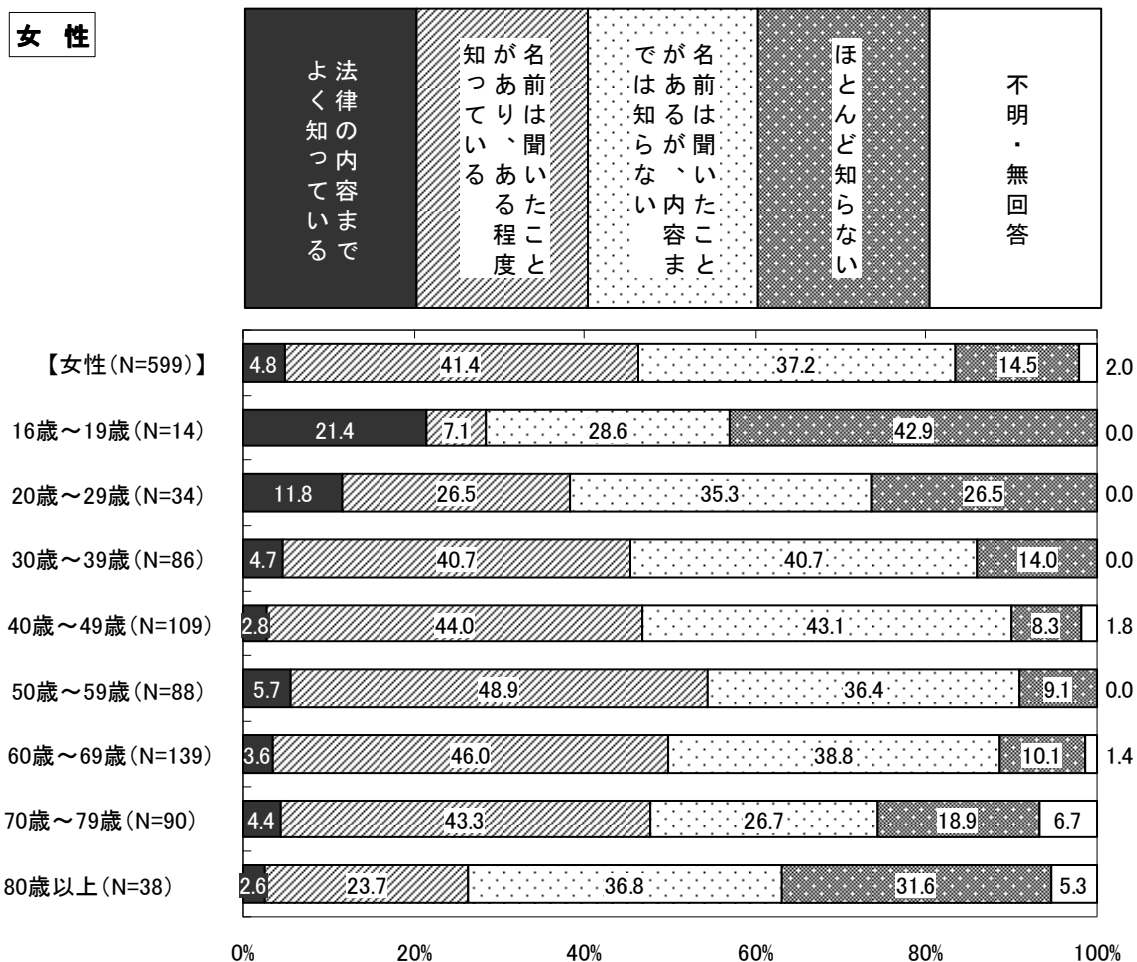
■ 女性(N=153)  
▨ 男性(N=73)



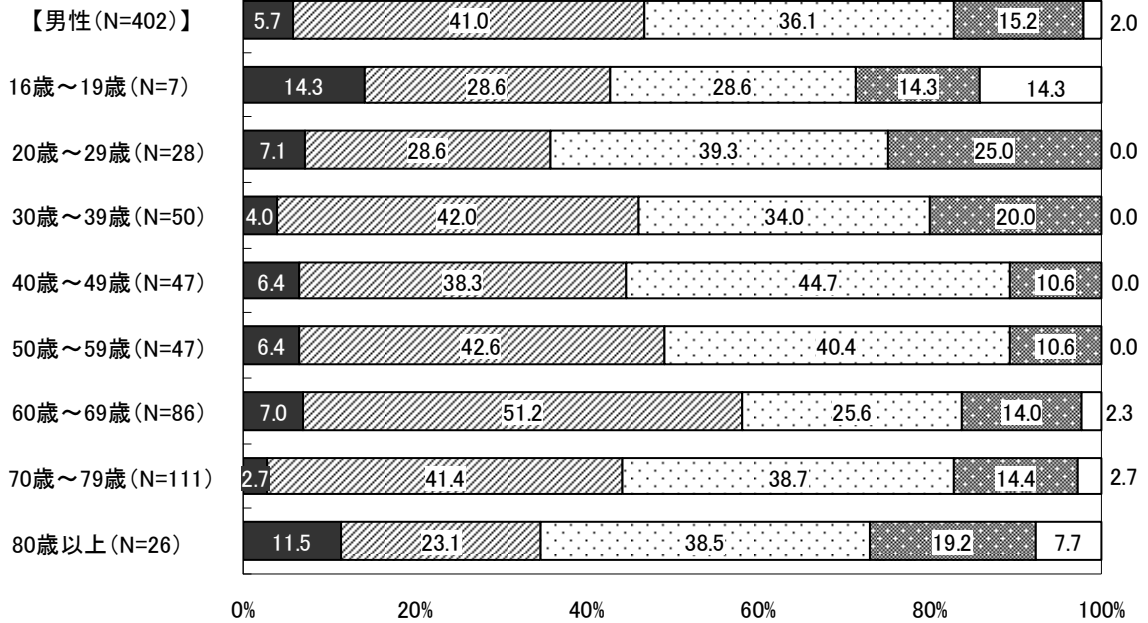
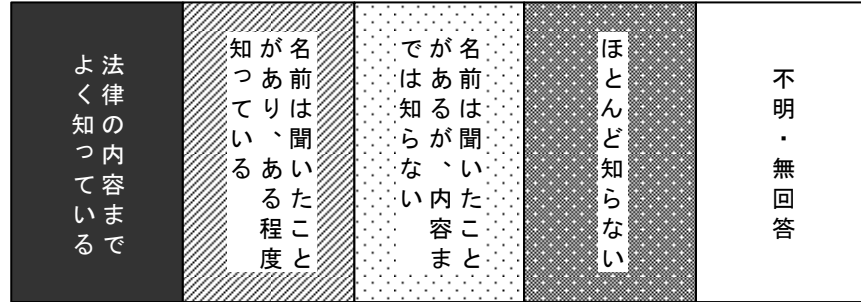
問 29 あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」（通称：DV防止法）をご存じですか。（単数回答）

DV防止法の認知度についてみると、女性・男性ともに「名前は聞いたことがあり、ある程度知っている」がそれぞれ41.4%、41.0%と最も多くなっている。

年齢階層別にみると、女性の20歳～29歳、80歳以上、男性の20歳～29歳、40歳～49歳、80歳以上で「名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない」が最も多くなっている。



**男 性**

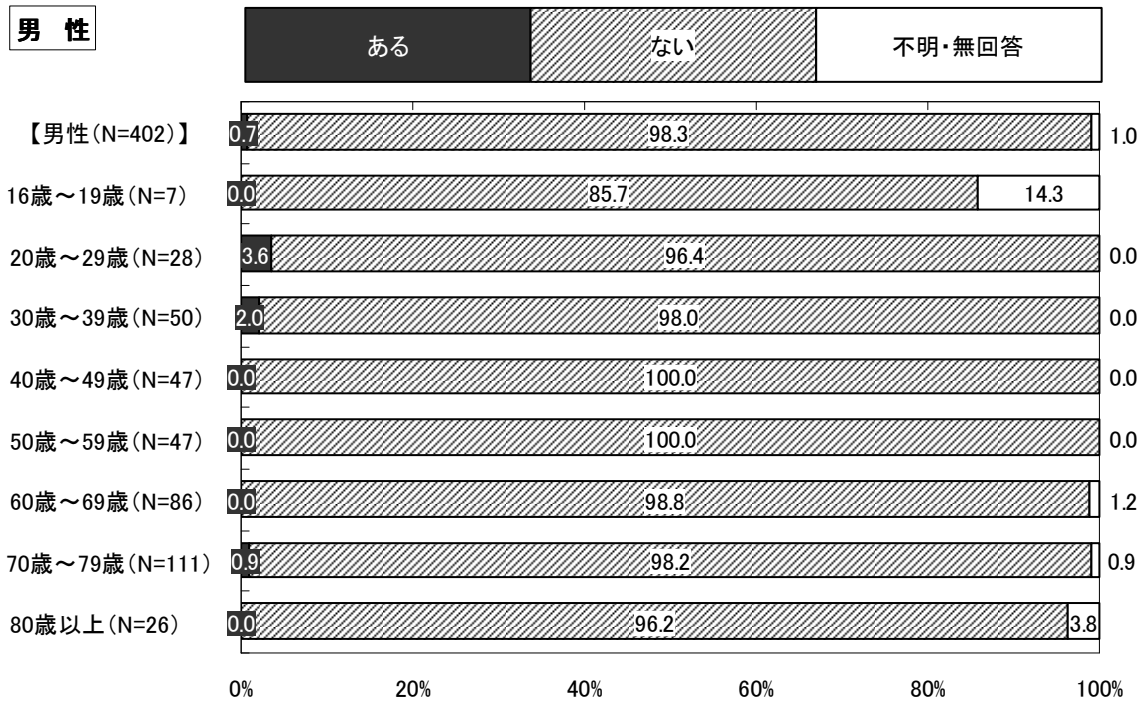
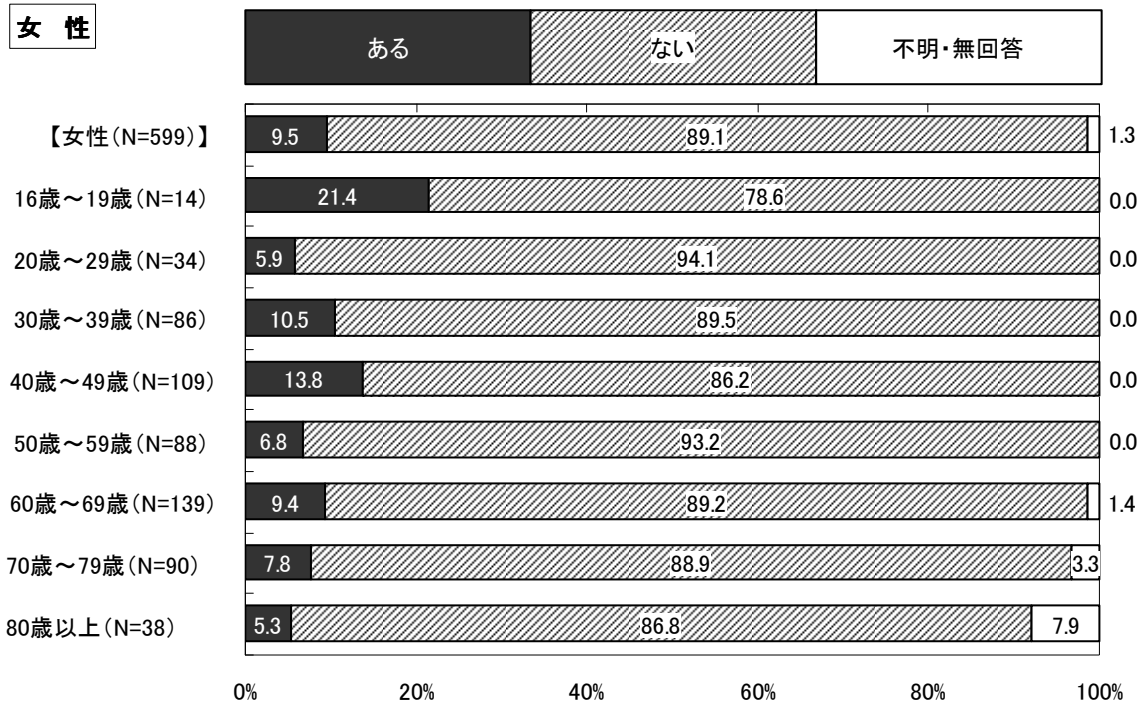




問 30 あなたはDV被害にあわれたことがありますか。(単数回答)

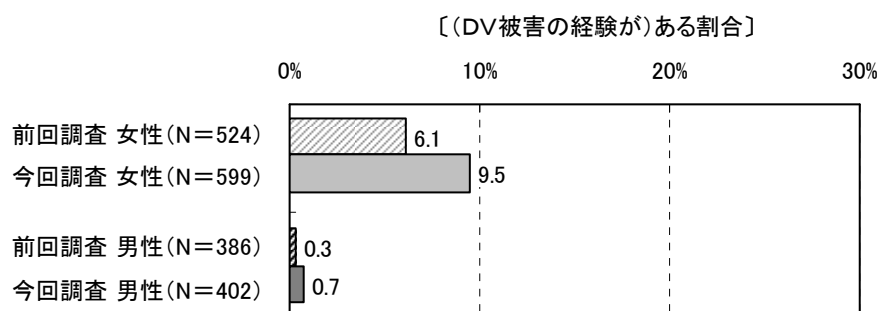
DV被害にあわれたことがあるかについては、「ある」が女性では9.5%、男性では0.7%となっている。

年齢階層別にみると、女性ではすべての年齢階層でDV被害にあった方がいる。



## ◆前回調査（平成 17 年度）との比較

前回調査（平成 17 年度）との比較でみると、女性ではDV被害の経験が「ある」が前回調査 6.1%、今回調査 9.5%と 3.4 ポイント増加している。男性ではDV被害の経験が「ある」が前回調査 0.3%、今回調査 0.7%とあまり変化はみられない。

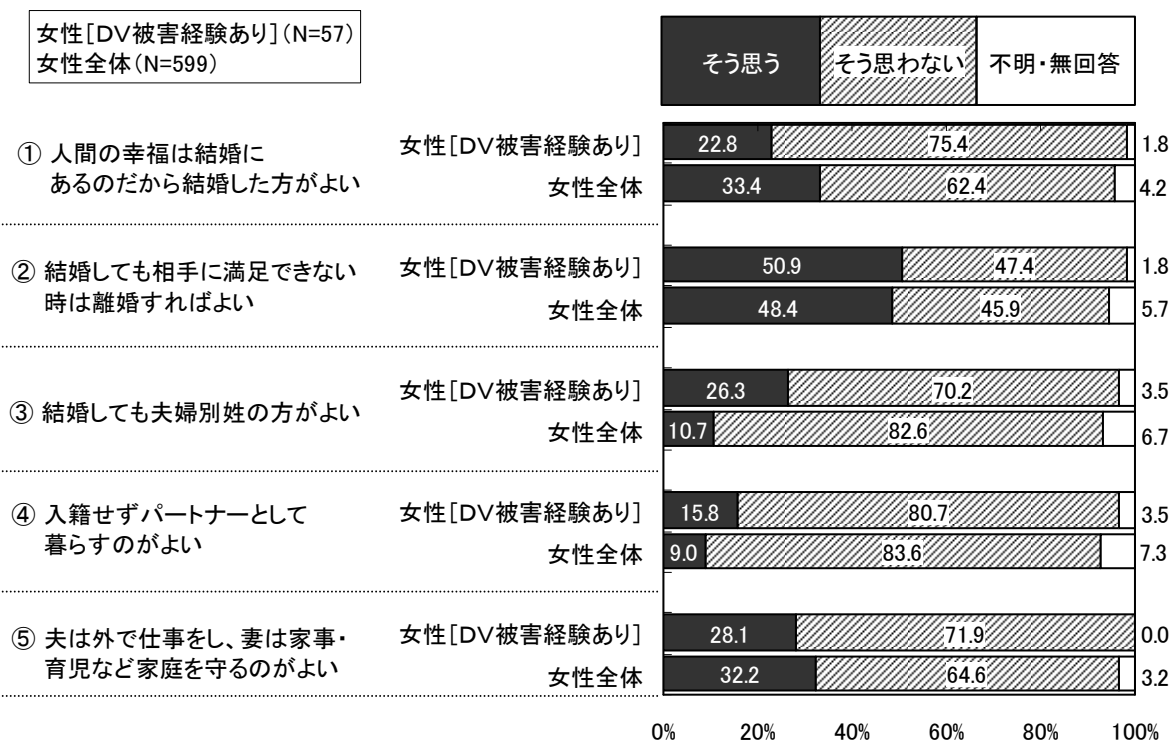


※前回調査 「自分自身が被害にあったことがある」の割合

## 〔問 30 [DV被害の経験がある] × 問 4 [結婚・離婚・家庭について思うこと〕

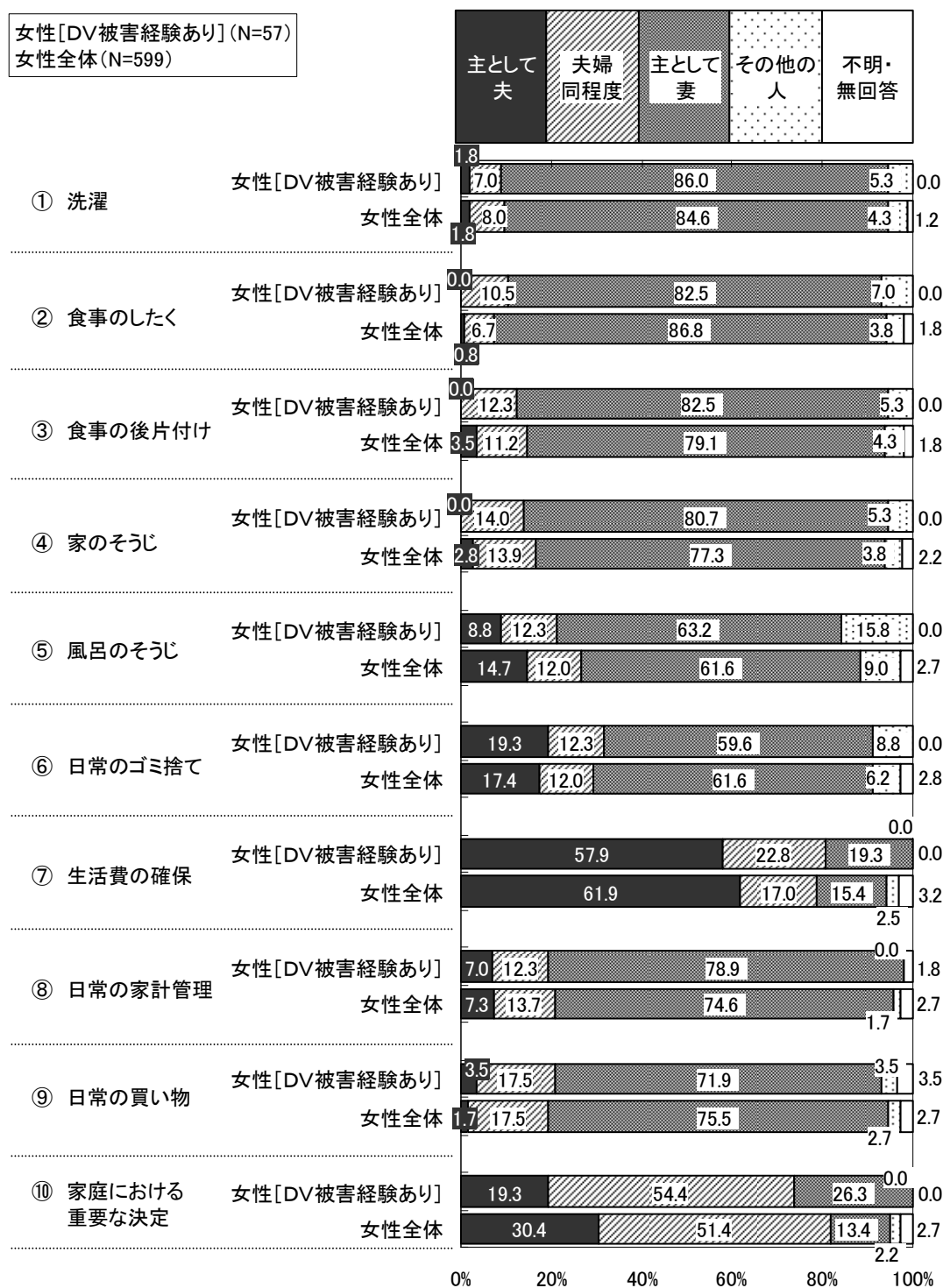
DV被害の経験がある方の、結婚・離婚・家庭について思うことをみると、『②結婚しても相手に満足できない時は離婚すればよい』で、「そう思う」が 50.9%、「そう思わない」が 47.4%と、「そう思う」が若干上回っており、女性全体と比較しても、あまり差はみられない。

また、『①人間の幸福は結婚にあるのだから結婚した方がよい』で、DV被害の経験がある方では「そう思う」が 22.8%となっており、女性全体よりも 10.6 ポイント少なくなっている。一方、『③結婚しても夫婦別姓の方がよい』で、DV被害の経験がある方では「そう思う」が 26.3%と、女性全体よりも 15.6 ポイント多く、『④入籍せずパートナーとして暮らすのがよい』で、DV被害の経験がある方では「そう思う」が 15.8%と、女性全体よりも 6.8 ポイント多くなっている。



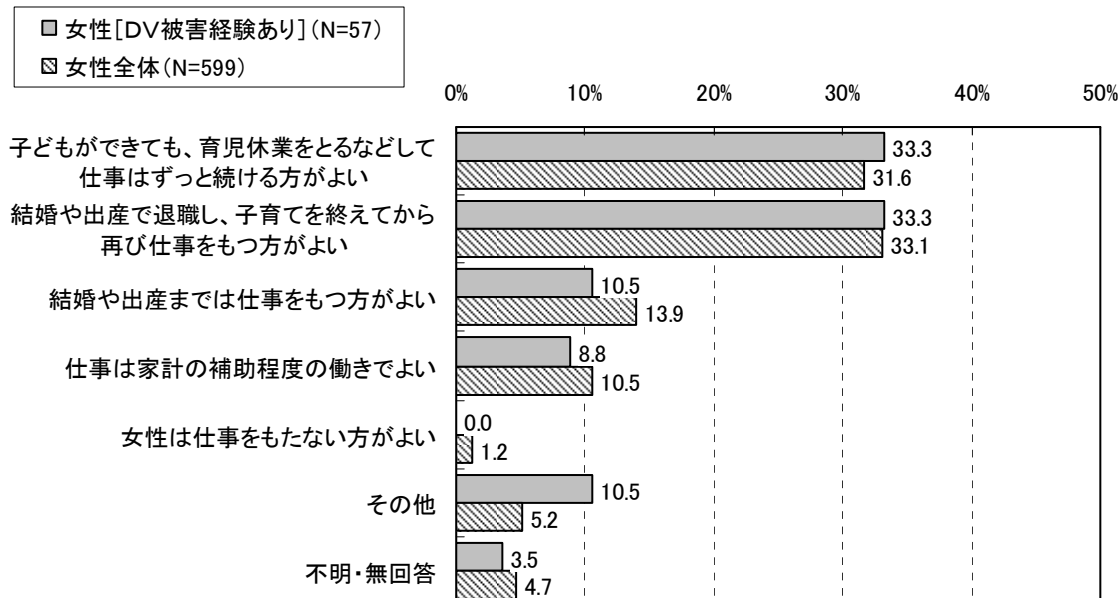
(問 30 [DV被害の経験がある] × 問 5 [以下のことを主に誰が担っているか])

DV被害の経験がある方の、家庭内での家事等の担当についてみると、『⑦生活費の確保』では「主として夫」が57.9%と最も多く、女性全体では61.9%と、あまり差はみられない。また、『⑩家庭における重要な決定』では「夫婦同程度」が54.4%と最も多く、女性全体では51.4%と、あまり差はみられないが、「主として夫」では女性全体の方が11.1ポイント多い一方、「主として妻」ではDV被害の経験のある方が12.9ポイント多くなっている。



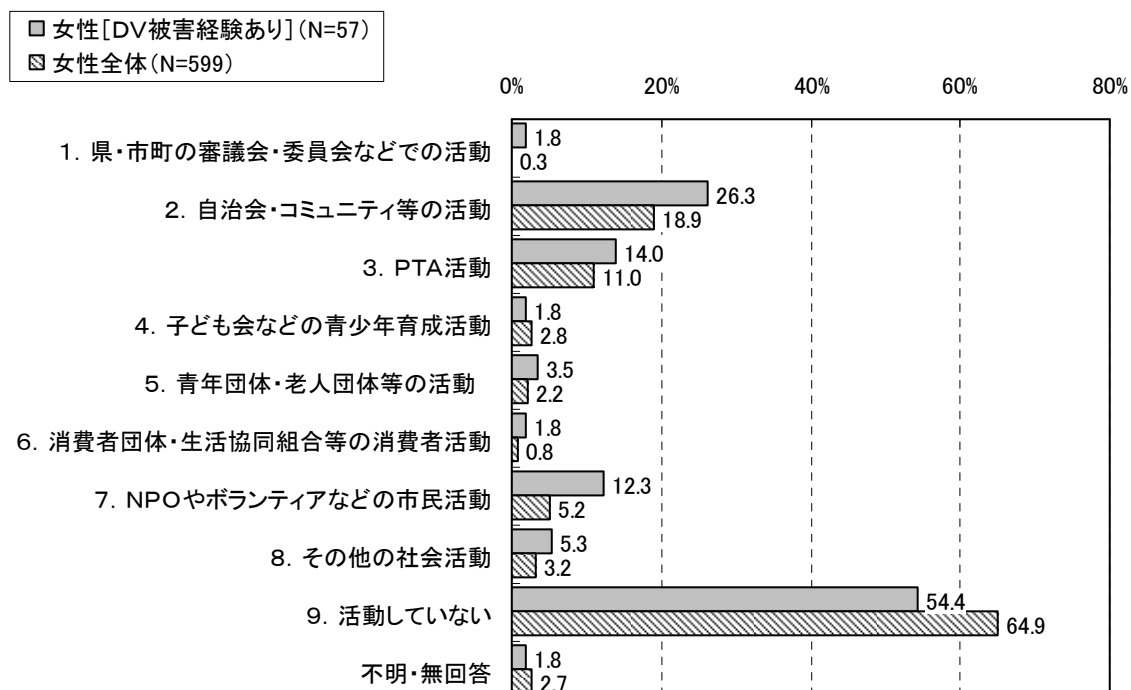
(問 30 [DV被害の経験がある] × 問 15 [女性が収入をとまなう仕事をもつことにどう思うか])

DV被害の経験がある方の、一般的に女性が収入をとまなう仕事をもつことをどう思うかについてみると、「子どもができて、育児休業をとるなどして仕事はずっと続ける方がよい」「結婚や出産で退職し、子育てを終えてから再び仕事をもつ方がよい」がともに 33.3%と多く、女性全体と比較しても、あまり差はみられない。



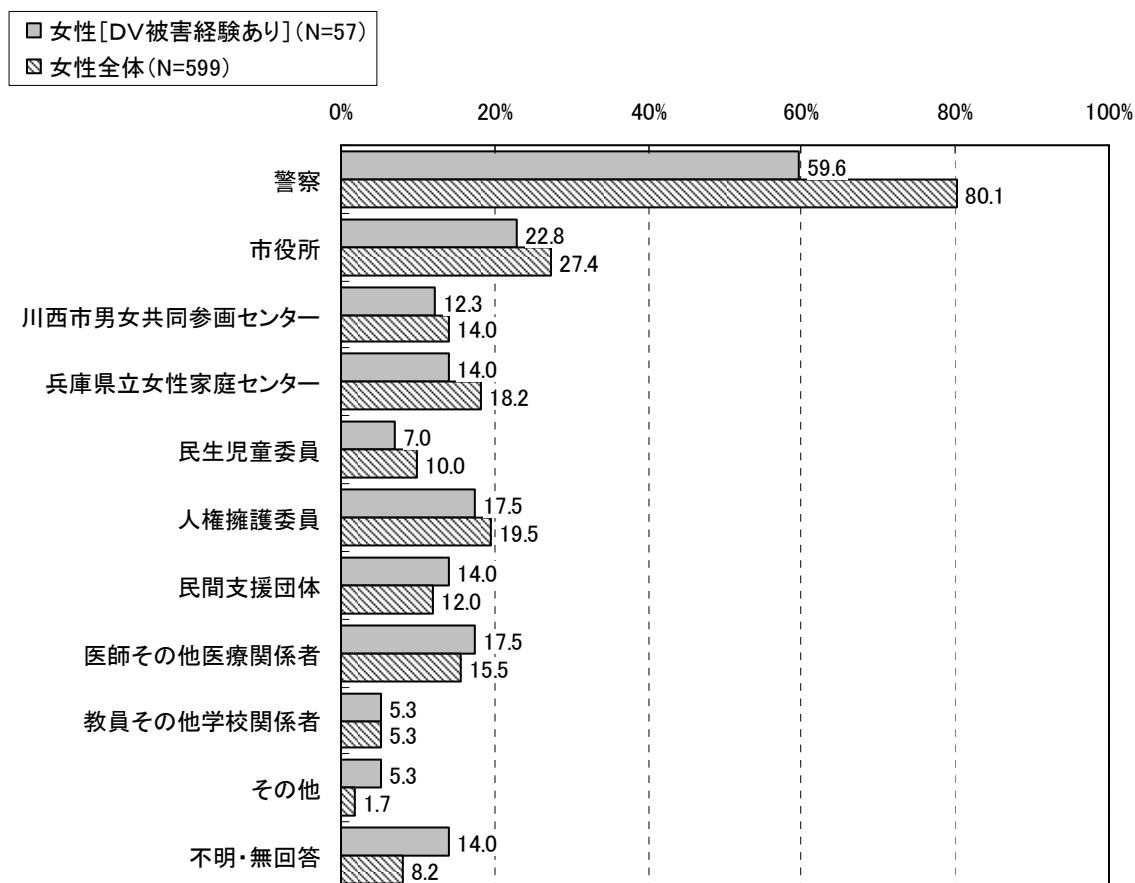
(問 30 [DV被害の経験がある] × 問 23 [以下のような活動をしているか])

DV被害の経験がある方の、活動についてみると、「活動していない」が 54.4%と最も多くなっているが、女性全体と比較すると 10.5ポイント少ない。また、活動内容については、「自治会・コミュニティ等の活動」が 26.3%、「PTA活動」が 14.0%、「NPOやボランティアなどの市民活動」が 12.3%となっており、女性全体よりも、それぞれ 7.4ポイント、3.0ポイント、7.1ポイント多くなっている。



**(問 30 [DV被害の経験がある] × 問 35 「DV被害を受けたときの相談機関で知っているもの」)**

DV被害の経験がある方の、被害を受けたときの相談機関で知っているものについてみると、「警察」が59.6%と最も多く、次いで「市役所」が22.8%となっており、女性全体と比較すると、「警察」で20.5ポイント、「市役所」で4.6ポイント、それぞれ少なくなっている。また、「川西市男女共同参画センター」「兵庫県立女性家庭センター」「民生児童委員」「人権擁護委員」なども、DV被害の経験がある方の割合が少ない結果となっている。



**(問 30 [DV被害の経験がある] × 既婚・未婚別)**

DV被害の経験がある方の、既婚・未婚別についてみると、「結婚している」が71.9%と最も多く、次いで「結婚していない」が12.3%となっている。

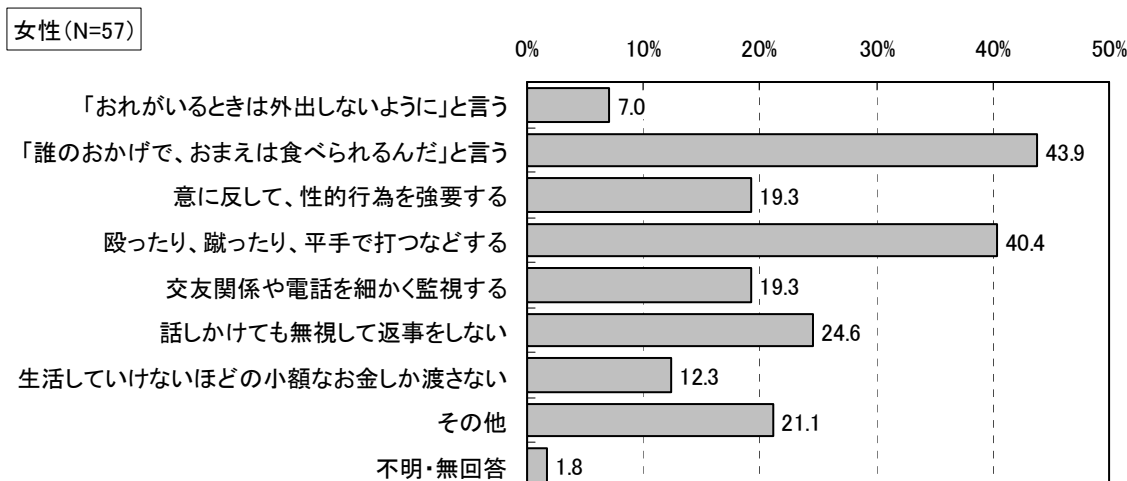
カテゴリ	女性[DV被害経験あり](N=57)	
	件数	%
結婚している	41	71.9
結婚していないがパートナーと暮らしている	0	0.0
結婚していたが死別した	4	7.0
結婚していたが離別した	5	8.8
結婚していない	7	12.3
その他	0	0.0
不明・無回答	0	0.0

※男性(N=3)…「結婚している」が2件、「結婚していない」が1件のため、図を省略している

〔問 30 で「ある」の回答者〕

問 31 あなたが受けたDVはどのような内容ですか。(複数回答)

本人が受けたDVの内容についてみると、女性では「『誰のおかげで、おまえは食べられるんだ』と言う」が 43.9%と最も多く、次いで「殴ったり、蹴ったり、平手で打つなどする」が 40.4%、「話しかけても無視して返事をしない」が 24.6%となっている。男性では「殴ったり、蹴ったり、平手で打つなどする」が最も多くなっている。



【回答のみ表示】		件数
男性(N=3)	殴ったり、蹴ったり、平手で打つなどする	2
	「誰のおかげで、おまえは食べられるんだ」と言う	1
	生活していけないほどの小額なお金しか渡さない	1

◆前回調査（平成 17 年度）との比較（前回調査は自分自身が受けたことに加え、見聞きしたことも含む）

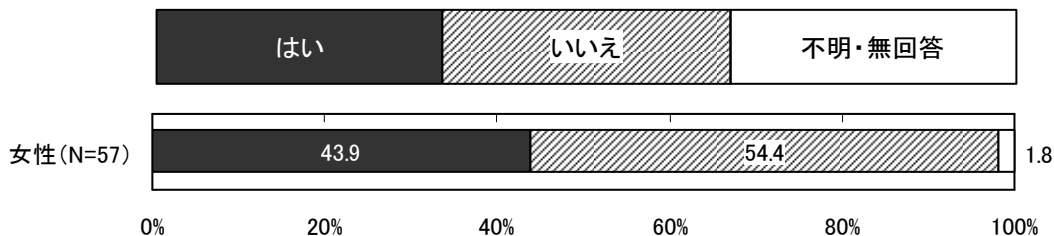
前回調査（平成 17 年度）との比較でみると、前回調査では女性・男性ともに「殴ったり、蹴ったり、平手で打つなどする」が、それぞれ 66.2%、59.1%と最も多くなっていたが、今回調査では、女性では「『誰のおかげで、おまえは食べられるんだ』と言う」が 43.9%と最も多く、前回調査よりも割合が 13.8 ポイント増加している。また、女性では「殴ったり、蹴ったり、平手で打つなどする」が、前回調査よりも割合が 25.8 ポイント減少している。「話しかけても無視して返事をしない」が、前回調査より 5.8 ポイント増加している。

カテゴリ	女 性		男 性	
	前回調査 (N=133)	今回調査 (N=57)	前回調査 (N=44)	今回調査 (N=3)
「おれがいるときは外出しないように」と言う	9.8%	7.0%	13.6%	-
「誰のおかげで、おまえは食べられるんだ」と言う	30.1%	43.9%	25.0%	33.3%
意に反して、性的行為を強要する	15.8%	19.3%	11.4%	-
殴ったり、蹴ったり、平手で打つなどする	66.2%	40.4%	59.1%	66.7%
交友関係や電話を細かく監視する	18.0%	19.3%	13.6%	-
話しかけても無視して返事をしない	18.8%	24.6%	15.9%	-
生活していけないほどの小額なお金しか渡さない	12.0%	12.3%	11.4%	33.3%
その他	5.3%	21.1%	9.1%	-
不明・無回答	4.5%	1.8%	11.4%	-

〔問 30 で「ある」の回答者〕

問 32 あなたがDVを受けたとき、どこかに相談しましたか。(単数回答)

DVを受けたときに相談したかについてみると、女性では「はい」が43.9%、「いいえ」が54.4%となっている。



※男性(N=3)・・・「はい」が2件、「いいえ」が1件のため、図を省略している

〔問 32 で「はい」の回答者〕

問 33 どこに相談しましたか。(複数回答)

DVを受けたときの相談先についてみると、女性では「家族・親戚」「友人・知人」がともに16件と最も多く、次いで「公的機関」が6件となっている。

	警察	公的機関	家族・親戚	友人・知人	その他	不明・無回答
女性(N=25)	3	6	16	16	1	-
男性(N=2)	-	-	1	1	1	-

単位:件数

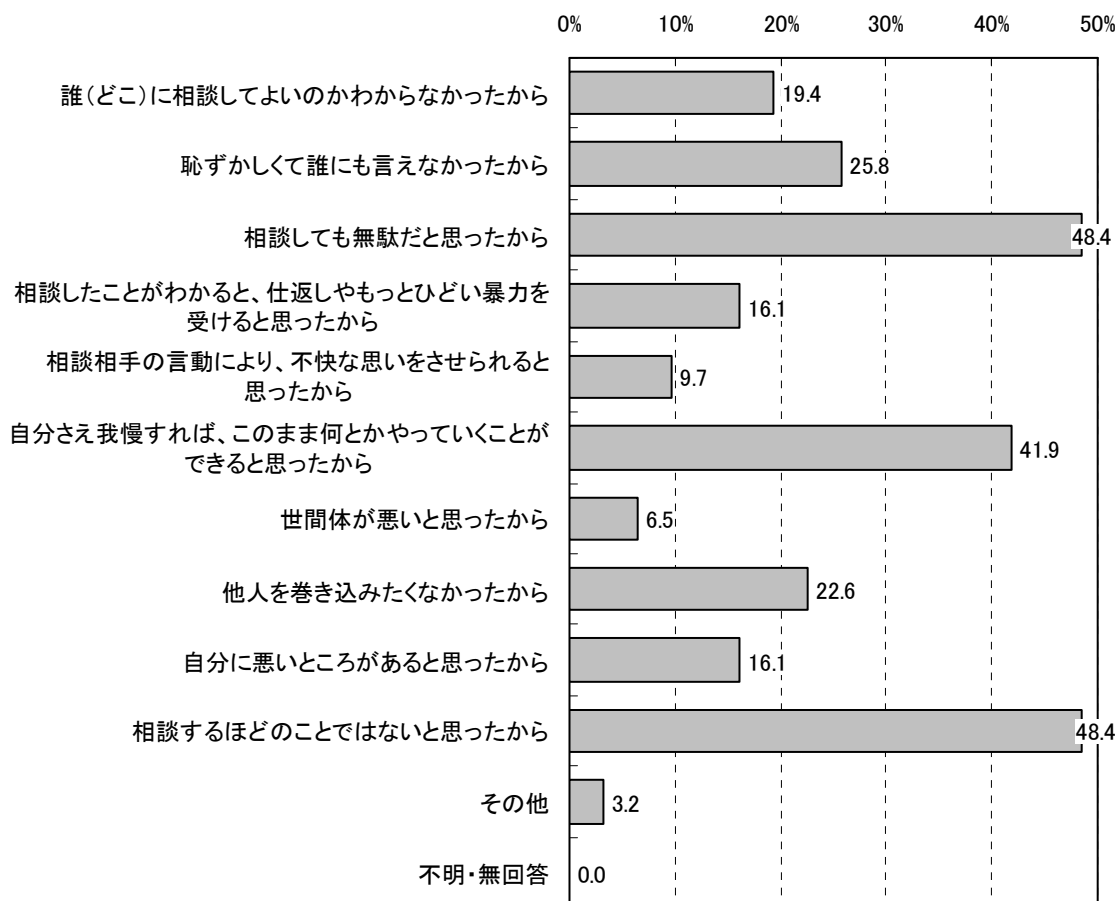


〔問 32 で「いいえ」の回答者〕

問 34 相談しなかった理由は何ですか。(複数回答)

相談しなかった理由についてみると、女性では「相談しても無駄だと思ったから」「相談するほどのことではないと思ったから」がともに 48.4%と多く、次いで「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」が 41.9%となっている。

女性(N=31)

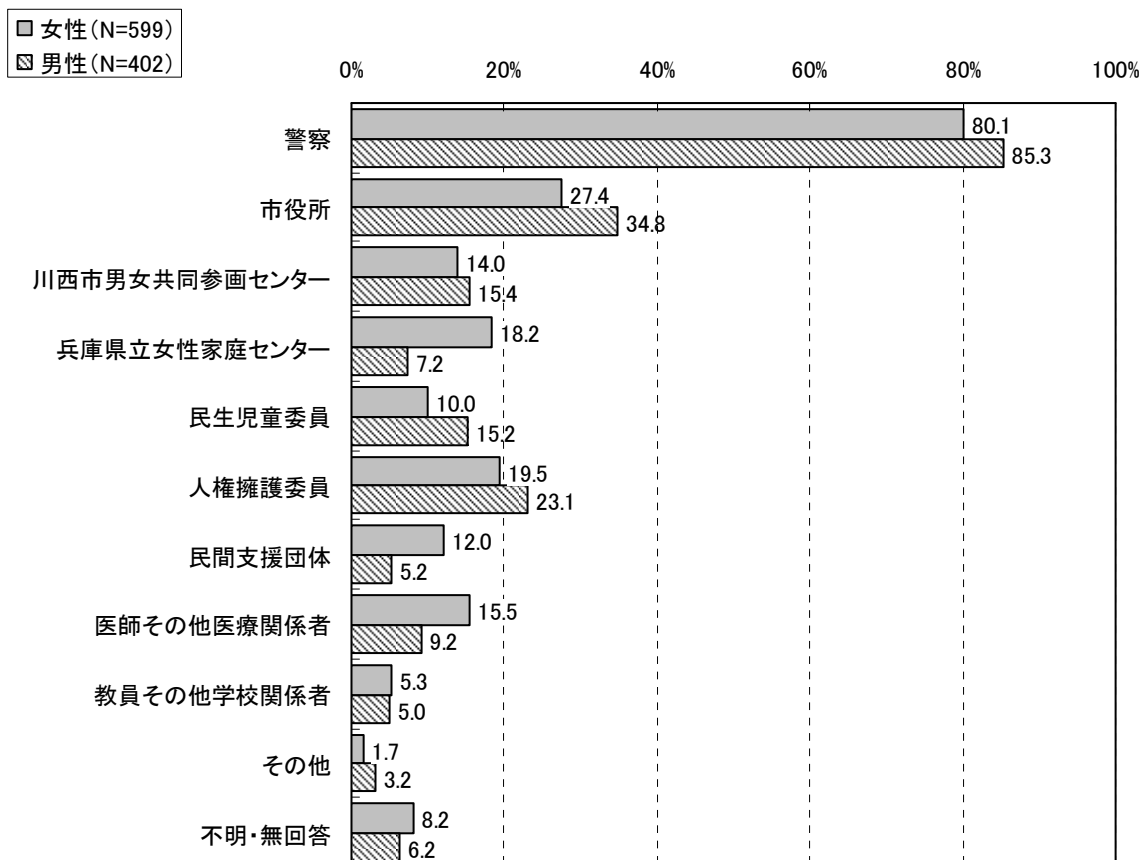


※男性(N=1)・・・「相談するほどのことではないと思ったから」が1件のため、図を省略している



問 35 DV被害を受けたときに相談できる機関や関係者のうち、あなたが知っているものはどれですか。(複数回答)

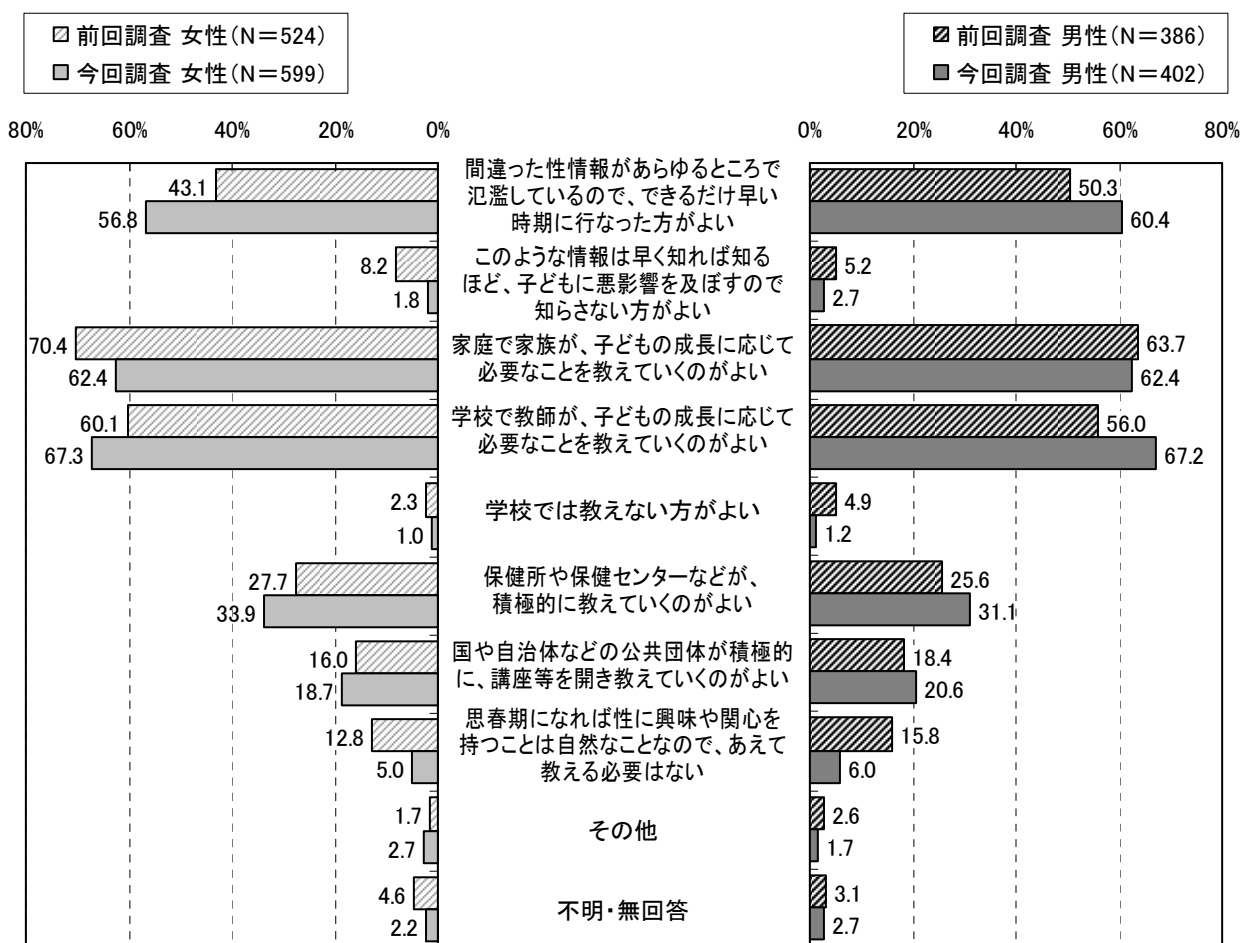
DV被害を受けたときに相談できる機関や関係者のうち、知っているものについてみると、女性・男性ともに「警察」がそれぞれ 80.1%、85.3%と最も多く、次いで「市役所」がそれぞれ 27.4%、34.8%、「人権擁護委員」がそれぞれ 19.5%、23.1%となっている。



問 36 現在、10 代の子どもたちに人工中絶や性感染症があることは社会問題となっています。その増加をくい止めるためには、性と生殖に関する正しい知識を子どもたちに教えることが重要といわれていますが、あなたはどのように思われますか。(複数回答)

10 代の子どもたちへの性と生殖に関する教育についてみると、女性・男性ともに「学校で教師が、子どもの成長に応じて必要なことを教えていくのがよい」がそれぞれ 67.3%、67.2%と最も多く、次いで「家庭で家族が、子どもの成長に応じて必要なことを教えていくのがよい」がともに 62.4%、「間違っ性情報があらゆるところで氾濫しているため、できるだけ早い時期に行なった方がよい」がそれぞれ 56.8%、60.4%となっている。

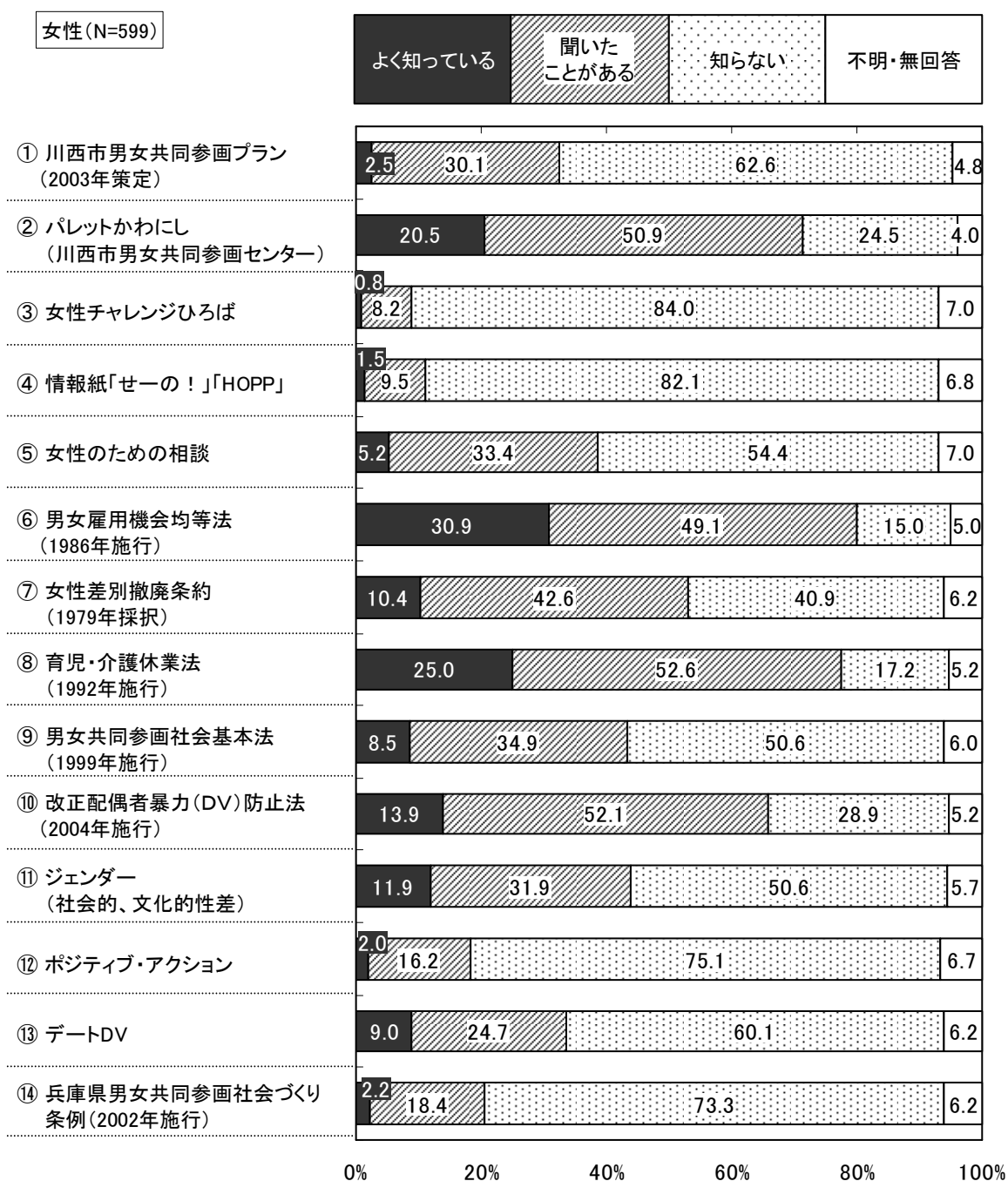
前回調査(平成 17 年度)との比較でみると、女性・男性ともに前回調査で「家庭で家族が、子どもの成長に応じて必要なことを教えていくのがよい」がそれぞれ 70.4%、63.7%と最も多くなっていたが、今回調査では割合が、女性で 8.0 ポイント、男性で 1.3 ポイント減少している。また、「間違っ性情報があらゆるところで氾濫しているため、できるだけ早い時期に行なった方がよい」「学校で教師が、子どもの成長に応じて必要なことを教えていくのがよい」「保健所や保健センターなどが、積極的に教えていくのがよい」「国や自治体などの公共団体が積極的に、講座等を開き教えていくのがよい」など、積極的に教えていくことを肯定的に考える割合が、今回調査で増加している一方、「このような情報は早く知れば知るほど、子どもに悪影響を及ぼすので知らさない方がよい」「学校では教えない方がよい」「思春期になれば性に興味や関心を持つことは自然なことなので、あえて教える必要はない」など、教えていくことを否定的に考える割合は減少している。



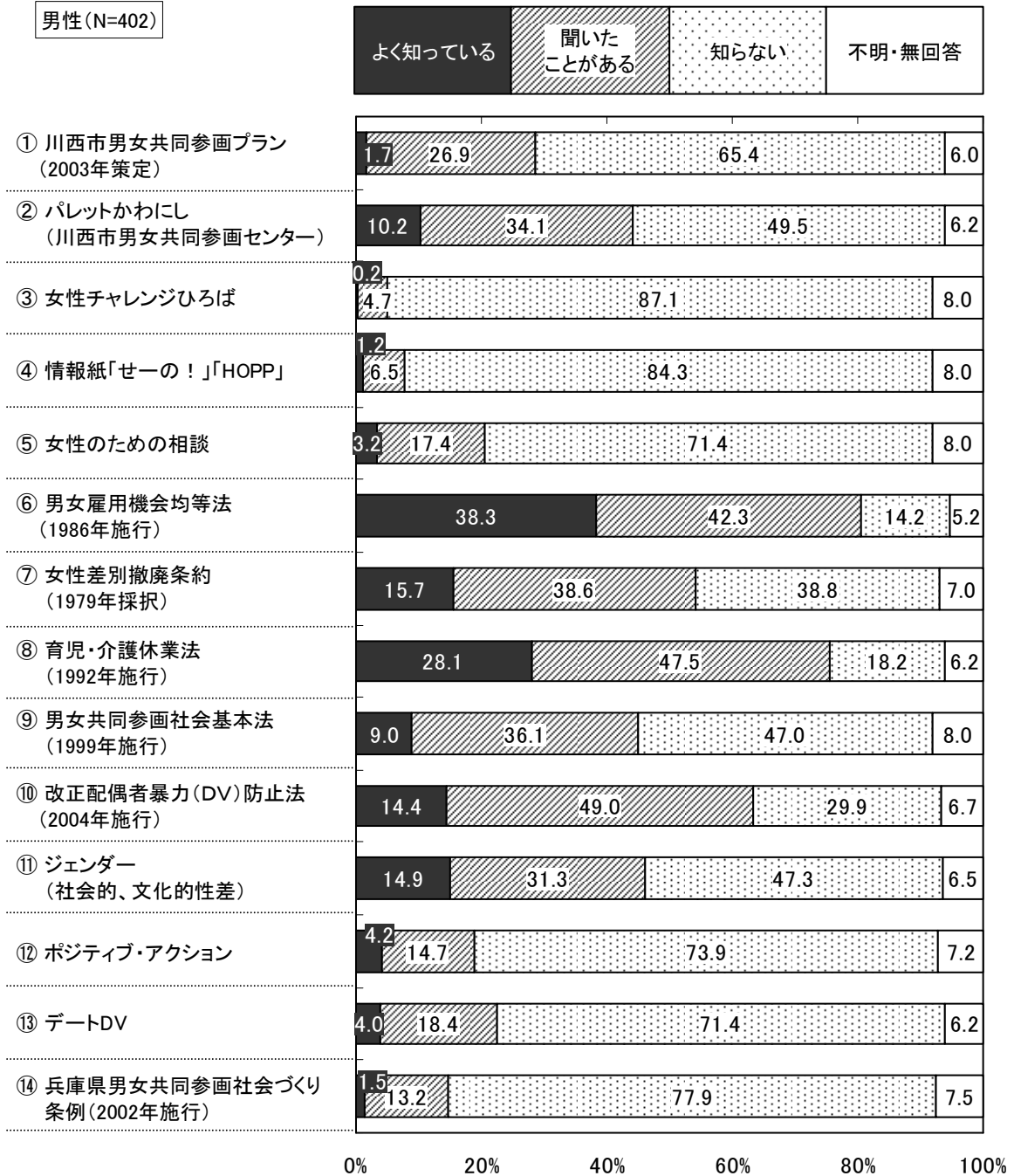
## 9. 男女共同参画施策について

問 37 次の「ことがら」や「ことば」を見たり聞いたりしたことがありますか。  
(単数回答)

見たり聞いたりしたことがあるものについてみると、『⑥男女雇用機会均等法(1986年施行)』では「よく知っている」が、女性・男性ともにそれぞれ 30.9%、38.3%と最も多くなっている。また、『③女性チャレンジひろば』『④情報紙「せーの!」「HOPP」』では、「知らない」が女性・男性ともに8割以上となっている。



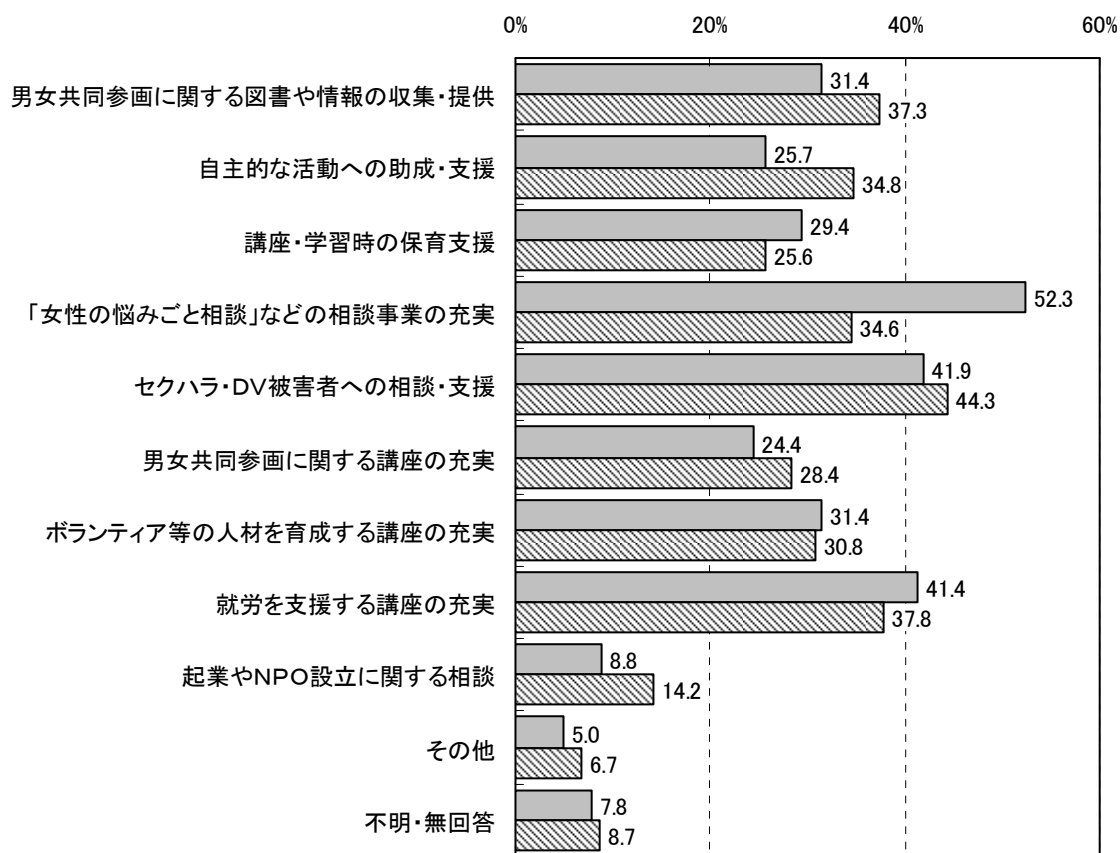
男性(N=402)



問 38 本市には男女共同参画を進めていくための拠点として川西市男女共同参画センターがありますが、あなたは、この男女共同参画センターにどのようなことを希望しますか。(複数回答)

川西市男女共同参画センターに希望することについてみると、女性では『女性の悩みごと相談』などの相談事業の充実が 52.3%と最も多く、次いで「セクハラ・DV被害者への相談・支援」が 41.9%、「就労を支援する講座の充実」が 41.4%となっている。男性では「セクハラ・DV被害者への相談・支援」が 44.3%と最も多く、次いで「就労を支援する講座の充実」が 37.8%、「男女共同参画に関する図書や情報の収集・提供」が 37.3%となっている。

■ 女性(N=599)  
 ▨ 男性(N=402)





#### IV. 自由意見・要望





# 1. 自由意見・要望（抜粋）

●川西市の男女共同参画施策について、ご意見、ご要望等がございましたら、ご自由にお書きください。

## （1）男女の地位

年 齢	性別	内 容
30歳～39歳	女性	全て男女が平等とはいかないことは理解しているが、納得いかないことが多いので少しずつでも改善されるべき所は改善し、効率よく社会が作られるとよい
30歳～39歳	男性	会社も社会も男女平等を元に女性の立場をつくるのに力を入れすぎている
60歳～69歳	男性	結婚しない女性が増え、社会構成をなす上で問題が多々生じてきているように思うため、女として、社会人として適切な判断を期待する
70歳～79歳	男性	女性の社会的進出をもっとしてほしい
70歳～79歳	男性	国・地方自治の面において、もっと女性が出て来てしかるべきである

## （2）結婚と家庭生活

年 齢	性別	内 容
60歳～69歳	女性	家事や育児を男女平等にすべきだというのはその通りと思う一方で、専業主婦が寝る間もないほど忙しい夫にそれを要求しているのには違和感を感じる
80歳以上	女性	結婚しても嫌になったからと離婚する若い人が多いが、お互いに助け合い人生を送ってほしい

## （3）子育て

年 齢	性別	内 容
30歳～39歳	女性	子育て支援を充実させてほしい
30歳～39歳	女性	
40歳～49歳	女性	
40歳～49歳	女性	
60歳～69歳	女性	
70歳～79歳	女性	
50歳～59歳	女性	子がある場合は出来るだけ育児・教育に努力すべき
60歳～69歳	男性	
70歳～79歳	女性	
30歳～39歳	女性	母子家庭に対して、もう少し手厚い制度や安心して利用出来る施設やサポート等があると仕事・家事・育児などが両立しやすい
30歳～39歳	女性	働く女性を応援するのであれば、土日の子の遊び場を開放し、相談できる人も配置してほしい

年 齢	性別	内 容
30歳～39歳	女性	病後児保育を市単位で整備し、女性が働きやすいシステム整備がされなければ、子育て世代の川西市への転入は敬遠されると思う
40歳～49歳	女性	学童保育はお弁当を支払うので給食センター等でお弁当を手配してほしい
40歳～49歳	女性	子が小さい間は子育てに専念出来る川西市であれば、愛情豊かな人生が送れ、そのお手伝いを川西市にしてもらえるとよい
60歳～69歳	男性	何を差し置いても育児施設を飛躍的に充実させられれば、かなりの問題が解消されると思う
70歳～79歳	女性	子育ては片手間では出来ない大切な仕事であり、男性も自分を磨き知性と愛情を持った人間として努力すべき
70歳～79歳	女性	立派な子を育てることは一番社会のためになり、自分の能力を高め自分にあった仕事をすればよい
80歳以上	女性	自分達で子を立派な人間にするため、愛情を持って育児に専念してほしい

#### (4) 介 護

年 齢	性別	内 容
40歳～49歳	女性	国や市の公的機関がしっかりとしなければ福祉とは言えない
80歳以上	男性	介護保険制度は現世に悪人を作る悪法

#### (5) 仕 事

年 齢	性別	内 容
20歳～29歳	女性	小さい子がいる母親はパートタイマーでもかなり肩身の狭い思いをしており、先々変わらないのであれば、妻が子育てしながらの就労をしなくても良いように、夫の給与を十分に支払ってほしい
30歳～39歳	男性	職業難が男女差別やセクハラやDVを生み出している要因となっていると思う
40歳～49歳	女性	働き続けるため、公共の福祉がもっと充実してほしい
40歳～49歳	女性	日本の宝である子達が親の愛情や地域の大人の愛情をもっともっと感じられる社会になれるとよい
50歳～59歳	女性	仕事を続けたい女性ならば、子の幸せのためにも子を産むべきではない
60歳～69歳	女性	定年後で今少し仕事社会にタッチしていたいとも思うようになったが、年齢の壁で何かと行き詰まっている
60歳～69歳	男性	保育所の充実や女性中心企業の設立等の事業の推進に取り組んだ方が、より目標感や市民の納得感が得られる
60歳～69歳	男性	子を持つ女性が働けるように職業数を増やし環境をつくることである
70歳～79歳	男性	労働条件整備等が充分されていない中で、女性が働いている姿を見ていると、周りにいる男性の理解と協力が何より必要となり、こうした面での啓発活動の中身が大事である

年 齢	性別	内 容
70歳～79歳	男性	瓦礫処理等に取り組む女性自衛官の姿をテレビで見たが、色々考えさせられた映像であり、世間も本人もそのことが自然なこととして受け止められる時代が来ることが大切である
80歳以上	男性	女性の事務能力は高い

## (6) ワーク・ライフ・バランス

年 齢	性別	内 容
50歳～59歳	女性	親を介護する介護者の年代（40～60代）は職場でもポジションがあり、仕事の負担も多大、介護離職では経済面と将来の人生設計が不透明で焦燥感や行き詰まり感があるため、ワーク・ライフ・バランスの支援を期待している
60歳～69歳	女性	これから少しずつボランティアにも参加し、何も知らない者でも社会や家庭にプラスになるような事が出来るとよい

## (7) 性と人権

年 齢	性別	内 容
60歳～69歳	女性	名称は知っていたが、どんな施策をどのように具体的に展開されているのか知らなかった
70歳～79歳	男性	
16歳～19歳	男性	『セクハラ』という言葉について範囲が広いため、範囲ごとに名称をつければ、セクハラする側にもわかりやすく、防止に繋がると思うし、系統分けにより、説明する側も説明しやすくなると思う
16歳～19歳	男性	様々な場面で差別のない社会となるような政策・条例を出していただきたい
20歳～29歳	女性	少女の父親からの性的暴行等の相談が出来る市であってほしい
20歳～29歳	男性	現在の何でもかんでも『差別』だとか『セクハラ』だと騒ぎ立てる世間に、恐怖と異常性を感じる
30歳～39歳	男性	DVや性的嫌がらせに関し、相談窓口だけでなく、実際の解決のため現場に踏み込む必要がある
30歳～39歳	男性	市役所にDVセクハラ相談窓口があれば十分であり、税金の無駄遣いはやめてほしい
60歳～69歳	女性	職場では暴言やののしりがあり、家庭に帰っても引きずり夜も眠れなく、次の日不安で何も手がつけられないが、相談をすれば後が怖い
60歳～69歳	女性	セクハラやDVは必ずしも女性が被害者であるとは限らず、暴力は男性が多いかもしれないが、言葉や精神的な暴力は女性が加害者になっているケースが多く見受けられるため、男女ともに相手を思いやる優しさが必要なのではないか
60歳～69歳	女性	男女共同参画という名前がよくわかりにくく、親しみのあるネーミングになるとよい
60歳～69歳	女性	積極的に色々なことを進めるべき
60歳～69歳	男性	一番の問題は男性側の意識の問題だが、これは法・制度をより適切に、曖昧にせず施用することになり徐々に変化していくと思う

## (8) 男女共同参画政策

### ●施 策

年 齢	性別	内 容
20歳～29歳	女性	よく男女平等と言われているが、全く違っており社会も地域も全然良くなっていない
20歳～29歳	女性	社会に出てみて、男女間の格差やセクハラ等どれだけ法律や制度があっても、問題は山積みであることを実感した
20歳～29歳	男性	何気ない関わり合いにも遠慮や配慮が必要になってしまうような締め付けは、共同参画でも何でもなく言った者勝ち社会になると考える
20歳～29歳	男性	本当の男女平等に川西市は向かってほしい
30歳～39歳	女性	子を産むまでは、女性にも男性にも同じように働くことが平等であると思っていたが、性別の区別があるように役割があるのではないかと思う
30歳～39歳	女性	男性・女性がお互いに個性を尊重し思いやりを持って生きていける社会・家庭・職場であってほしい
30歳～39歳	男性	女性の立場を壊しているのは女性自身に見え、最近では女性の立場を利用し男性が被害に遭う方が多い
30歳～39歳	男性	男性しか出来ない仕事、女性にしか出来ない仕事、男女差をつける仕事があることを否定出来ず、それを差別とは言えない
30歳～39歳	男性	男女の特性を理解し分別したことを前提とし、共同して行ない差別をなくすべきである
40歳～49歳	男性	女性の社会参画も男性の育児・家事参画も必要であるが、企業の姿勢（残業が前提の業務スタイルや有給休暇の未消化等）が最大の問題であり、労働環境の改善と法規制取り締まり強化が必要
50歳～59歳	女性	60歳前後やそれ以上の男性は、自立し一人でも家のことをできるように社会全体で意識改革をしてほしい
50歳～59歳	女性	基本は女性が安全で安心して日常生活を送ることができるようにしてほしい
50歳～59歳	女性	満16歳以上から高齢者まで、幅広く参加出来、もっと具体的に指導をお願いし活動出来る施策であってほしい
50歳～59歳	男性	男女共同参画施策にはしっかりとした人を人選し行なってほしい
50歳～59歳	男性	男性が女性を対等のパートナーと位置付け、女性が社会参画への意欲を持って、女性の社会への参画がもっと行なわれるべきと考える
60歳～69歳	女性	必要なく、税金の無駄遣いであるため、廃止してほしい
60歳～69歳	女性	家庭が一番の人間形成の基本であるため、家庭をしっかり守る男性と、それを補助する女性のバランスで社会に出れば平等という程度でよい
60歳～69歳	女性	私達の時代からすると、家庭生活よく手伝っていると思うため、男女共同参画の増々の向上発展を願っている
60歳～69歳	女性	今の複雑な社会において益々その必要性が増していくと思う
60歳～69歳	女性	制度が充実発展し住みよい川西市になるよう希望する
60歳～69歳	男性	女性はどうしても肉体的・社会的の両方で弱いため、男性としては充分理解し大切にすることが一番重要である
60歳～69歳	男性	川西市はもっと力をいれて施策を行なってほしい
60歳～69歳	男性	幸せな家庭生活を過ごせるよう川西市独自の施策を考案し実施、多くの市民が相談や参加しやすい活動をしてほしい

年 齢	性別	内 容
70歳～79歳	女性	男女とも自分を含め、家庭を基に社会の第一歩としてしっかり責任を持ち、恥じない社会人となってほしい
70歳～79歳	女性	女性は甘えすぎず、男性は威張らないで自立した人間として協力し頑張るべき
70歳～79歳	女性	感心・興味こそ個々のその溝を深めることができると思う
70歳～79歳	女性	今までの女性の立場から見ると男女共同参画は良いと思うが、これを強化すると結婚しない男女や離婚が増え、人口増加にも影響し、男女共同参画は変に誤解を生じる
70歳～79歳	女性	安心と安全のまちづくりをさらに充実してほしい
70歳～79歳	男性	年齢層によって考え方が異なると思われるが、現在では男女の差別はないように思う
70歳～79歳	男性	女性は弁がたつため、主張が強く、男女共同参画は進んでいる
70歳～79歳	男性	全く必要のないことと思うため即やめるべき
70歳～79歳	男性	活動は評価している
70歳～79歳	男性	あまりにも意識の低さに我ながら驚いている
70歳～79歳	男性	男女の社会的差別はあってはならないが、何もかも等しいということが正しいとは言えない
70歳～79歳	男性	私は後期高齢者となり、残念ながら男女共同参画については関心が薄いですが、推進はして欲しい
70歳～79歳	男性	男性女性を問わず、人として能力を発揮し自己実現出来るように施策を実施してほしい
70歳～79歳	男性	これからは女性をもっと社会的にも進出し、本来女性の持っている柔軟な発想等を取り上げ、社会に反映させることが大事であると思うため、社会への啓発も含めて具体的な施策の立案推進を願う
70歳～79歳	男性	日本の伝統を重んじた施策の拡充

### ●男女共同参画センター

年 齢	性別	内 容
50歳～59歳	女性	このアンケートにより川西男女共同参画センターのホームページを閲覧し、参加したいイベントが沢山あることがわかり驚いた
60歳～69歳	女性	男女共同参画センターの指定管理者は、啓発活動をする市民の育成や支援には手がまわらない状況のようだが、ならば行政が担い、教育委員会・人権推進課等とも連携しながら、市内公民館や学校とも繋がって男女共同参画を広めていければ、川西市で生活していて本当によかったと実感でき、次世代の子ども達も性別に関わりなく個性と能力を十分発揮出来るように成長していると思う
70歳～79歳	女性	場所は知っているが、男女共同参画センターとは知らなかった
70歳～79歳	女性	問 38 の事柄について、ひとつでも多く実行してほしい
70歳～79歳	男性	センターの方で川柳の募集時に、北欧での女性進出の様子を調べて知ったが、日本はまだまだだなぁと痛感した

### (9) 男女共同参画への関心

年 齢	性別	内 容
40歳～49歳	女性	男女共同参画施策について、機会があれば色々勉強してみようと思った
60歳～69歳		
70歳～79歳		
60歳～69歳	女性	これからは市の広報誌等を通じ少しずつ関心を持っていこうと思った
60歳～69歳		
60歳～69歳	男性	自分の周辺では特に問題とするようなケースを見聞きしたことがなく、関心が薄かったが、今後は関心を高め、できることから実践したい

### (10) 講演会、講習会の開催

年 齢	性別	内 容
20歳～29歳	男性	今の大人は教育というものを色々な意味で勘違いしていると思われるため、それを正せる講演等を開くとよい
30歳～39歳	女性	土日参加出来る講座を増やしてほしい
70歳～79歳	男性	講演会の開催

### (11) 情報提供

年 齢	性別	内 容
30歳～39歳	女性	活動のPRや情報提供をし、市民にわかりやすくしてほしい
30歳～39歳	男性	
40歳～49歳	男性	
50歳～59歳	男性	
70歳～79歳	男性	
70歳～79歳	男性	
70歳～79歳	男性	
80歳以上	男性	
16歳～19歳	女性	アンケートに答えるまで、川西市の男女共同参画施策について詳しく知らなかったため、もっと情報誌に書いてもらえるとありがたい
20歳～29歳	女性	女性は子どもを産んだ後に市役所へ行くが、その際にメール配信・子育てに役立つ行事、母親がゆっくり気晴らし出来る空間等の情報を知らせてほしい
20歳～29歳	女性	もっと情報発信や利用しやすさを感じるPRをしてほしい
30歳～39歳	女性	家庭に一度入ってしまった女性は、子育てがある程度落ち着くまで大幅に社会性が減り、孤立してしまうことが多いため、市で色々な事業や施設があるのであれば、大人や子ども、働いている、働いていないに関係なく、誰もが良く知っている状態にしてほしい
30歳～39歳	男性	引っ越して間もなく、詳しくわからないためパンフレットがほしい

年 齢	性別	内 容
40歳～49歳	男性	このような内容を改めて考える事ができたため、もう少し情報が入ってくるシステムが必要であると感じた
40歳～49歳	男性	各種施策がなされているようだが知らないことが多く、知らないことがいいのか、知っていくべきなのか根本的な所が欠如している
40歳～49歳	男性	社会的な問題とは認識しつつも直接関わっておらず、情報があふれている中で、間違っている情報を消去し、また新しい情報を粘り強く発信していく事が望まれる
60歳～69歳	女性	活動報告等が目に入りやすいようにしてほしい
60歳～69歳	男性	男女共同参画・人権・高齢者雇用等々、研修啓蒙・相談・機関紙発行等の重複感があるため集約を進めるべき
60歳～69歳	男性	自分も含め、男女共同参画については関心が低いと考えるため、機会あるごとの情報提供と、市民の意見要望が伝えられ生活の質的向上を望みたい
70歳～79歳	女性	公民館・自治会館・コミュニティで何か運営行事が行なわれた際、その中にその施策の話を時間の中に組み込み、アピールをして広め、広く知っていただく施策を公示してほしい
70歳～79歳	男性	男女共同参画施策の目的、実施項目の具体的内容がよくわからないためパンフレット等で知らせてほしい
70歳～79歳	男性	後期高齢者となり、男女の区別があまりなく人間として男女は同じなため、関心が深くなったので資料がほしい
70歳～79歳	男性	関係図書の配布

## (12) アンケート

年 齢	性別	内 容
50歳～59歳	女性	高齢者では答えられないため、若い人対象に調査した方がよいと思う
70歳～79歳	女性	
70歳～79歳	男性	
80歳以上	女性	
30歳～39歳	男性	このアンケートも良い取り組みだと思う
70歳～79歳	男性	
80歳以上	女性	
30歳～39歳	男性	色つきの紙は文字が読みづらくて困る
70歳～79歳		
80歳以上		
16歳～19歳	男性	アンケートの設問数が多すぎる
30歳～39歳	女性	
60歳～69歳	女性	認識不足のため何を書いたらよいかわからないため、これからは意識が持てるようにしたい
60歳～69歳	女性	
60歳～69歳	女性	あえて男女差を意識させるようなこの調査は疑問である
70歳～79歳	男性	

年 齢	性別	内 容
30歳～39歳	男性	マークシートにすれば用紙の量が減って節約になる
40歳～49歳	男性	無記名アンケートのため気楽に回答できた
50歳～59歳	女性	質問の内容自体が、とても答えにくく、企画サイドの視線ではなく、一般的生活やそれ以上に多様な個人をベースにした質問を設定すべき
70歳～79歳	男性	広く認識してもらうために市民全員調査対象にすればよいと思うが、無作為選択者と全員とのアンケートは内容を分けるとよいと思う
70歳～79歳	男性	調査体制や調査結果利用法、公表の有無等の取り扱い、誰がどのように解析し判断するのか等を最初に明示してほしい
70歳～79歳	男性	このような調査は、もっと前にあった方がよかったのではないか
80歳以上	女性	年齢制限を設けるべき（例：16～70歳の男女）
80歳以上	男性	年金生活者や女性に対する設問（問20・問30）は答えられないため、回答者をもう少し層分けして設問設定すべき（回答者：既婚者、夫婦のみの1世代世帯）

### (13) 行 政

年 齢	性別	内 容
40歳～49歳	男性	市で行なうより、国が行なうべき
40歳～49歳	男性	財政が苦しい時は節約と効率アップが基本であり、経済が活発になってから再開すればよい
60歳～69歳	女性	以前に比べ、男女共同参画へ専門的に関わる行政職員が少なくなった
60歳～69歳	男性	国・市等公的機関は、議員等頭のかたい人達の圧力に負けず頑張してほしい
60歳～69歳	男性	活動をしないといけないというやらされ仕事からの脱却

### (14) そ の 他

年 齢	性別	内 容
20歳～29歳	女性	より良くしようと思うのであれば、現場に出向き聞くべきである
30歳～39歳	女性	何をしているのかわかりにくい
30歳～39歳	女性	もっと交流出来る場を作ってほしい
50歳～59歳	男性	年々社会環境が変化し、人間関係もコミュニケーションが上手くとれず希薄になっている
70歳～79歳	男性	『パルティかわにし』のような場が駅近くにあれば、発表の場にもなるため作ってほしい
80歳以上	男性	共同参画という意味が理解出来ない（何に参画するのですか？）
80歳以上	男性	男女共同参画によせて、必ず勝つ不屈の闘志が現代の青年達がないように思う。まだ女子の方がましであるに過ぎない。それぞれの持場でBest 尽くされん事を切望する



## V. 資 料



# 1. アンケート調査票

## 川西市男女共同参画に関する市民意識調査

### ご協力をお願い

秋涼の候、皆さまには、日頃から市政にご理解とご協力をいただきありがとうございます  
ございます。

本市では、平成 15 年 3 月に策定した川西市男女共同参画プラン（平成 20 年 3 月改定）に基づき、男女が性別に関わらず個性と能力を発揮し、いきいきと暮らすことができる社会の実現に向けて、さまざまな取り組みを進めています。

今回の調査は、平成 24 年度にこのプランの見直しをするにあたり、市民の皆さまのお考えをお聞かせいただくために行なうものです。満 16 歳以上の女性 1,000 人、男性 1,000 人あわせて 2,000 人の方を無作為に選ばせていただきました。

この調査票に記入された事柄は、統計的に処理を行ない、調査の目的以外に使用したり、皆様のご迷惑になるようなことは一切ございません。

お忙しいところ誠に恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



平成 23（2011）年 11 月


川西市長 大塩 民生

### 🍎 調査票にご記入いただくうえでのご注意 🍎

- 宛名のご本人がご自分のご意見などをありのままにお答えください。
- 回答は、当てはまる選択肢を選んで、1・2・3・・・の数字に○をつけてください。
- 設問によっては、○をつける個数が決められていたり、回答していただく方が限られていたりするものがありますので、設問の指示に従ってお答えください。
- ご記入いただいた調査票は、11月30日（水）までに同封の返信用封筒に入れてご返送ください。切手は不要です。
- 11月21日（月）に、「ご返送のお願い」のハガキを対象者全員にお送りします。これは、調査票の回収率を上げ、できるだけ多くの方のご意見を施策に反映させるためのものです。無記名でのアンケートのため、それ以前にご返送いただいている方にもやむを得ずお送りすることになりますが、予めご了承ください。



お問い合わせ先 川西市 地域・相談課 TEL (740) 1105

 **男女の地位についてお聞きします。**

**問 1** あなたは、どのようなときに男女の地位が平等になっていると思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 家庭生活
2. 学校生活
3. 雇用機会や職場での賃金・待遇
4. 地域活動の場
5. 法律や制度上
6. 社会通念・習慣・しきたり
7. 政治・経済活動への参加
8. 社会全体

**ジェンダーって？**

社会的・文化的につくられた性差のことだよ。生物学的な性(セックス)とは区別して使われているよ。



**問 2** あなたは、ジェンダー問題や男女共同参画がどういうものなのかを学んだり、教えられたりしたことがありますか。(どちらか1つに○)

1. ある


2. ない

→ 問4へお進みください。

↓  
〔問2で「1. ある」と答えた方におたずねします。〕

**問 3** それはどこですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家庭で
2. 小学校で
3. 中学校で
4. 高等学校で
5. 大学で
6. 職場で
7. 自主的な学習グループで
8. 新聞やテレビなどマス・メディアで
9. 民間のカルチャーセンターで
10. 公民館などの講座で
11. 川西市男女共同参画センターが主催する講座で
12. 県や他市の男女共同参画(女性)センターなどが主催する講座で
13. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)


 **結婚と家庭生活についてお聞きします。**

**問4** あなたは結婚・離婚・家庭についてどう思いますか。  
 (①～⑤のそれぞれについて、1か2に○)

	そう思う	そう 思わない
① 人間の幸福は結婚にあるのだから結婚した方がよい	1	2
② 結婚しても相手に満足できない時は離婚すればよい	1	2
③ 結婚しても夫婦別姓の方がよい	1	2
④ 入籍せずパートナーとして暮らすのがよい	1	2
⑤ 夫は外で仕事をし、妻は家事・育児など家庭を守るのがよい	1	2


**問5** あなたの家庭では、次のようなことを主に誰が担っていますか（未婚の方は親の場合で考えてください）。(①～⑩のそれぞれについて、1～4の中であてはまるもの1つに○)

	主として夫	夫婦同程度	主として妻	その他の人 (夫婦以外の 家族など)
① 洗濯	1	2	3	4
② 食事のしたく	1	2	3	4
③ 食事の後片付け	1	2	3	4
④ 家のそうじ（風呂除く）	1	2	3	4
⑤ 風呂のそうじ	1	2	3	4
⑥ 日常のゴミ捨て	1	2	3	4
⑦ 生活費の確保	1	2	3	4
⑧ 日常の家計管理	1	2	3	4
⑨ 日常の買い物	1	2	3	4
⑩ 家庭における重要な決定	1	2	3	4

 **子育てについてお聞きします。**

**問6** 子育てについてあなたはどのように思いますか。(①～⑦のそれぞれについて、1か2に○)

	そう思う	そう 思わない
① 祖父母、保育士等父母以外の多くの人々が子育てに関わるのがよい	1	2
② 3歳までは、母親が子育てに専念するべきである	1	2
③ 子育ては、夫も妻も等分に関わるのがよい	1	2
④ 男女とも、経済的自立ができるように育てるのがよい	1	2
⑤ 男女とも、家事・育児ができるように育てるのがよい	1	2
⑥ 個性を伸ばし、個人を尊重する育て方がよい	1	2
⑦ 女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい	1	2

 **介護についてお聞きします。**

**問7** あなたは今、家族の誰かを介護していますか。または介護をしたことがありますか。  
(どちらか1つに○)

1. している(したことがある)

2. していない(したことがない)

→ **問10へお進みください。**

→ **〔問7で「1. している(したことがある)」と答えた方におたずねします。〕**

**問8** 介護した相手は誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 配偶者

2. 親

3. 子

4. 兄弟・姉妹

5. 祖父母

6. 配偶者の親

7. 配偶者の子

8. 配偶者の祖父母

9. その他(具体的に：

)

→ **〔問7で「1. している(したことがある)」と答えた方におたずねします。〕**

**問9** 介護はどのように行なっていますか(または行なっていましたか)。

(あてはまるもの1つに○)

1. 主に自分一人で介護している

2. 主に自分が介護しているが、配偶者、子ども、その他の家族などの協力がある

3. 主に他の人が介護しているのを手伝っている

4. サービスなどを利用しながら介護している


5. その他(具体的に：

)

**問 10** あなた自身が介護されるとしたら、主に誰に介護してもらいたいですか。  
 (希望する相手上位3つまでを順番に番号で記入)

1. 配偶者
2. 娘
3. 娘の夫
4. 息子
5. 息子の妻
6. 介護を仕事とする女性（ホームヘルパーなど）
7. 介護を仕事とする男性（ホームヘルパーなど）
8. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )

1番	
2番	
3番	

 **仕事についてお聞きします。**

**問 11** あなたは、現在、収入をとまなう仕事についていますか。産前・産後、育児介護休暇中の人は働いているものとみなします。（どちらか1つに〇）

1. 仕事をしている                      2. 仕事をしていない → **問 13**へお進みください。

〔問 11 で「1. 仕事をしている」と答えた方におたずねします。〕

**問 12** どのような仕事をしていますか。（あてはまるもの1つに〇）

- |                        |                   |
|------------------------|-------------------|
| 1. 営業主・会社経営            | 2. 家業手伝い（農林漁業を含む） |
| 3. 自由業者（弁護士・開業医・個人教師等） | 4. 内職など（在宅で受託）    |
| 5. 公務員等（私立学校教師含む）      | 6. 正社員            |
| 7. 臨時雇用・パート・アルバイト      | 8. 派遣社員           |
| 9. その他（ _____ )        |                   |

〔問 11 で「2. 仕事をしていない」と答えた方におたずねします。〕

**問 13** 仕事をしていない理由はなんですか。（あてはまるもの1つに〇）

- |                           |                     |
|---------------------------|---------------------|
| 1. 学校に通っているから             | 2. 家事・育児・介護に専念したいから |
| 3. 家事・育児・介護を担わざるを得ないから    | 4. 経済的に必要としないから     |
| 5. やりがいのある仕事がないから         | 6. リストウにあったから       |
| 7. 定年・高齢のため               | 8. 健康や体力に自信がないから    |
| 9. 趣味やボランティア等の活動をしているから   |                     |
| 10. 仕事を持たないほうが、自由に生きられるから |                     |
| 11. その他（具体的に： _____ )     |                     |







**問 21 あなたの希望に最も近いものはどれですか。(あてはまるもの1つに○)**

1. 「仕事」を優先したい → 問 23 へお進みください。
2. 「家庭生活」を優先したい
3. 「地域・個人の生活」を優先したい
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
8. わからない → 問 23 へお進みください。

〔問 21 で「2」～「7」と答えた方におたずねします。〕

**問 22 家庭生活や地域・個人の生活としては、どのようなことをしたいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)**

1. 家族と過ごす
2. 家事（食事のしたく・後片付け、そうじ、洗濯など）を手伝う
3. 子どもの世話や育児
4. 介護や看護
5. ボランティア活動や地域活動などの地域・社会活動
6. 学習や研究活動
7. 趣味・娯楽、スポーツなどの活動
8. 休養・睡眠
9. テレビ・ラジオ・新聞・雑誌などでくつろぐ
10. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )

**問 23 あなたは次のような活動をしていますか。(あてはまるものすべてに○)**

1. 県・市町の審議会・委員会などでの活動
2. 自治会・コミュニティ等の活動
3. P T A活動
4. 子ども会などの青少年育成活動
5. 青年団体・老人団体等の活動
6. 消費者団体・生活協同組合等の消費者活動
7. N P Oやボランティアなどの市民活動
8. その他の社会活動（具体的に： \_\_\_\_\_ )
9. 活動していない → 問 26 へお進みください。

問 24 へお進みください。



**問 27** あなたやあなたのまわりの方が学校・職場・地域活動等でセクシュアル・ハラスメントの被害にあわれたことがありますか。(あてはまるもの1つに○)

- 1. 自分自身が被害にあったことがある
- 2. 友人や職場の仲間など、自分のまわりに被害にあった人がいる
- 3. 具体的に相談を受けたことがある
- 4. 見たり聞いたりしたことはない → **問 29 へお進みください。**
- 5. その他(具体的に: )

〔問 27 で「1」「2」「3」「5」と答えた方におたずねします。〕

**問 28** あなたやあなたのまわりの方がセクシュアル・ハラスメントの被害にあわれたとき、あなたはどのような対応をしましたか。(あてはまるものすべてに○)

セクハラを行なった相手に直接抗議した	家族や友人に相談した	職場や学校の苦情処理機関や上司・教師などに訴えた	公的な相談機関に相談した	民間の相談機関に相談した	弁護士に相談した	裁判所に訴えた	警察に訴えた	何もできなかった	その他
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

**ドメスティック・バイオレンス (DV) って?**

夫や妻、恋人などからの暴力のことだよ。ただ、暴力といっても殴る、蹴るだけじゃなく、性的な暴力、ののしる、無視するなどの精神的な暴力、生活費を渡さないなどの経済的な暴力もあるんだ。



**問 29** あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」(通称: DV防止法)をご存じですか。(あてはまるもの1つに○)

- 1. 法律の内容までよく知っている
- 2. 名前は聞いたことがあり、ある程度知っている
- 3. 名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない
- 4. ほとんど知らない

**問 30** あなたはDV被害にあわれたことがありますか。(どちらか1つに○)

1. ある

2. ない → 問35へお進みください。

↓ [問30で「1. ある」と答えた方におたずねします。]

**問 31** あなたが受けたDVはどのような内容ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 「おれがいるときは外出しないように」と言う
2. 「誰のおかげで、おまえは食べられるんだ」と言う
3. 意に反して、性的行為を強要する
4. 殴ったり、蹴ったり、平手で打つなどする
5. 交友関係や電話を細かく監視する
6. 話しかけても無視して返事をしない
7. 生活していけないほどの小額なお金しか渡さない
8. その他(具体的に： \_\_\_\_\_ )

[問30で「1. ある」と答えた方におたずねします。]

**問 32** あなたがDVを受けたとき、どこかに相談しましたか。(どちらか1つに○)

1. はい

2. いいえ → 問34へお進みください。

↓ [問32で「1. はい」と答えた方におたずねします。]

**問 33** どこに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 警察
2. 公的機関
3. 家族・親戚
4. 友人・知人
5. その他(具体的に： \_\_\_\_\_ )

〔問32で「2. いいえ」と答えた方におたずねします。〕

**問34 相談しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)**

1. 誰(どこ)に相談してよいのかわからなかったから
2. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
3. 相談しても無駄だと思ったから
4. 相談したことがわかると、仕返しやもっとひどい暴力を受けると思ったから
5. 相談相手の言動により、不快な思いをさせられると思ったから
6. 自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから
7. 世間体が悪いと思ったから
8. 他人を巻き込みたくなかったから
9. 自分に悪いところがあると思ったから
10. 相談するほどのことではないと思ったから
11. その他(具体的に： )

**問35 DV被害を受けたときに相談できる機関や関係者のうち、あなたが知っているものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)**

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 1. 警察            | 2. 市役所          |
| 3. 川西市男女共同参画センター | 4. 兵庫県立女性家庭センター |
| 5. 民生児童委員        | 6. 人権擁護委員       |
| 7. 民間支援団体        | 8. 医師その他医療関係者   |
| 9. 教員その他学校関係者    |                 |
| 10. その他(具体的に： )  |                 |

**問36 現在、10代の子どもたちに人工中絶や性感染症があることは社会問題となっています。その増加をくい止めるためには、性と生殖に関する正しい知識を子どもたちに教えることが重要といわれていますが、あなたはどのように思われますか。(あてはまるものすべてに○)**

1. 間違った性情報があらゆるところで氾濫しているので、できるだけ早い時期に行なった方がよい
2. このような情報は早く知れば知るほど、子どもに悪影響を及ぼすので知らせない方がよい
3. 家庭で家族が、子どもの成長に応じて必要なことを教えていくのがよい
4. 学校で教師が、子どもの成長に応じて必要なことを教えていくのがよい
5. 学校では教えない方がよい
6. 保健所や保健センターなどが、積極的に教えていくのがよい
7. 国や自治体などの公共団体が積極的に、講座等を開き教えていくのがよい
8. 思春期になれば性に興味や関心を持つことは自然なことなので、あえて教える必要はない
9. その他(具体的に： )

男女共同参画施策についてお聞きします。



問 37 次の「ことば」や「ことば」を見たり聞いたりしたことがありますか。

(①～⑭のそれぞれについて、1～3の中であてはまるもの1つに○)

	よく 知って いる	聞いた ことが ある	知ら ない
① 川西市男女共同参画プラン（2003年策定）	1	2	3
② パレットかわにし（川西市男女共同参画センター）	1	2	3
③ 女性チャレンジひろば	1	2	3
④ 情報紙「せーの!」「HOPP」	1	2	3
⑤ 女性のための相談	1	2	3
⑥ 男女雇用機会均等法（1986年施行）	1	2	3
⑦ 女性差別撤廃条約（1979年採択）	1	2	3
⑧ 育児・介護休業法（1992年施行）	1	2	3
⑨ 男女共同参画社会基本法（1999年施行）	1	2	3
⑩ 改正配偶者暴力（DV）防止法（2004年施行）	1	2	3
⑪ ジェンダー（社会的、文化的性差）	1	2	3
⑫ ポジティブ・アクション	1	2	3
⑬ デートDV	1	2	3
⑭ 兵庫県男女共同参画社会づくり条例（2002年施行）	1	2	3

問 38 本市には男女共同参画を進めていくための拠点として川西市男女共同参画センターがありますが、あなたは、この男女共同参画センターにどのようなことを希望しますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 男女共同参画に関する図書や情報の収集・提供
2. 自主的な活動への助成・支援
3. 講座・学習時の保育支援
4. 「女性の悩みごと相談」などの相談事業の充実
5. セクハラ・DV被害者への相談・支援
6. 男女共同参画に関する講座の充実
7. ボランティア等の人材を育成する講座の充実
8. 就労を支援する講座の充実
9. 起業やNPO設立に関する相談
10. その他（



)







## 川西市男女共同参画に関する市民意識調査報告書

---

平成24（2012）年3月発行

川西市 市民生活部 市民環境室 地域・相談課

〒666-8501 川西市中央町12番1号

TEL (072) 740-1105

FAX (072) 740-1322

---